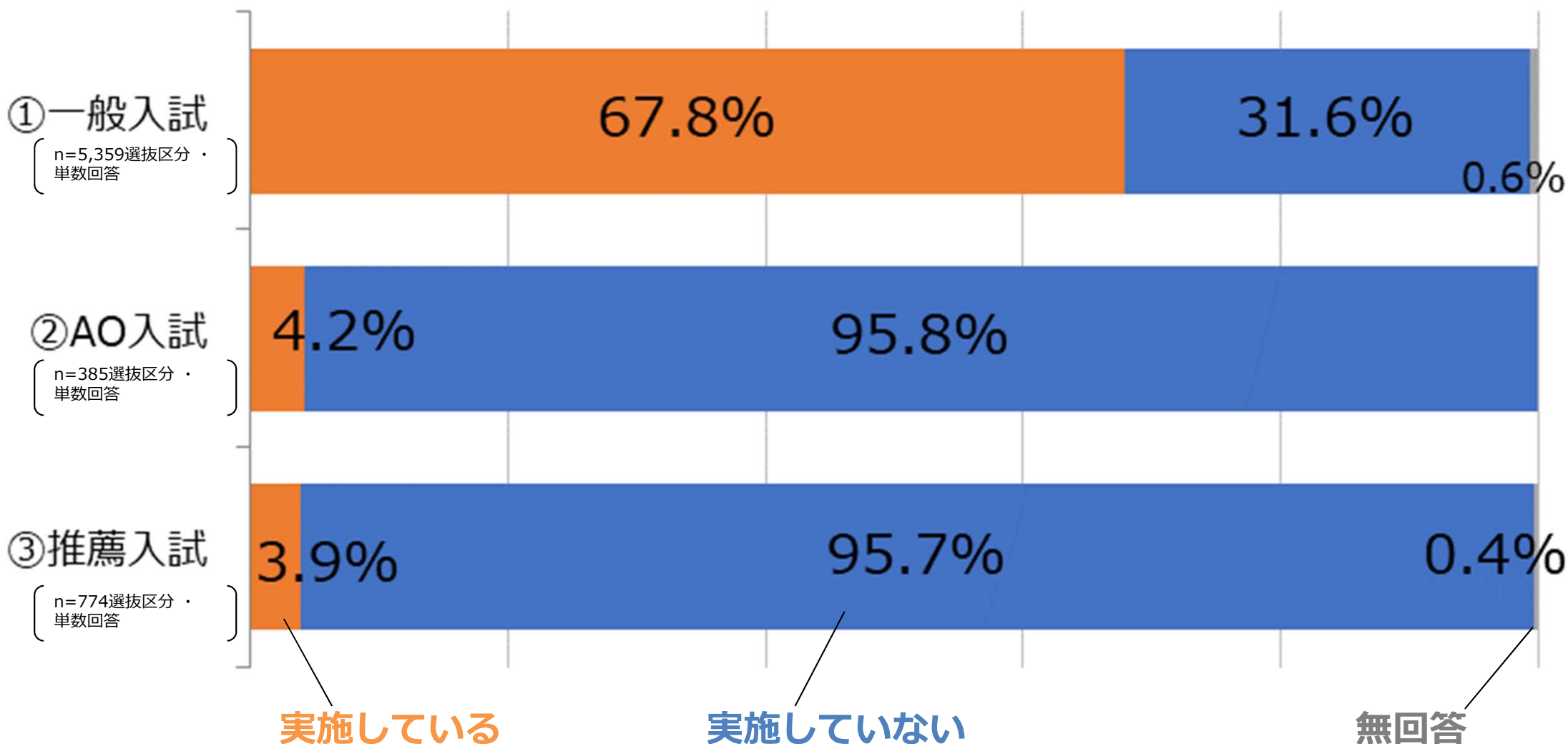


## 4. 個別選抜の実態

・ 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用あり） .....	60
・ 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用あり） .....	61
・ 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用なし） .....	62
・ 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用なし） .....	63
・ 一般入試において個別学力検査を実施する選抜区分の割合 .....	64
・ 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況 .....	65
・ 英語に係る技能別の出題の有無 .....	88
・ 小論文出題状況 .....	89
・ AO入試における学力把握措置 .....	90
・ 推薦入試における学力把握措置 .....	91
・ AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況 .....	92
・ 推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況 .....	93
・ 学力検査以外の資料等の考慮 .....	94
・ 学力検査以外に考慮する資料等の利用率 .....	95

# 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用あり）

センター試験を利用していると回答した選抜区分（n=6,527）のうち、更に、個別学力検査を実施しているのは、一般入試が67.8%（3,635選抜区分）、AO入試が4.2%（16選抜区分）、推薦入試が3.9%（30選抜区分）。



※ nはセンター試験のみで選抜を実施する選抜区分を含まない。

# 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用あり）

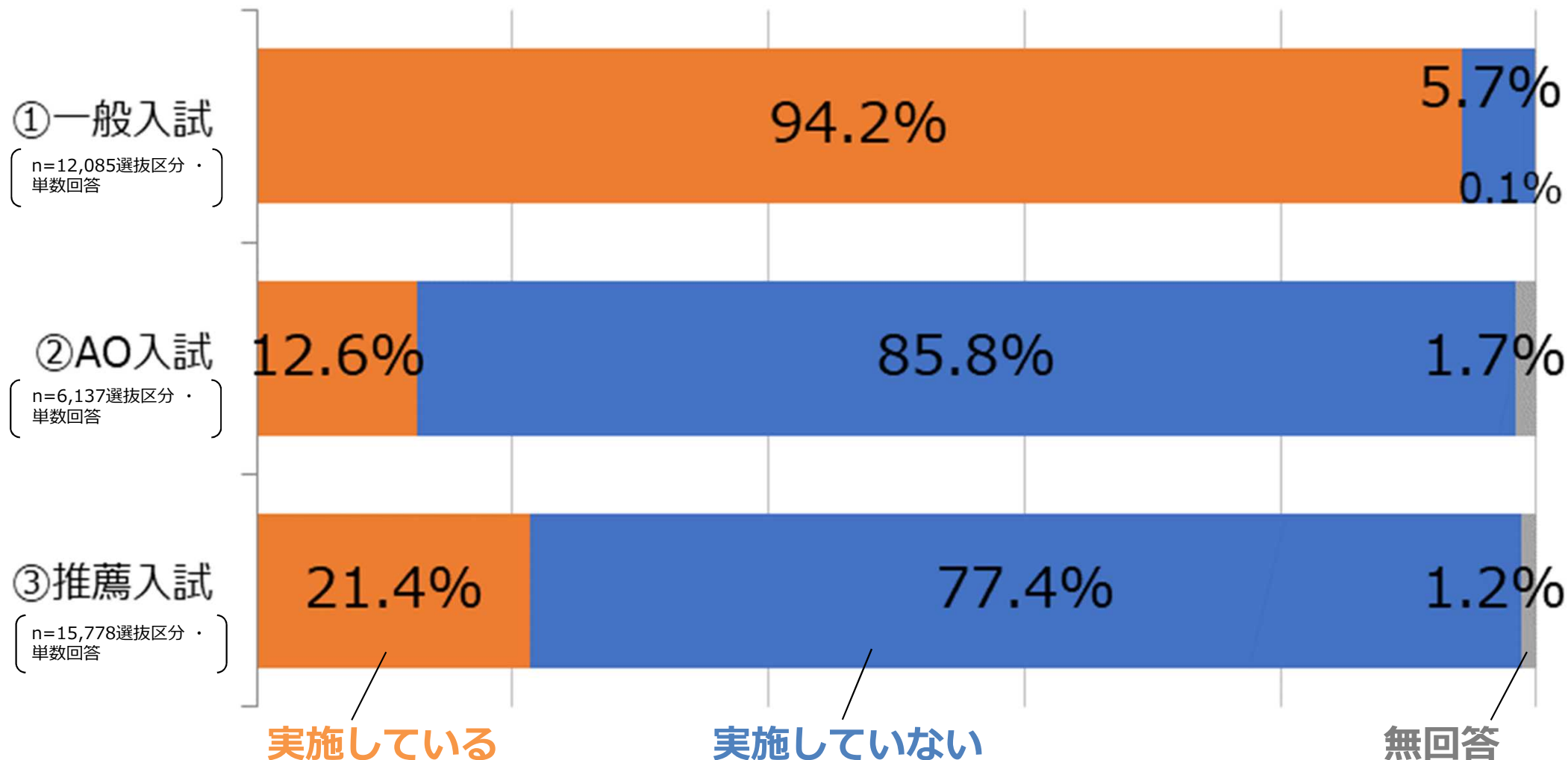
センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、国立大学では2・1・4科目、公立大学では1・2科目、私立大学では1・2科目が多い。

入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	無回答	平均科目数
一般入試	国立 (n=1,620選抜区分)	<b>30.9%</b>	<b>35.1%</b>	15.2%	<b>16.1%</b>	2.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.6%	<b>2.2</b>
	公立 (n=409選抜区分)	<b>45.0%</b>	<b>34.5%</b>	13.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	<b>1.8</b>
	私立 (n=1,606選抜区分)	<b>46.5%</b>	<b>34.6%</b>	17.5%	1.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	<b>1.7</b>
AO入試	国立 (n=13選抜区分)	<b>92.3%</b>	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.1</b>
	公立 (n=0選抜区分)										
	私立 (n=3選抜区分)	<b>66.7%</b>	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.3</b>
推薦入試	国立 (n=8選抜区分)	<b>75.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	<b>1.0</b>
	公立 (n=7選抜区分)	<b>71.4%</b>	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.6</b>
	私立 (n=15選抜区分)	<b>80.0%</b>	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.2</b>

※ nは、センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～8の選抜区分のみ集計

# 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用なし）

センター試験を利用していないと回答した選抜区分（n=34,114）のうち、個別学力検査を実施していないのは、一般入試が5.7%（690選抜区分）、AO入試が85.8%（5,263選抜区分）、推薦入試が77.4%（12,216選抜区分）。



# 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用なし）

センター試験を利用せず、個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、私立大学では2・3科目が多い。

入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	無回答	平均科目数
一般入試	国立 (n=0選抜区分)										
	公立 (n=1選抜区分)	0.0%	<b>100.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>2.0</b>
	私立 (n=11,386選抜区分)	7.8%	<b>49.2%</b>	<b>39.8%</b>	2.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.6%	<b>2.4</b>
AO入試	国立 (n=54選抜区分)	38.9%	<b>44.4%</b>	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.8</b>
	公立 (n=3選抜区分)	<b>66.7%</b>	<b>33.3%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.3</b>
	私立 (n=715選抜区分)	<b>44.2%</b>	<b>35.9%</b>	15.1%	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	<b>1.8</b>
推薦入試	国立 (n=28選抜区分)	<b>100.0%</b>	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	<b>1.0</b>
	公立 (n=63選抜区分)	<b>65.1%</b>	14.3%	1.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	<b>1.4</b>
	私立 (n=3,282選抜区分)	37.4%	<b>53.7%</b>	5.8%	0.7%	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	1.7%	<b>1.7</b>

※ nは、センター試験を利用せず、個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～8の選抜区分のみ集計

# 一般入試において個別学力検査を実施する選抜区分の割合

一般入試において個別学力検査を実施する選抜区分の割合は、国立大学で64.1%、公立大学で53.4%、私立大学で58.6%である。

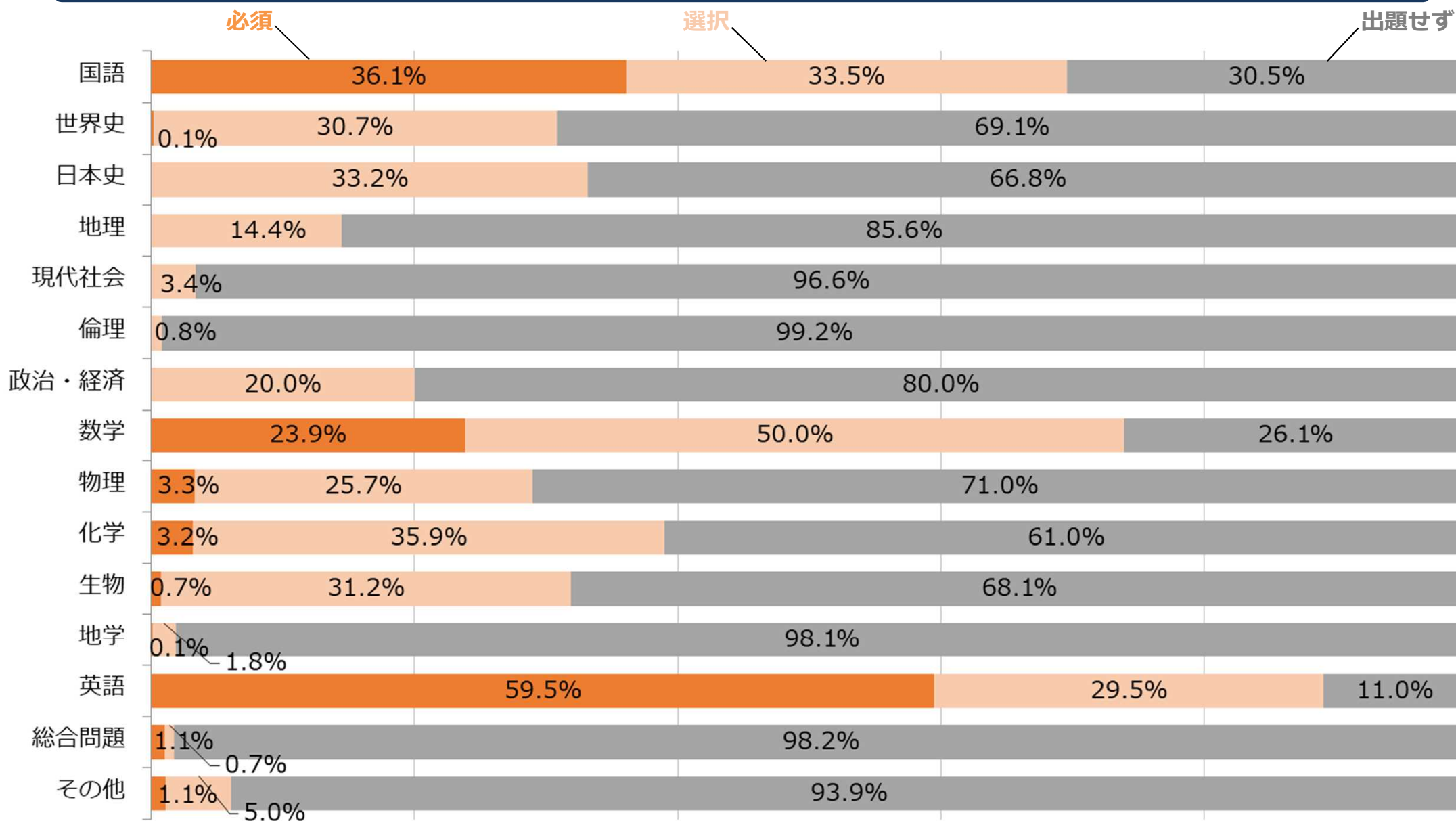
	①センター試験と個別学力検査の両方を課す選抜区分	②センター試験を課さず、個別学力検査のみを課す選抜区分	③センター試験を課した上で、個別学力検査以外の資料を考慮する選抜区分 ※個別学力検査は課さない	④センター試験のみを課す選抜区分	⑤センター試験も個別学力検査も課さず、個別学力検査以外の資料を考慮して選抜する選抜区分	計
国立大学	1,620 (64.1%)	0 (0.0%)	865 (34.2%)	42 (1.7%)	0 (0.0%)	2,527 (100%)
	個別学力検査実施 64.1%		個別学力検査実施なし 35.9%			
公立大学	409 (53.3%)	1 (0.1%)	309 (40.2%)	49 (6.4%)	0 (0.0%)	768 (100%)
	個別学力検査実施 53.4%		個別学力検査実施なし 46.6%			
私立大学	1,606 (7.2%)	11,386 (51.3%)	517 (2.3%)	7,985 (36.0%)	690 (3.2%)	22,184 (100%)
	個別学力検査実施 58.6%		個別学力検査実施なし 41.4%			
計	3,635 (14.3%)	11,387 (44.7%)	1,691 (6.6%)	8,076 (31.7%)	690 (2.7%)	25,479 (100%)
	個別学力検査実施 59.0%		個別学力検査実施なし 41.0%			

※ 本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。

※ 選抜方法が不明の選抜区分は除いている。

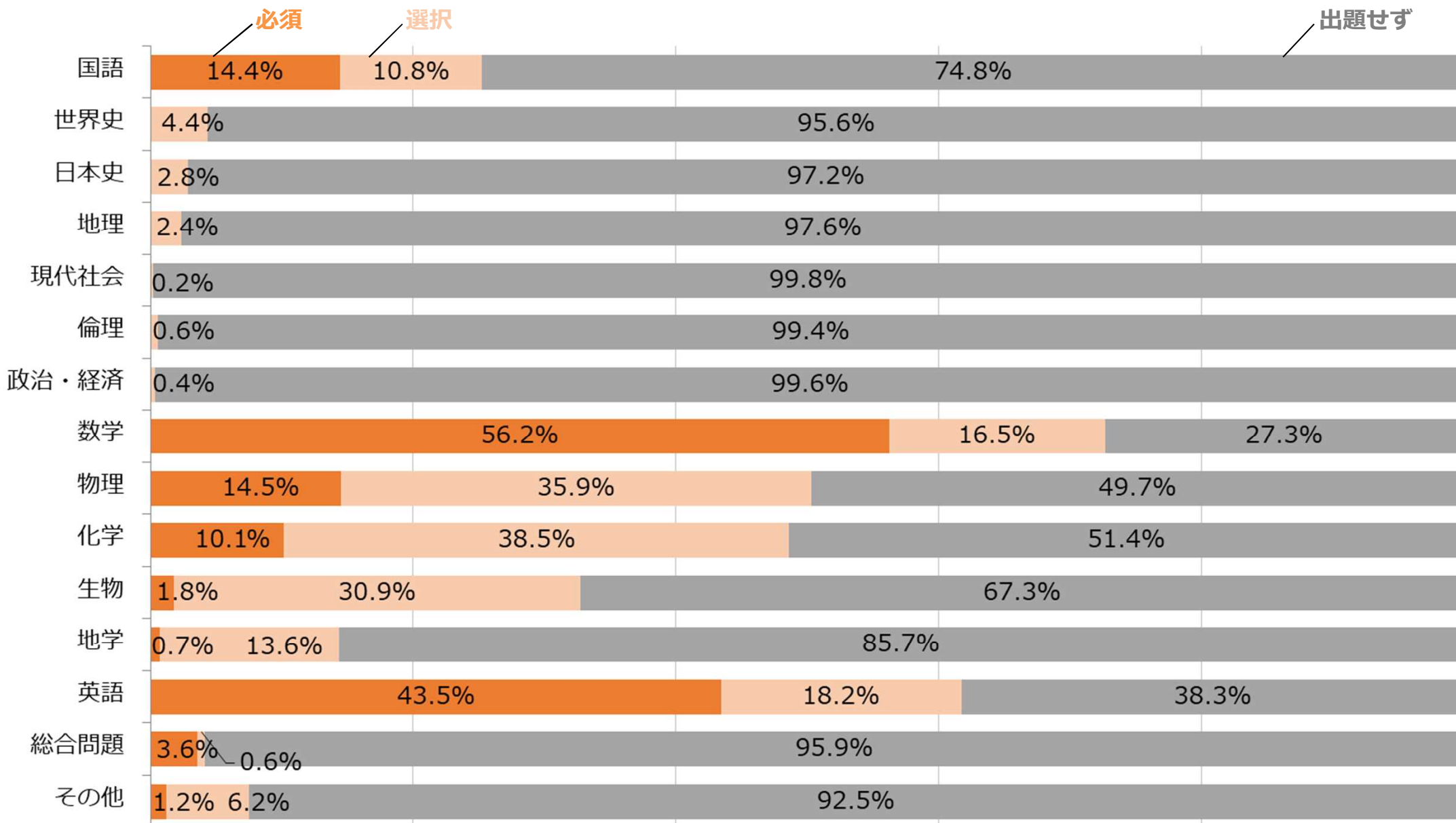
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況

一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 89.0%）、数学（同 73.9%）、国語（同 69.6%）を出題する選抜区分が多い。



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（国立大学）

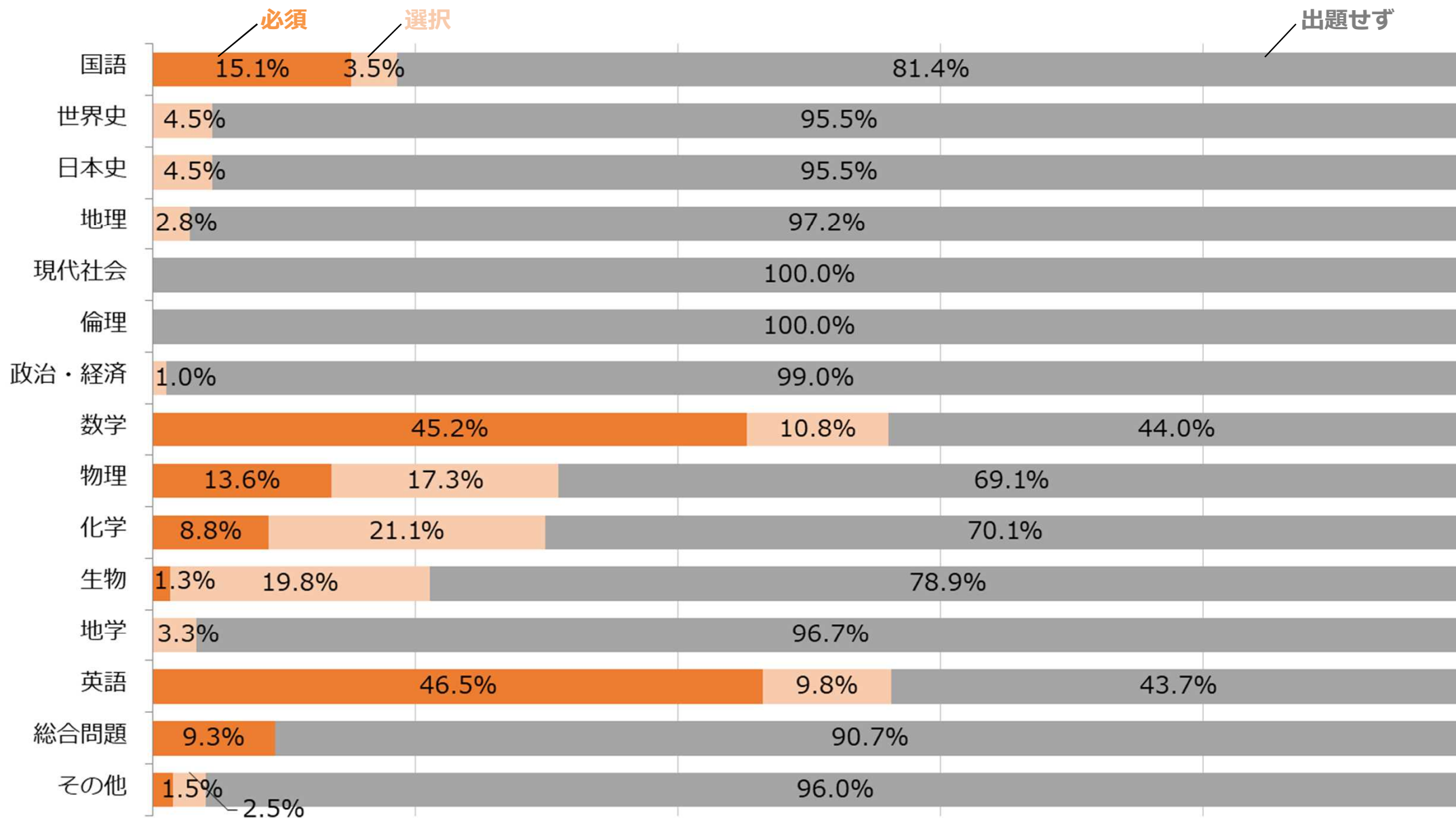
国立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須+選択 72.7%）、英語（同 61.7%）、物理（同 50.4%）を出題する選抜区分が多い。





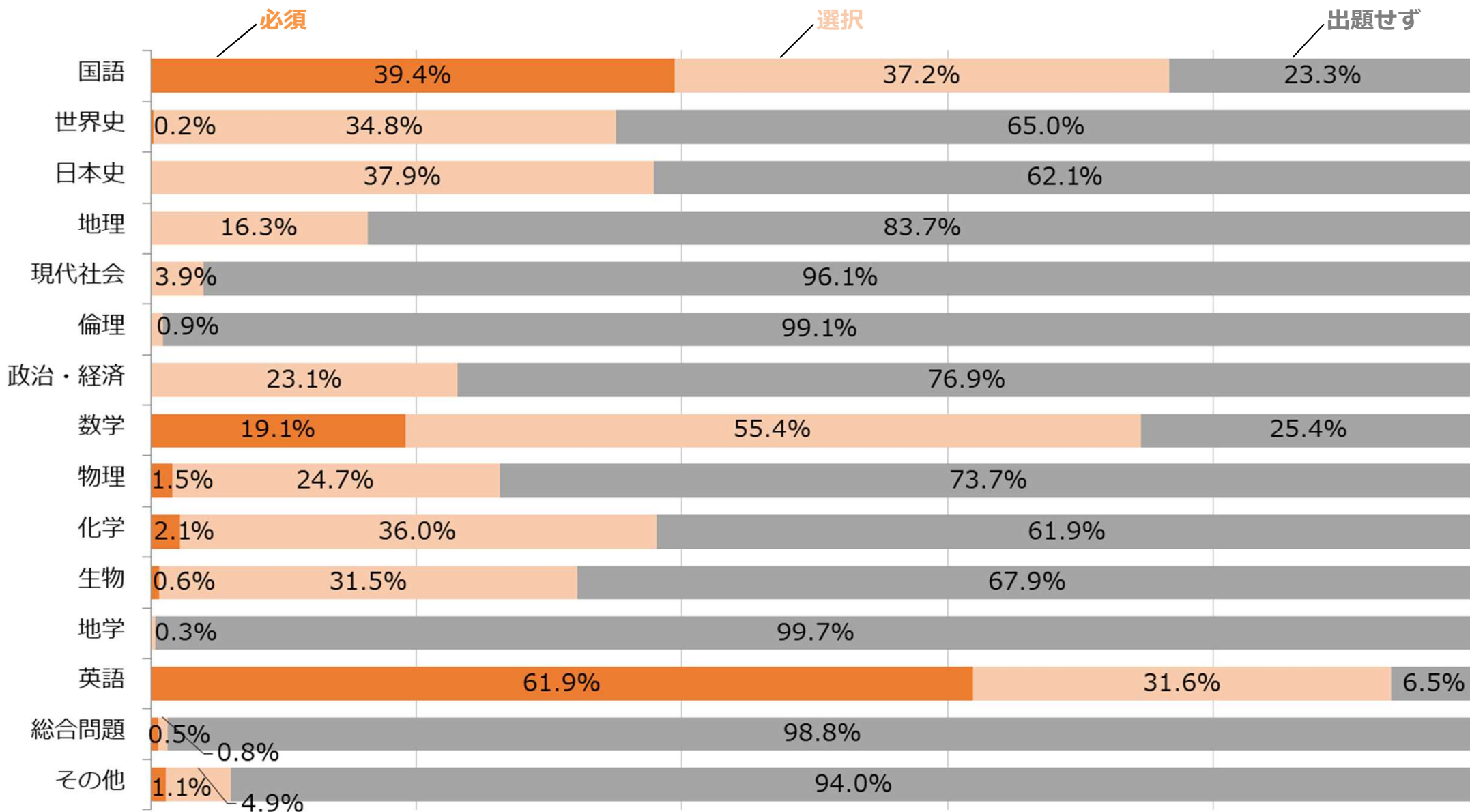
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（公立大学）

公立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須+選択 56.0%）、英語（同 56.3%）、物理（同 30.9%）を出題する選抜区分が多い。



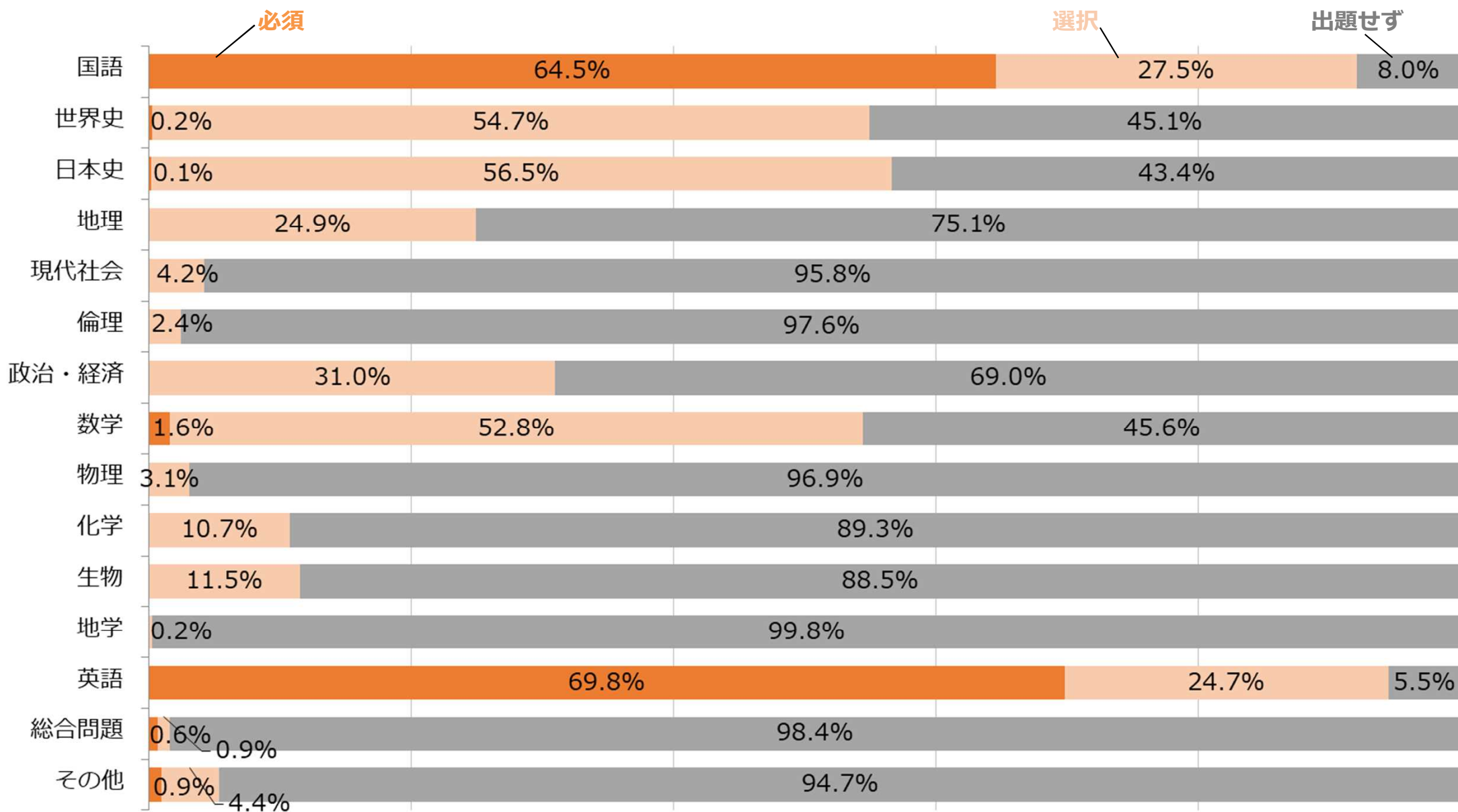
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（私立大学）

私立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 93.5%）、国語（同 76.6%）、数学（同 74.5%）を出題する選抜区分が多い。



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／人文科学）

人文科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 94.5%）、国語（同 92.0%）、日本史（同 56.6%）を出題する選抜区分が多い。

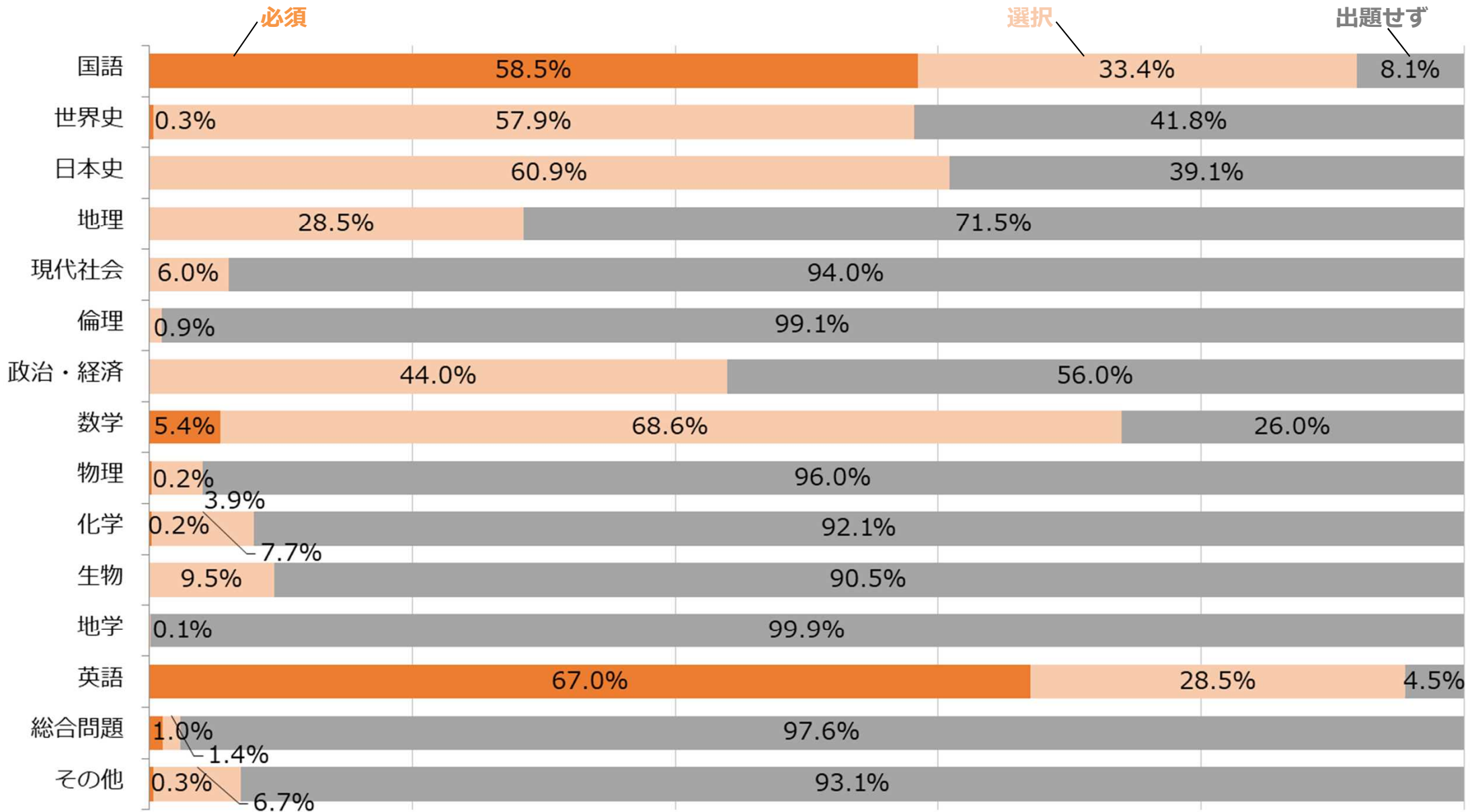


n=2,578選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／社会科学）

社会科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 95.5%）、国語（同 91.9%）、数学（同 74.0%）を出題する選抜区分が多い。

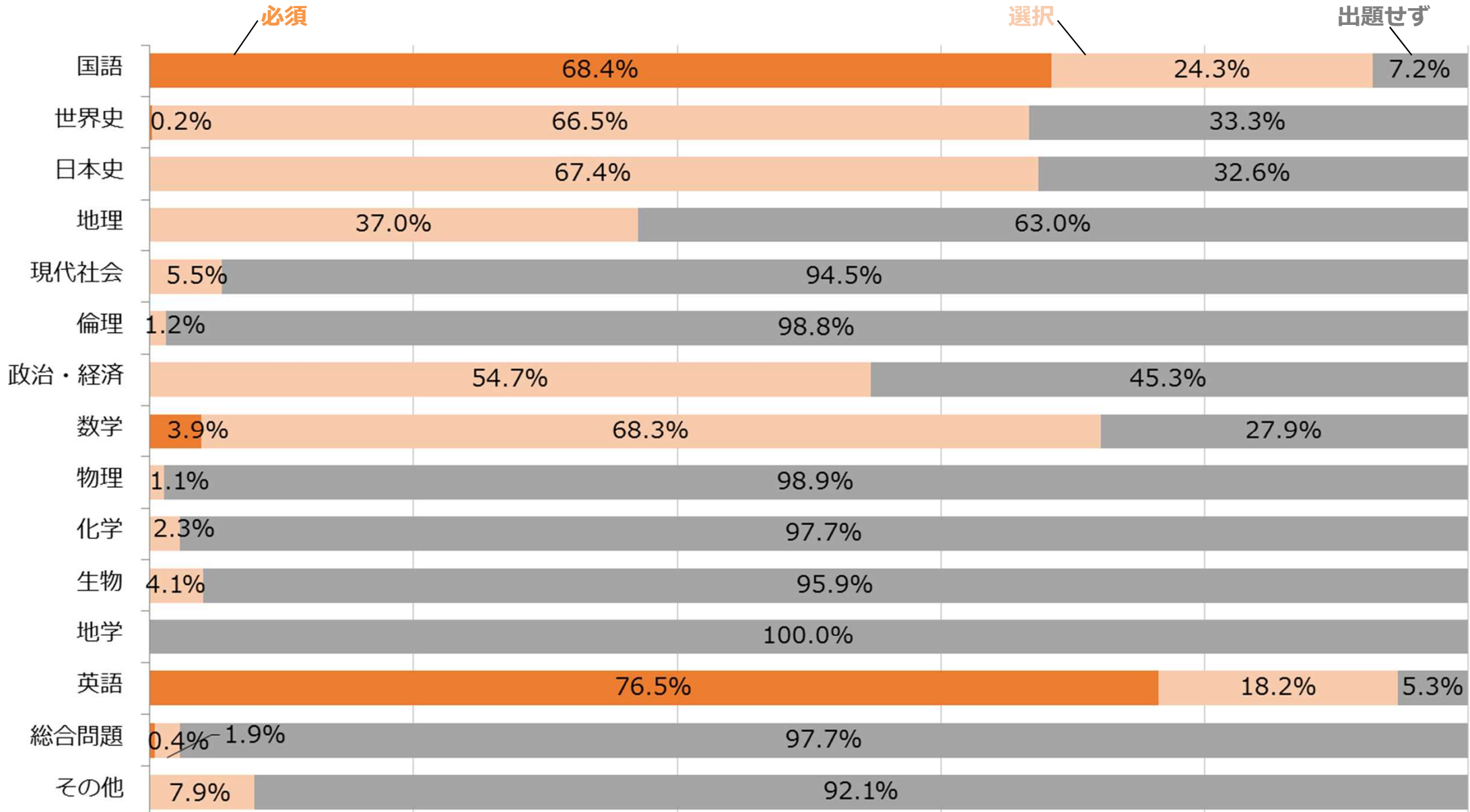


n=3,487選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（社会科学／法学・政治学関係）

社会科学系の学科のうち、法学・政治学関係において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 94.7%）、国語（同 92.7%）、数学（同 72.2%）を出題する選抜区分が多い。

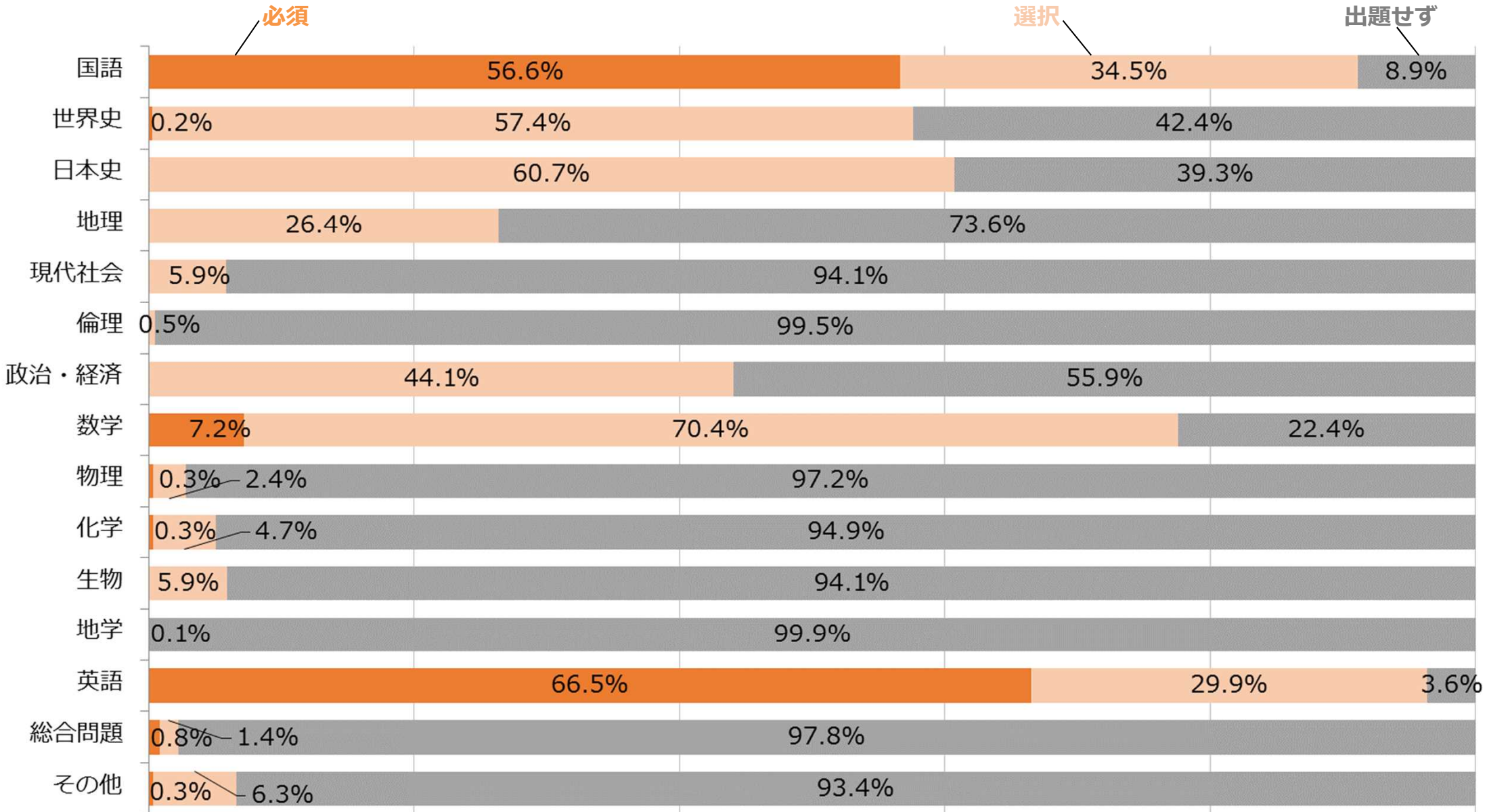


n=567選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（社会科学／商学・経済学関係）

社会科学系の学科のうち、商学・経済学関係において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 96.4%）、国語（同 91.1%）、数学（同 77.6%）を出題する選抜区分が多い。

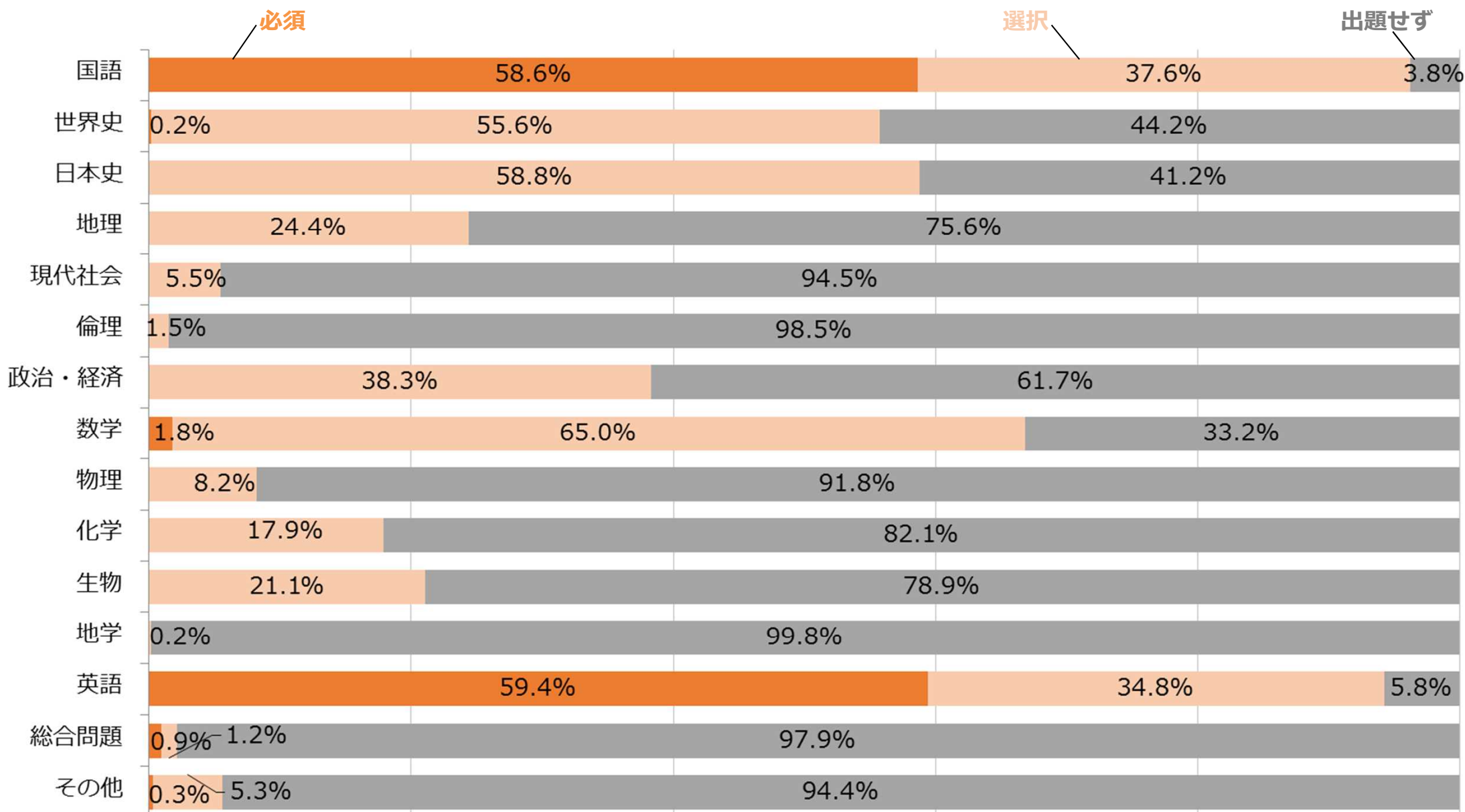


n=1,760選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（社会科学／社会学関係）

社会科学系の学科のうち、社会学関係において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、国語（必須+選択 96.2%）、英語（同 94.2%）、数学（同 66.8%）を出題する選抜区分が多い。

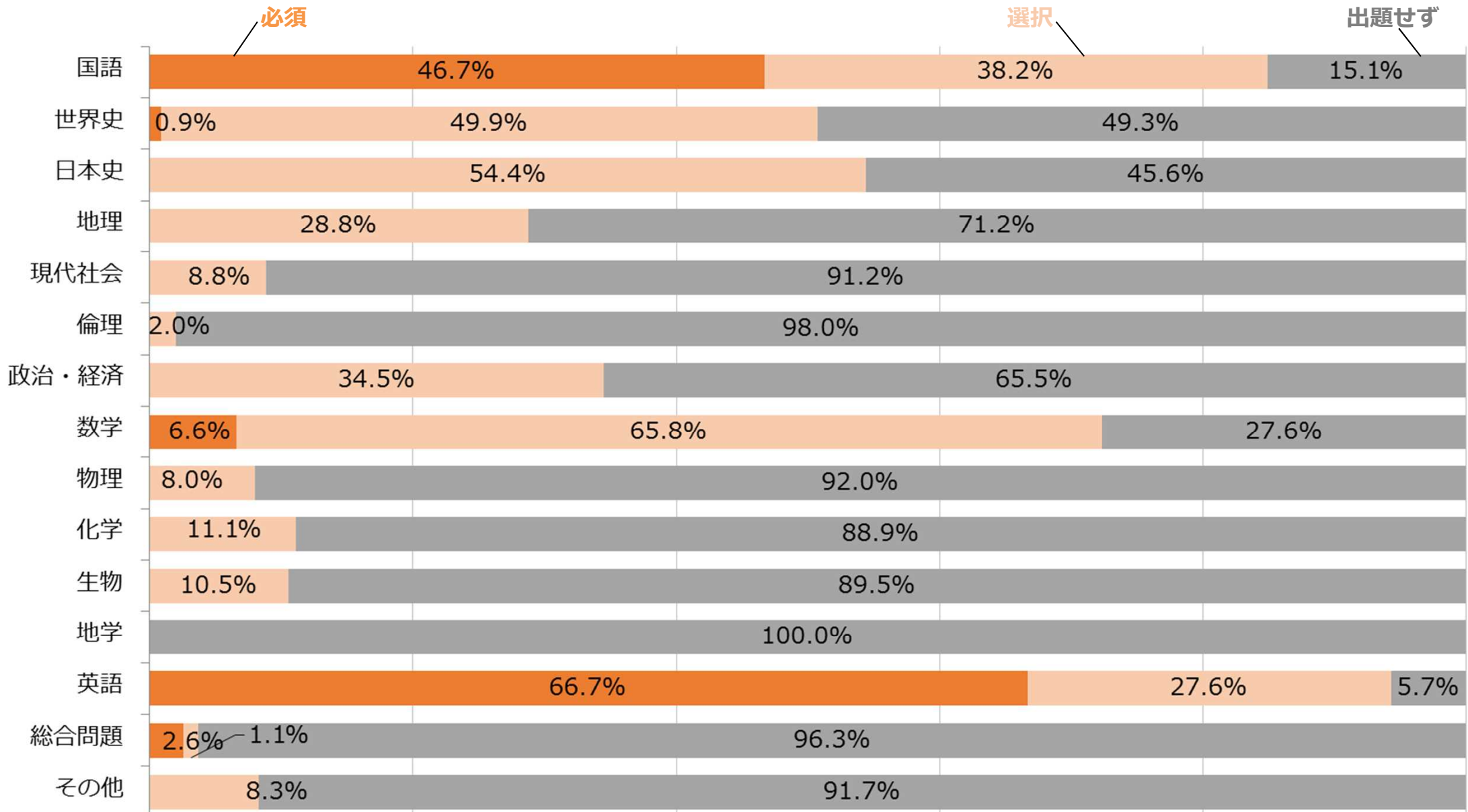


n=660選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（社会科学／社会科学その他）

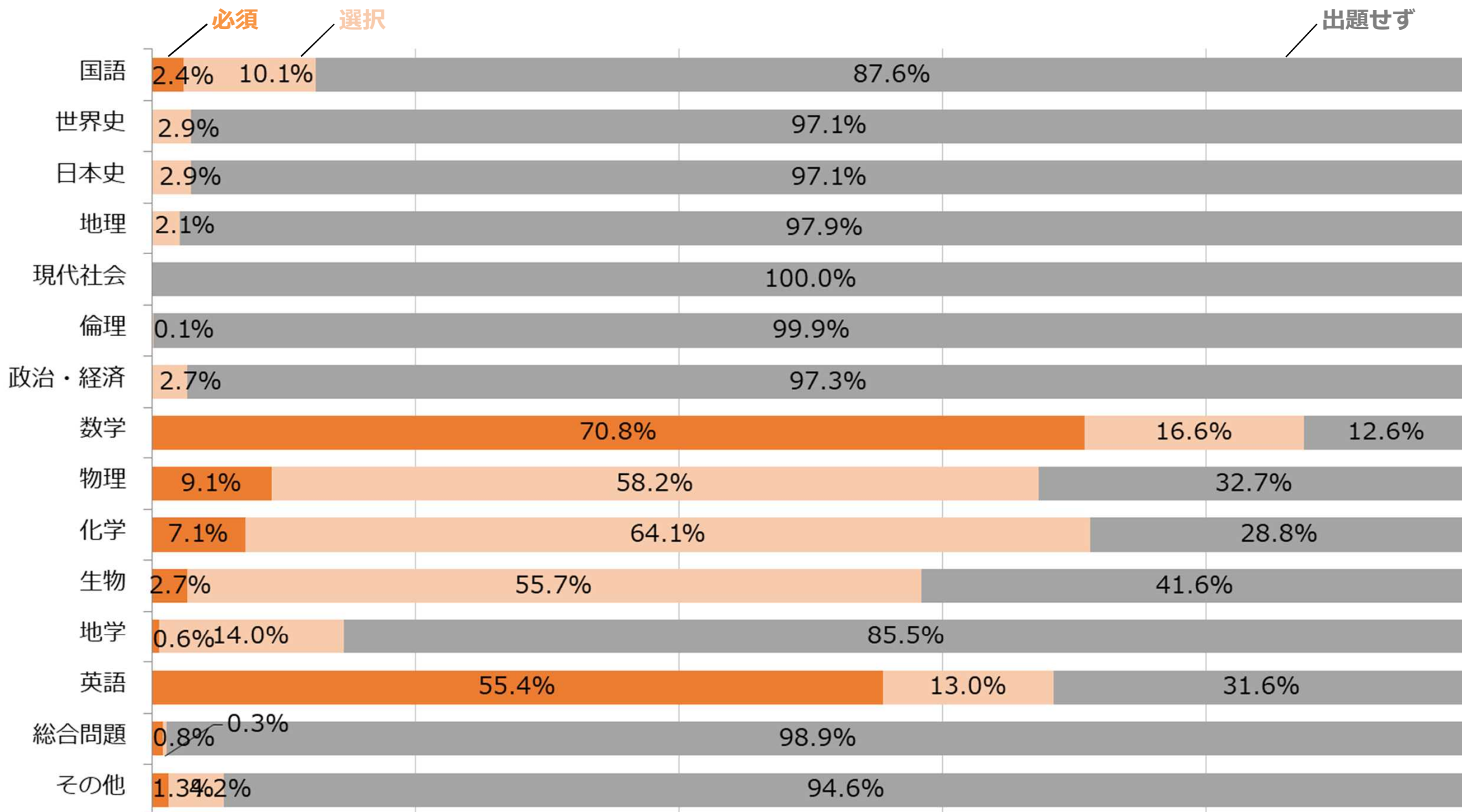
社会科学系の学科のうち、その他の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 94.3%）、国語（同 84.9%）、数学（同 72.4%）を出題する選抜区分が多い。





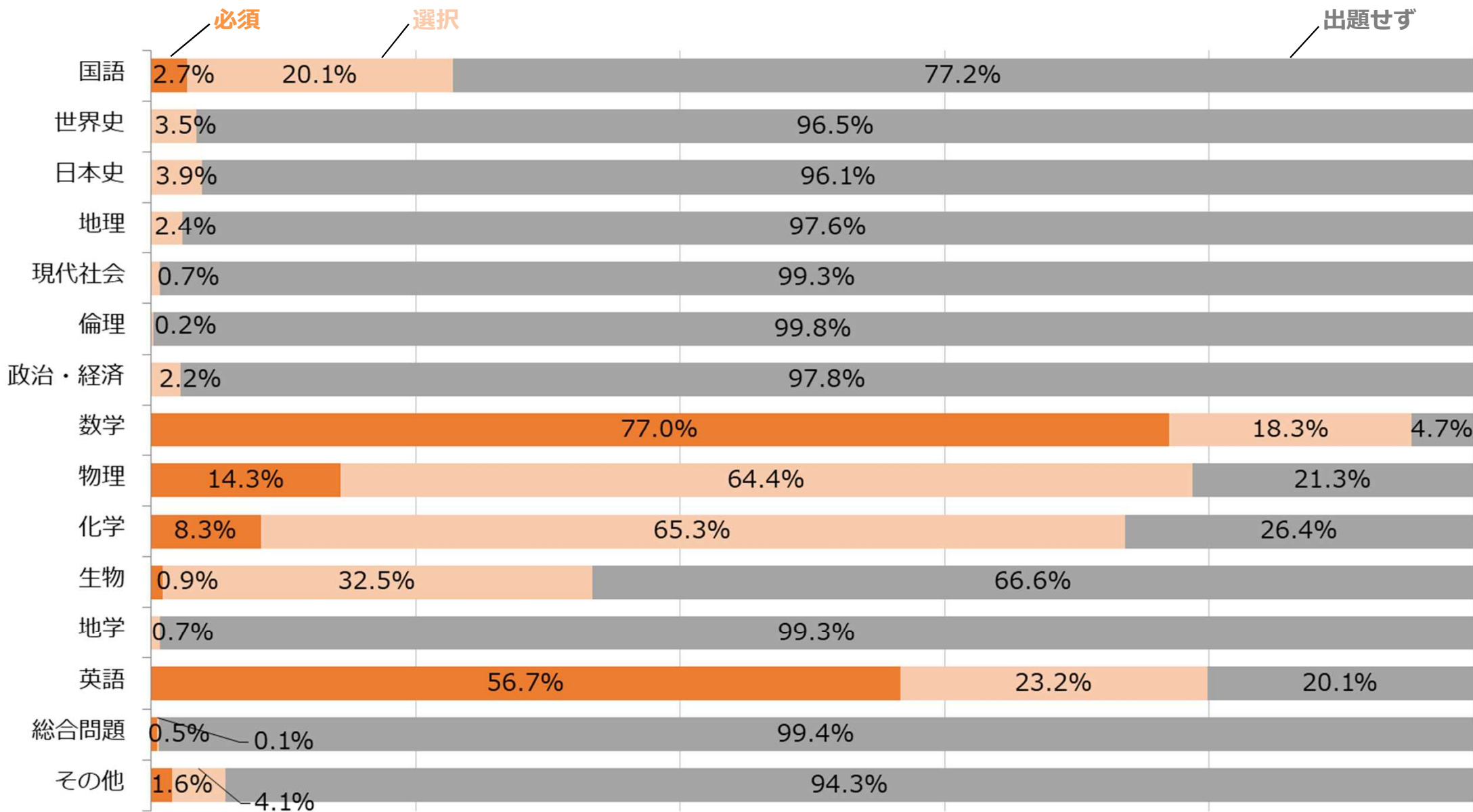
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／理学）

理学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須+選択 87.4%）、化学（71.2%）、物理（67.3%）を出題する選抜区分が多い。



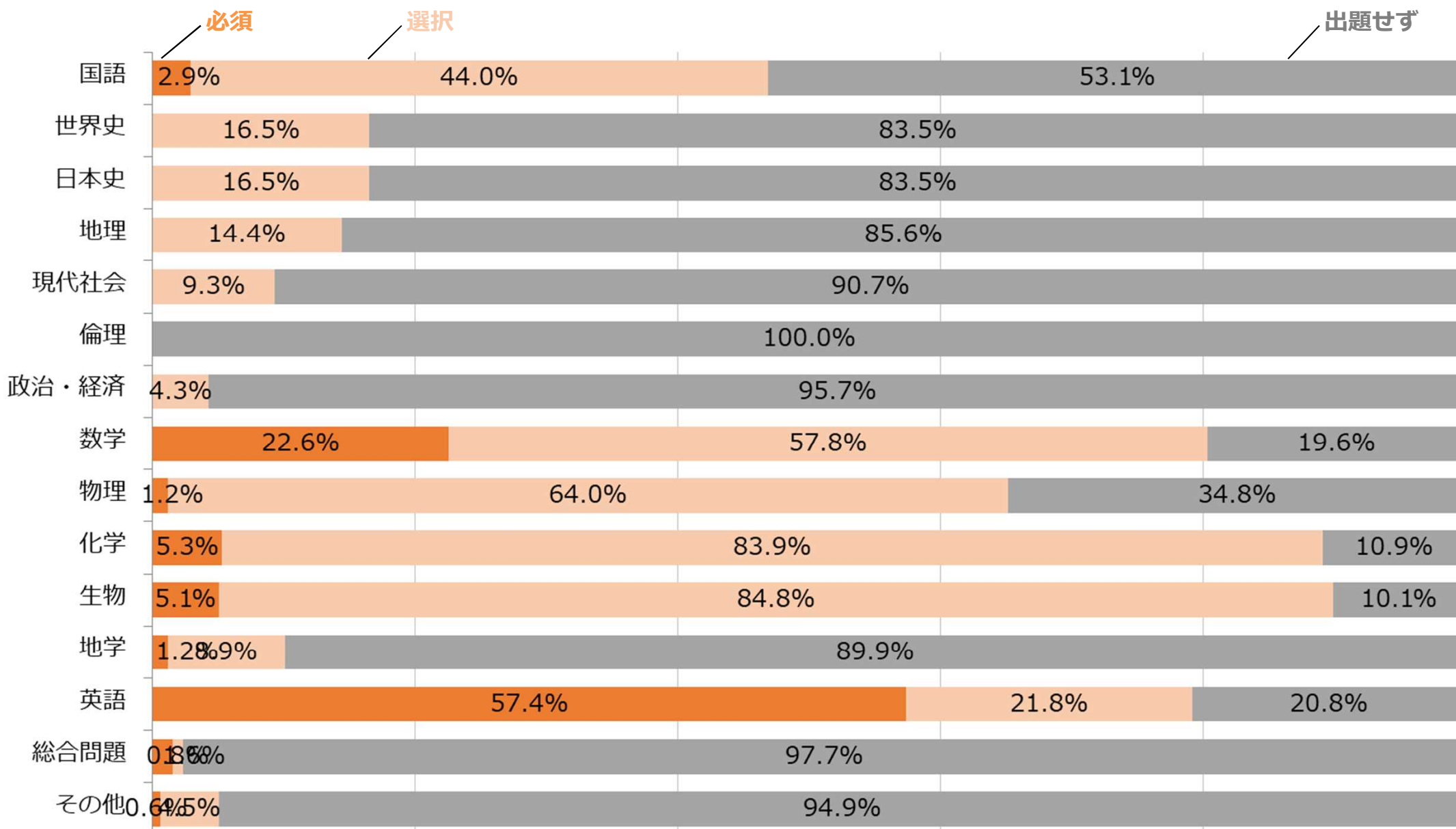
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／工学）

工学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須+選択 95.3%）、英語（同 79.9%）、物理（同 78.7%）を出題する選抜区分が多い。



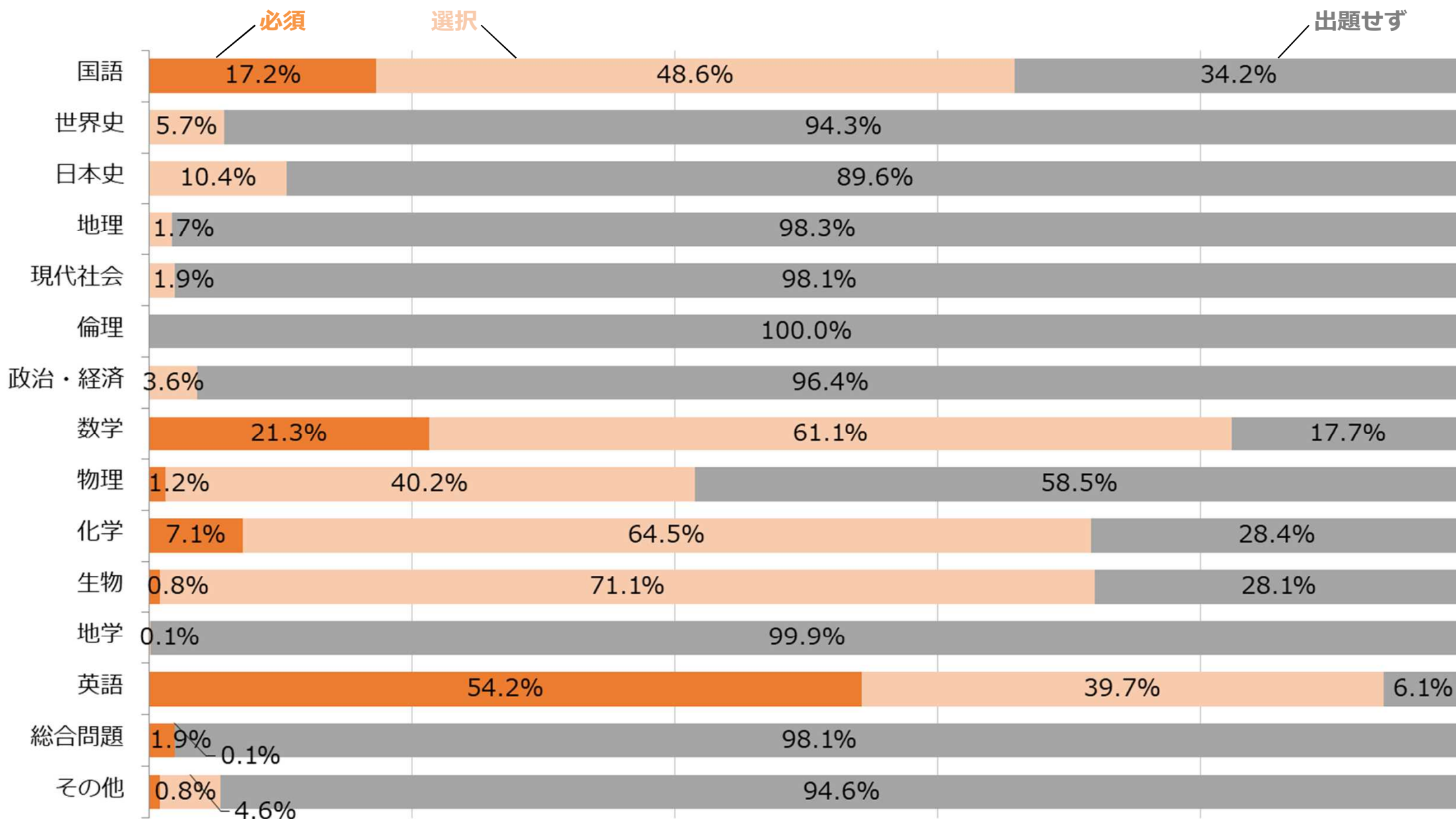
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／農学）

農学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、生物（必須+選択 89.9%）、化学（同 89.2%）、数学（同 80.4%）を出題する選抜区分が多い。



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／保健）

保健系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 93.9%）、数学（同 82.4%）、生物（同 71.9%）を出題する選抜区分が多い。

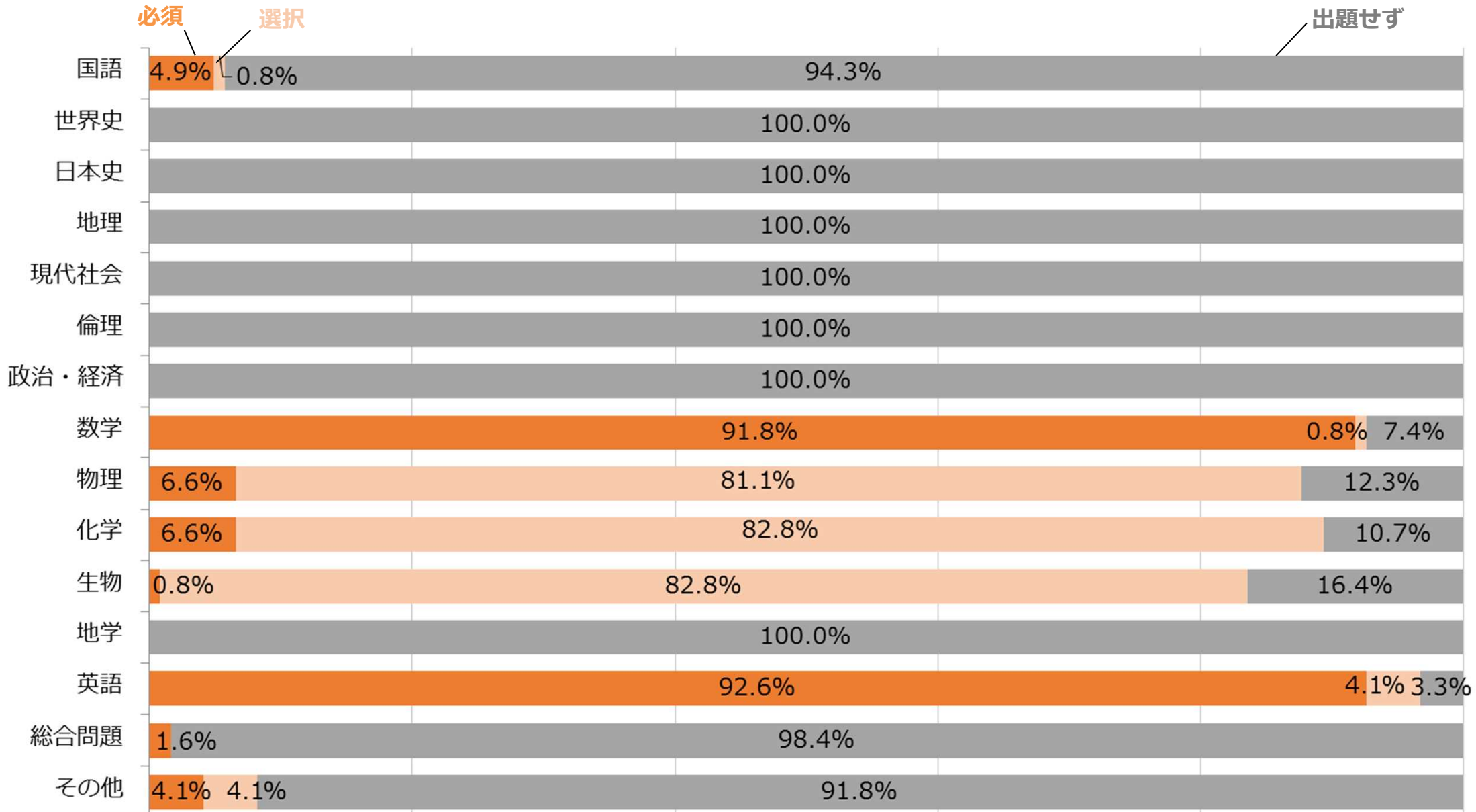


n=1,857選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（保健／医学）

保健系の学科のうち、医学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 96.7%）、数学（同 92.6%）、化学（同 89.4%）を出題する選抜区分が多い。

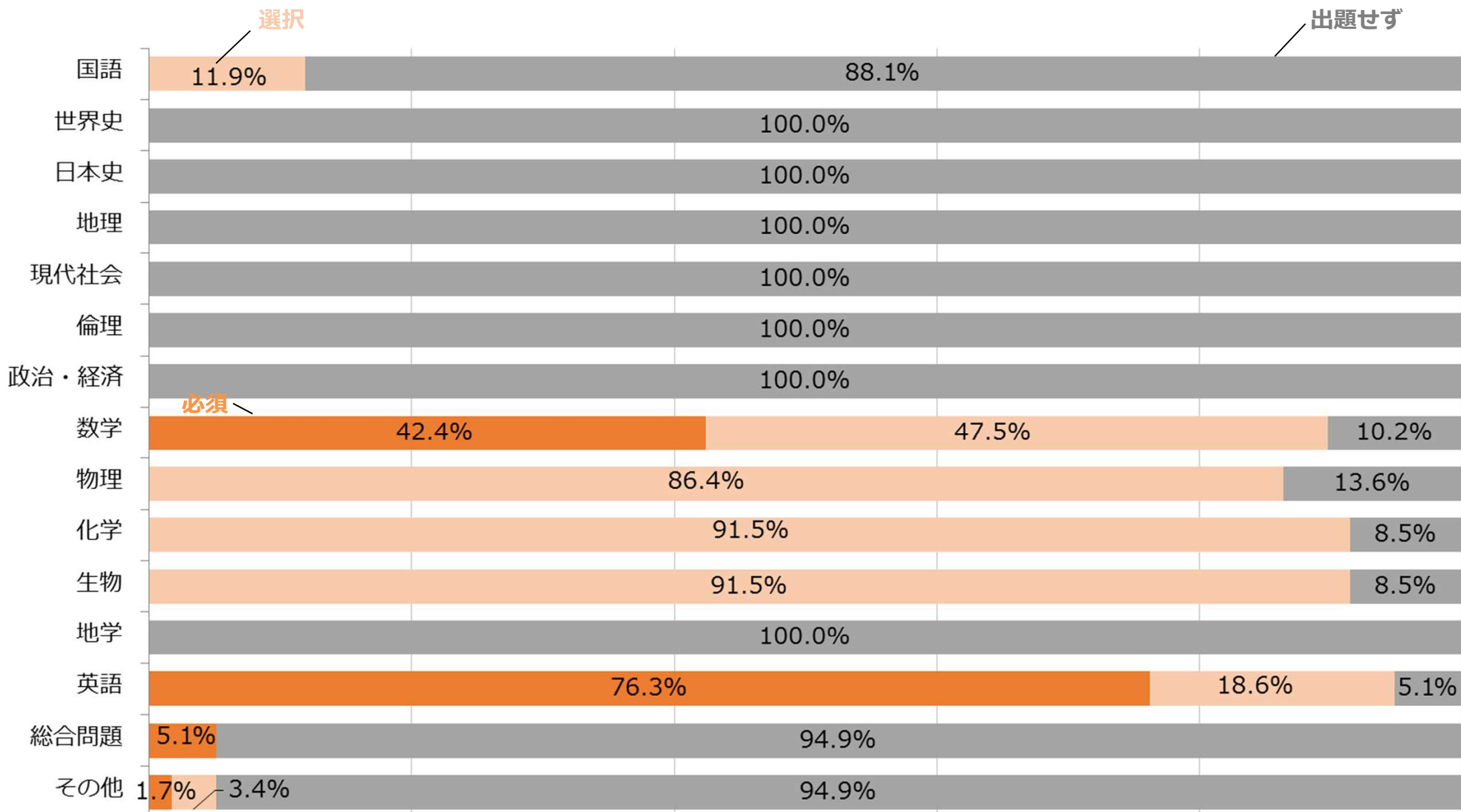


n=122選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（保健／歯学）

保健系の学科のうち、歯学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 94.9%）、化学（同 91.5%）、生物（同 91.5%）を出題する選抜区分が多い。

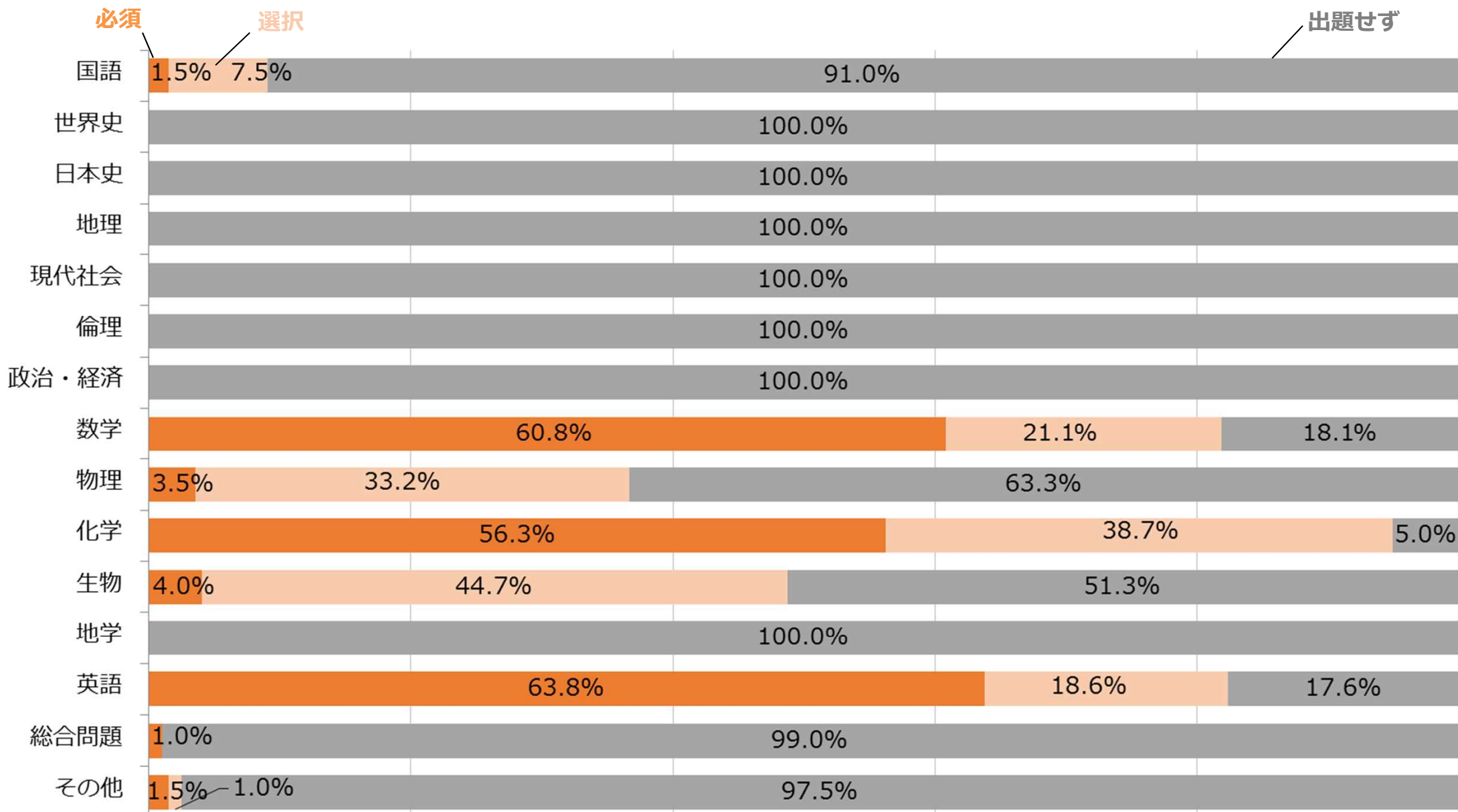


n=59選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（保健／薬学関係）

保健系の学科のうち、薬学関係において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、化学（必須＋選択 95.0%）、英語（同 82.4%）、数学（同 81.9%）を出題する選抜区分が多い。

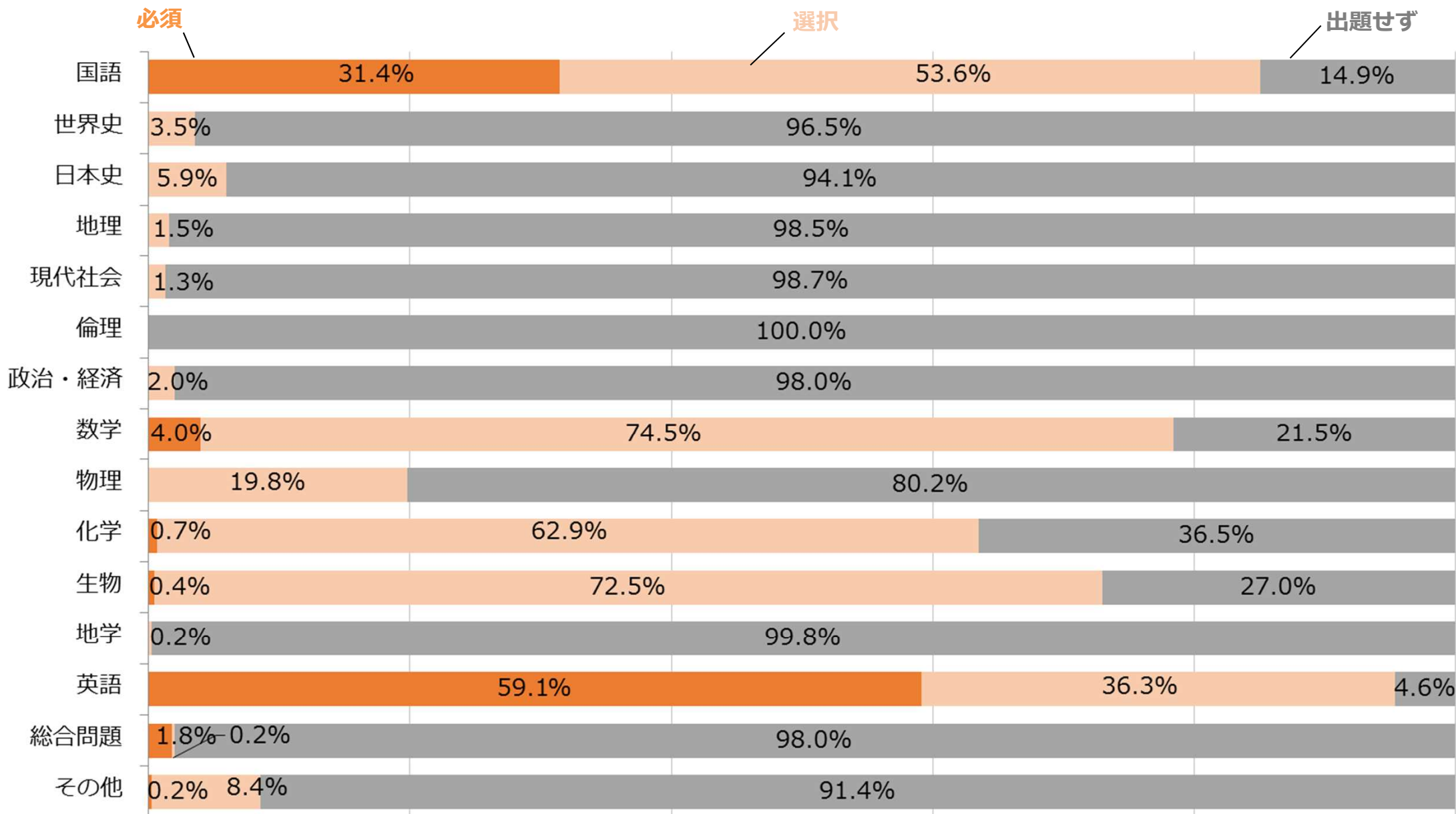


n=199選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（保健／看護学関係）

保健系の学科のうち、看護学関係において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 95.4%）、国語（同 85.0%）、数学（同 78.5%）を出題する選抜区分が多い。



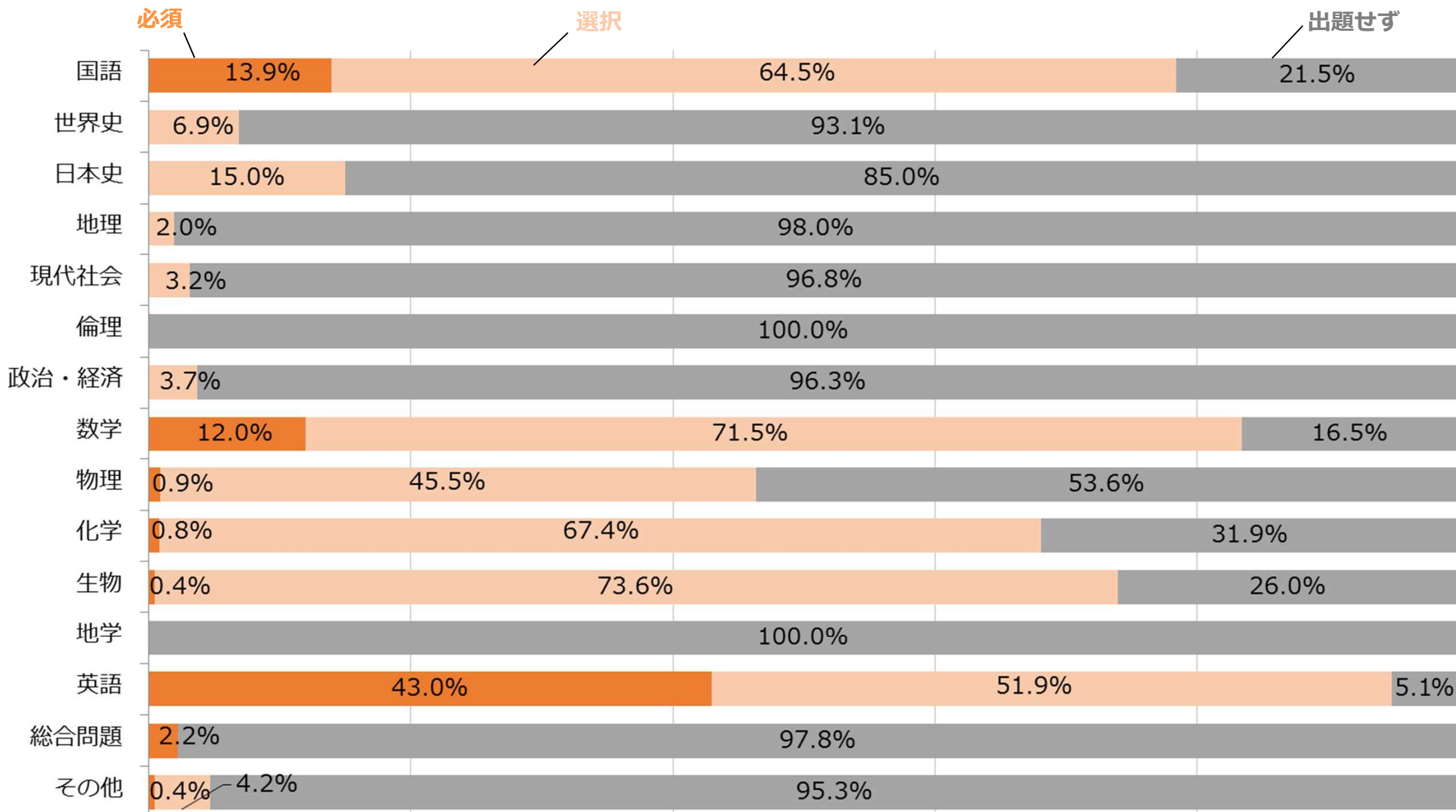
n=455選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（保健／保健その他）

保健系の学科のうち、その他の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 94.9%）、数学（同 83.5%）、化学（同 68.2%）を出題する選抜区分が多い。

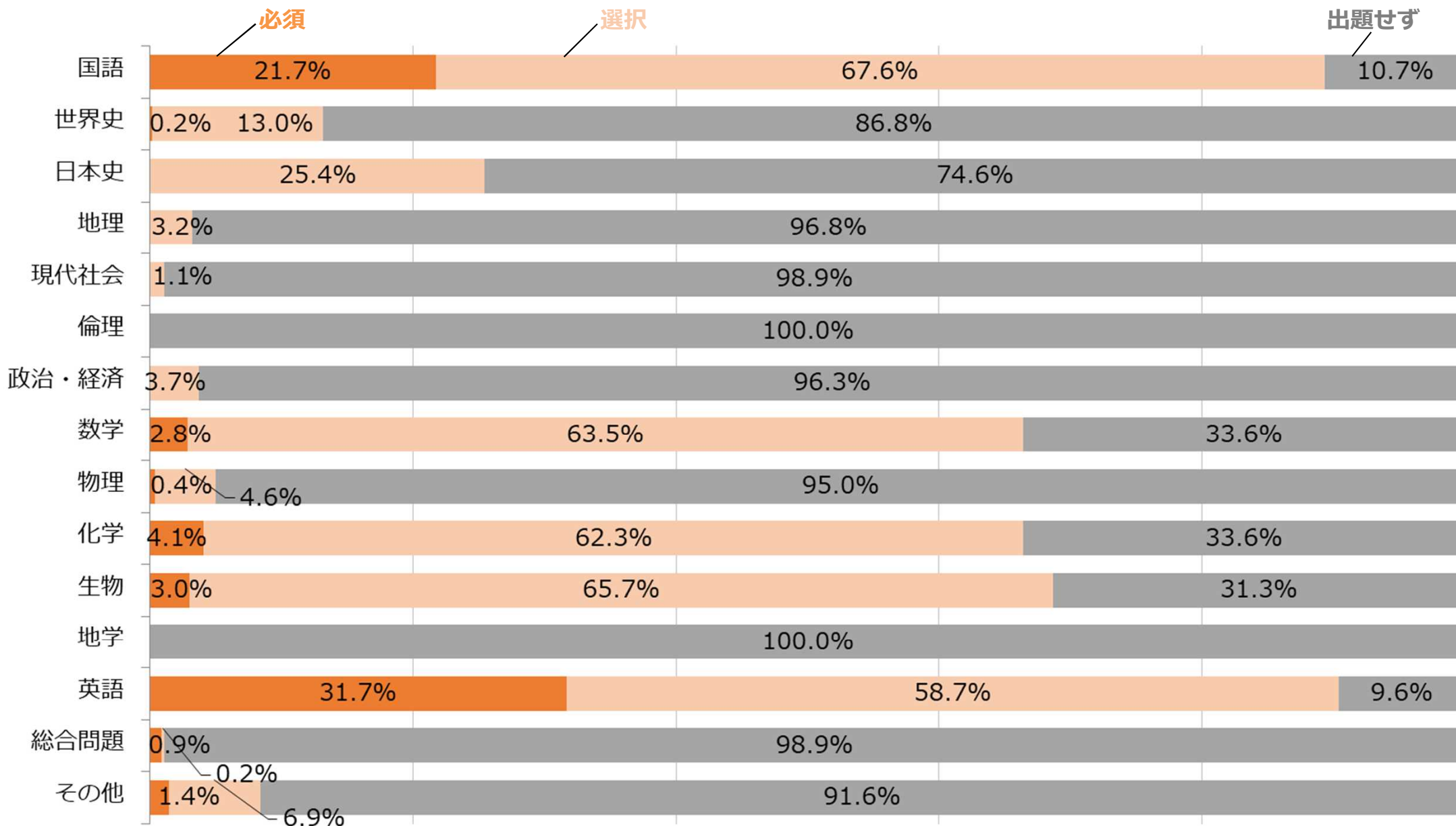


n=919選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／家政）

家政系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 90.4%）、国語（同 89.3%）、生物（同 68.7%）を出題する選抜区分が多い。

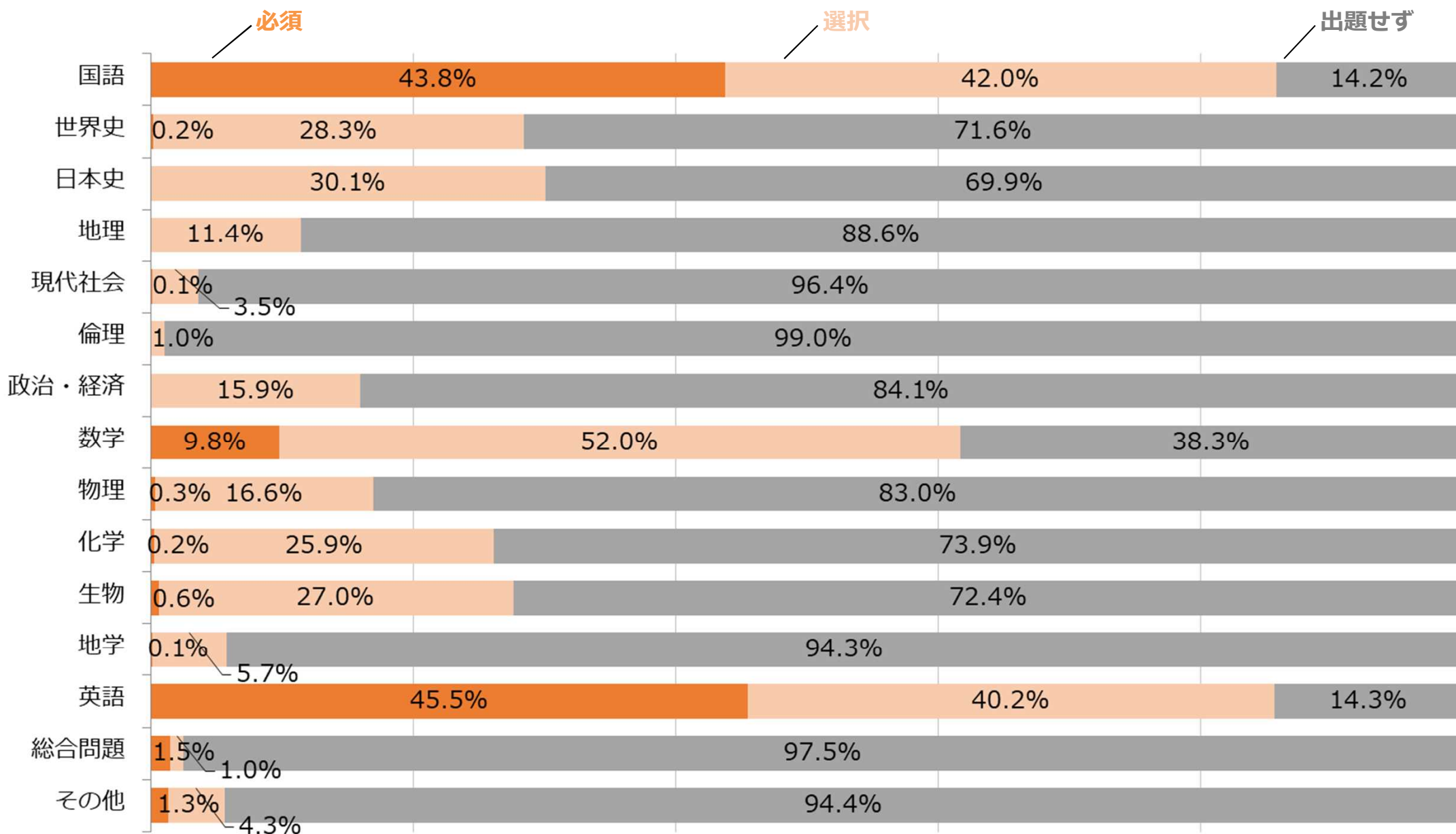


n=562選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／教育）

教育系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、国語（必須+選択 85.8%）、英語（同 85.7%）、数学（同 61.8%）を出題する選抜区分が多い。

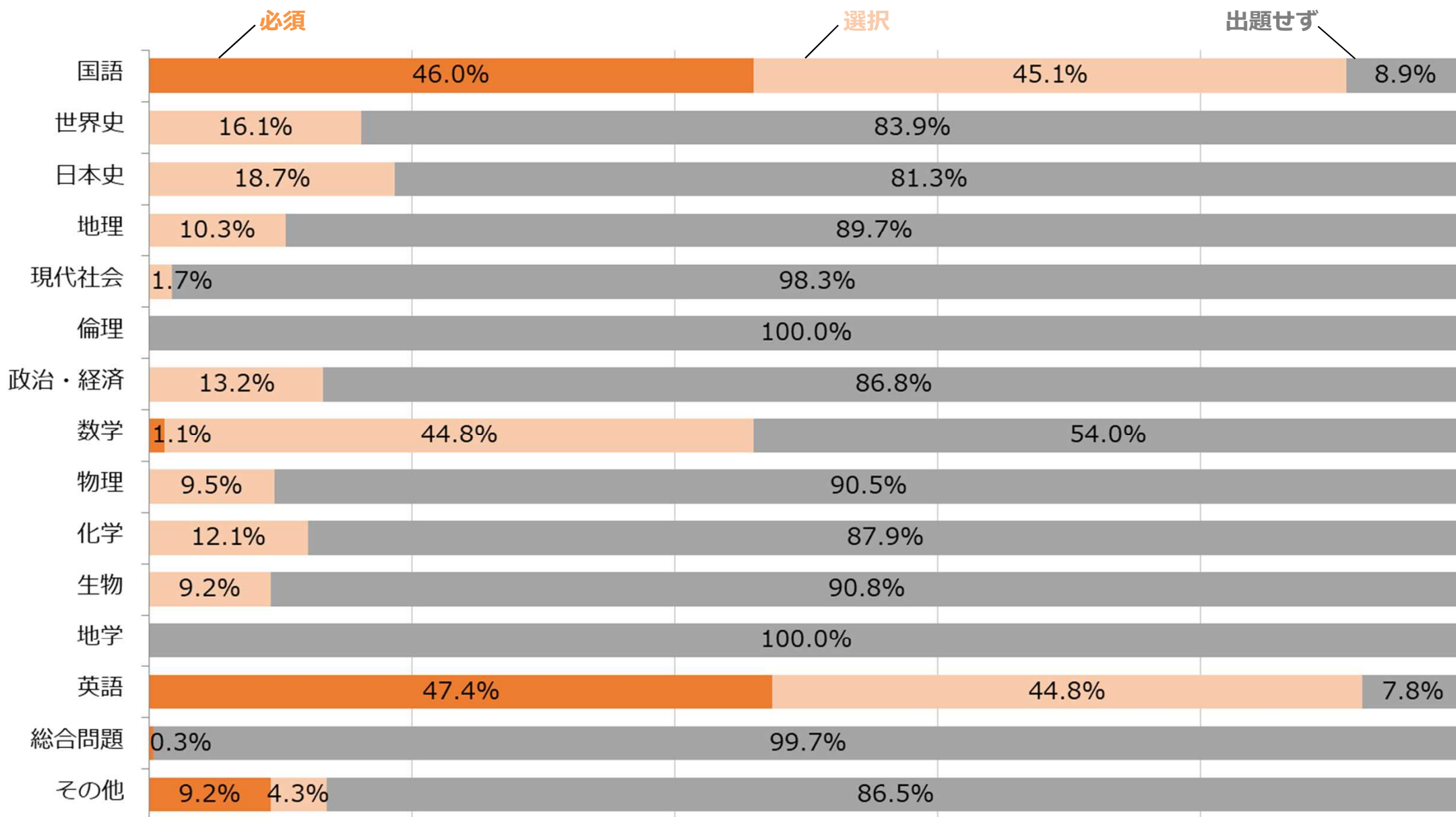


n=1,220選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／芸術）

芸術系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 92.2%）、国語（同 91.1%）、数学（同 45.9%）を出題する選抜区分が多い。

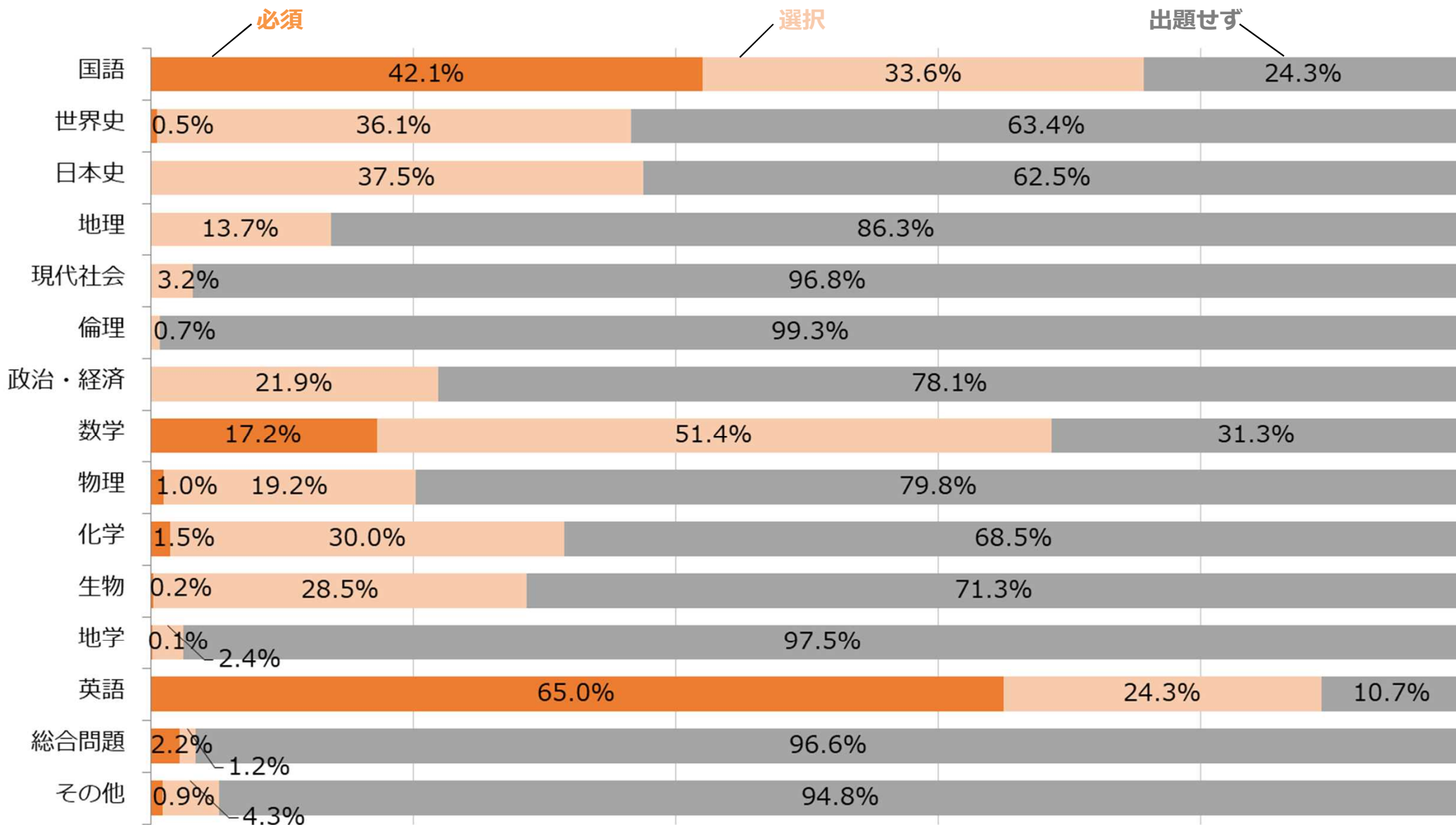


n=348選抜区分  
※国公立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／その他）

前記以外のその他の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 89.3%）、国語（同 75.7%）、数学（同 68.6%）を出題する選抜区分が多い。



n=1,005選抜区分  
※国公立計

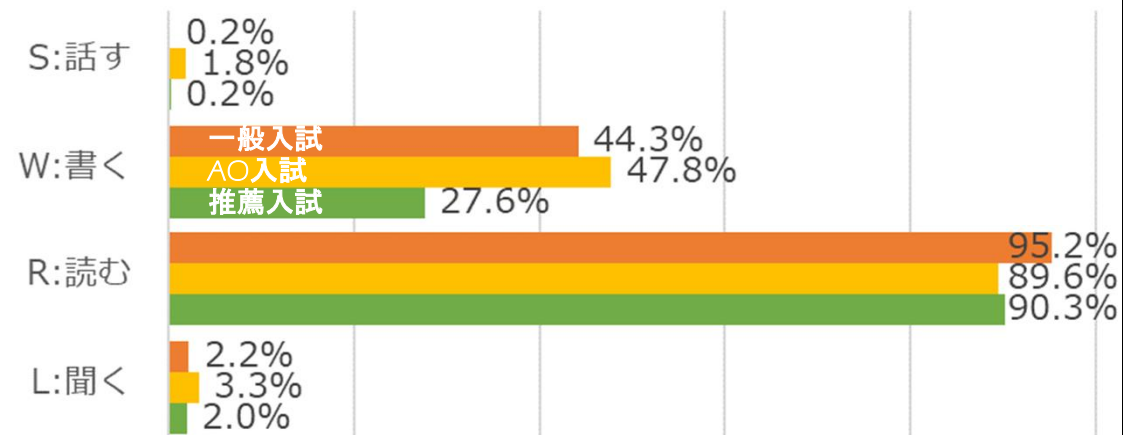
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 英語に係る技能別の出題の有無（国公私）

一般入試の個別学力検査「英語」では、「読むこと（例：筆記試験）」を95.2%、「書くこと（例：筆記試験（記述式）」を44.3%、「聞くこと（例：リスニングテスト）」を2.2%、「話すこと（例：スピーキングテスト）」を0.2%の選抜区分で出題している。

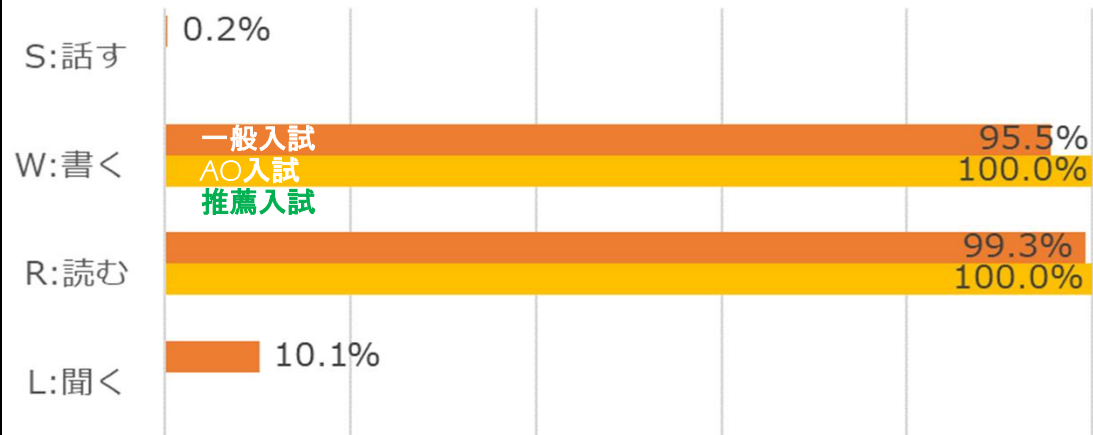
## 全体

(n=16,048選抜区分・単数回答)



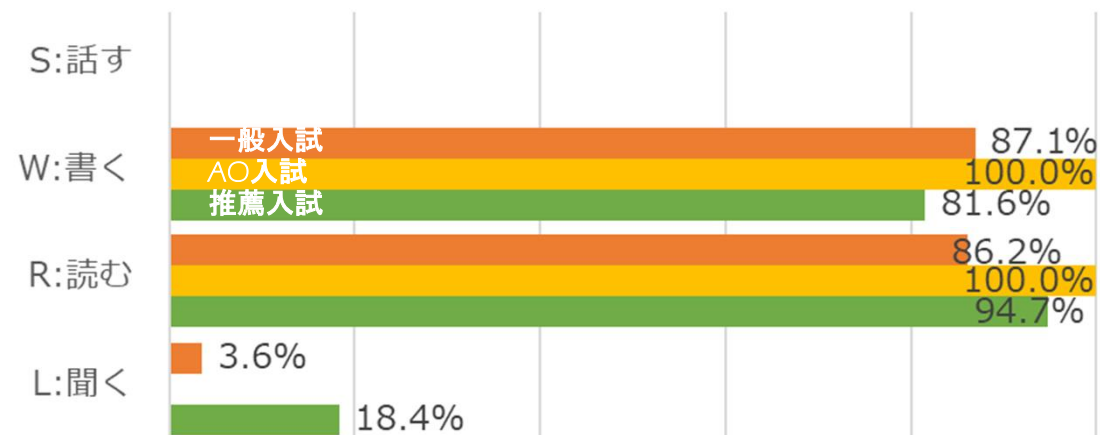
## 国立大学

(n=1,008選抜区分・単数回答)



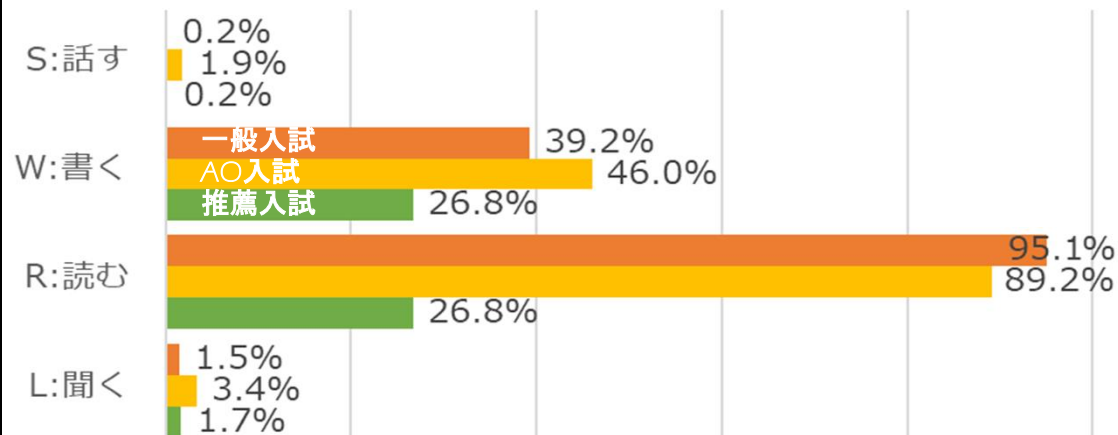
## 公立大学

(n=263選抜区分・単数回答)



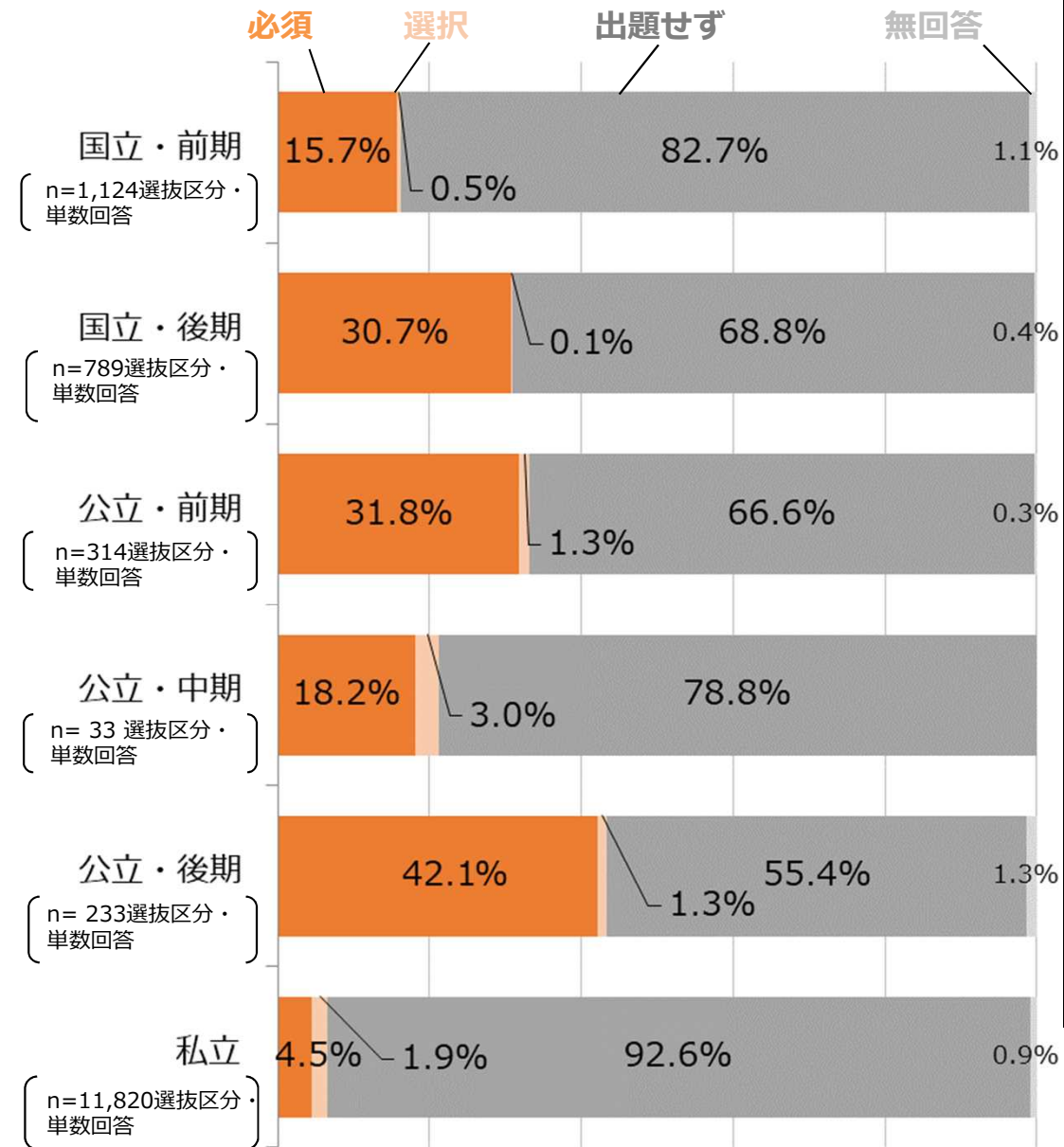
## 私立大学

(n=14,777選抜区分・単数回答)

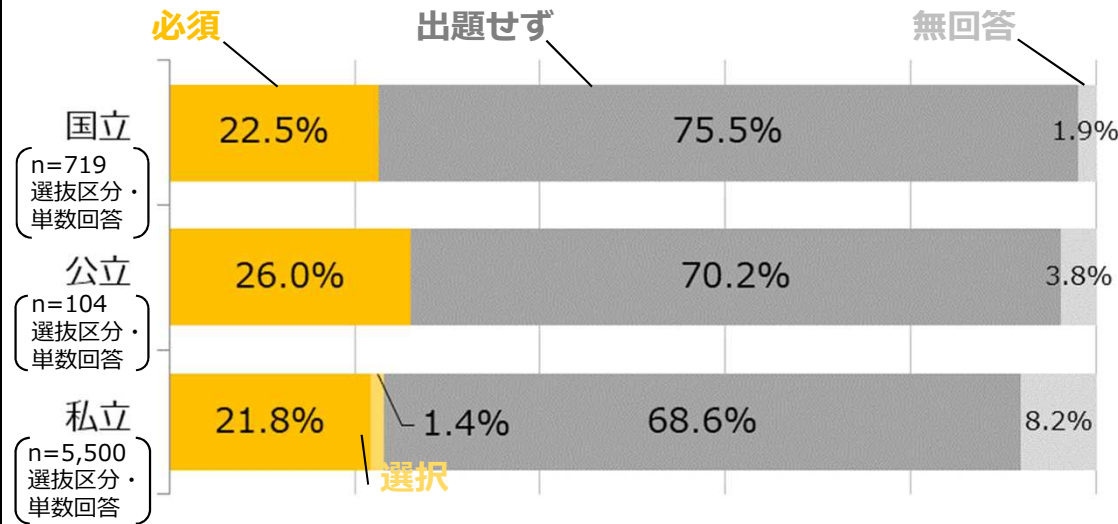


# 小論文出題状況

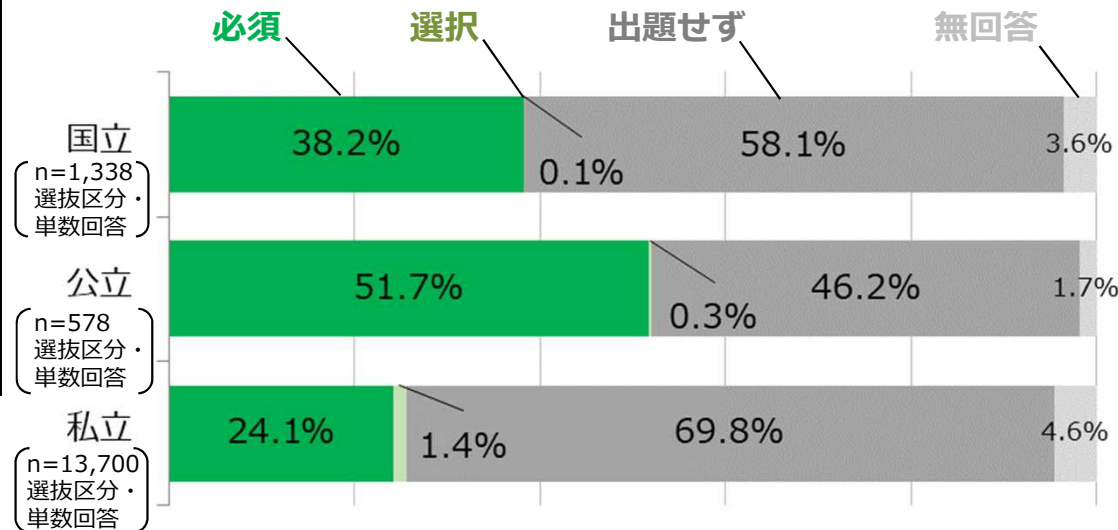
## 一般入試



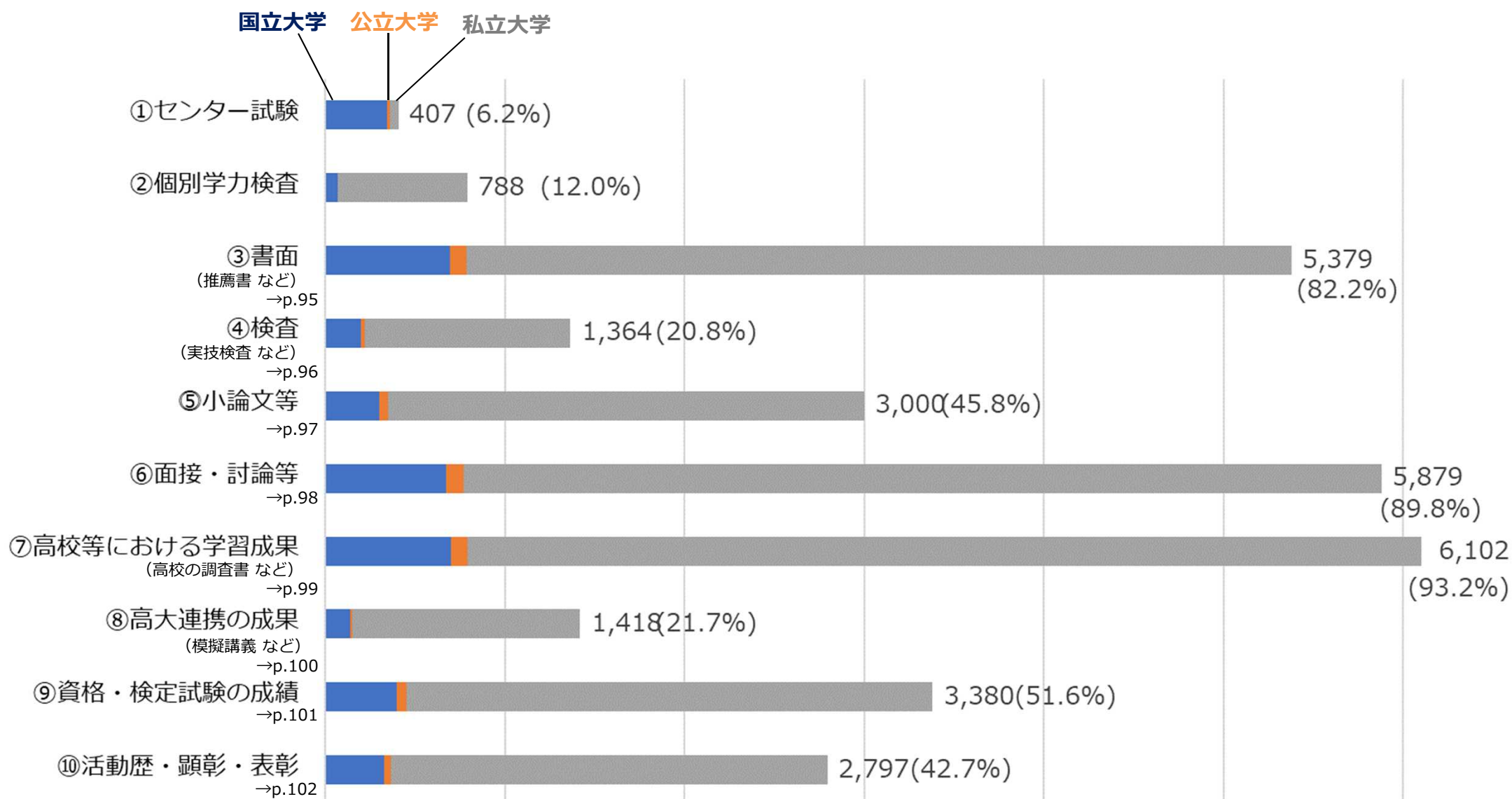
## AO入試



## 推薦入試

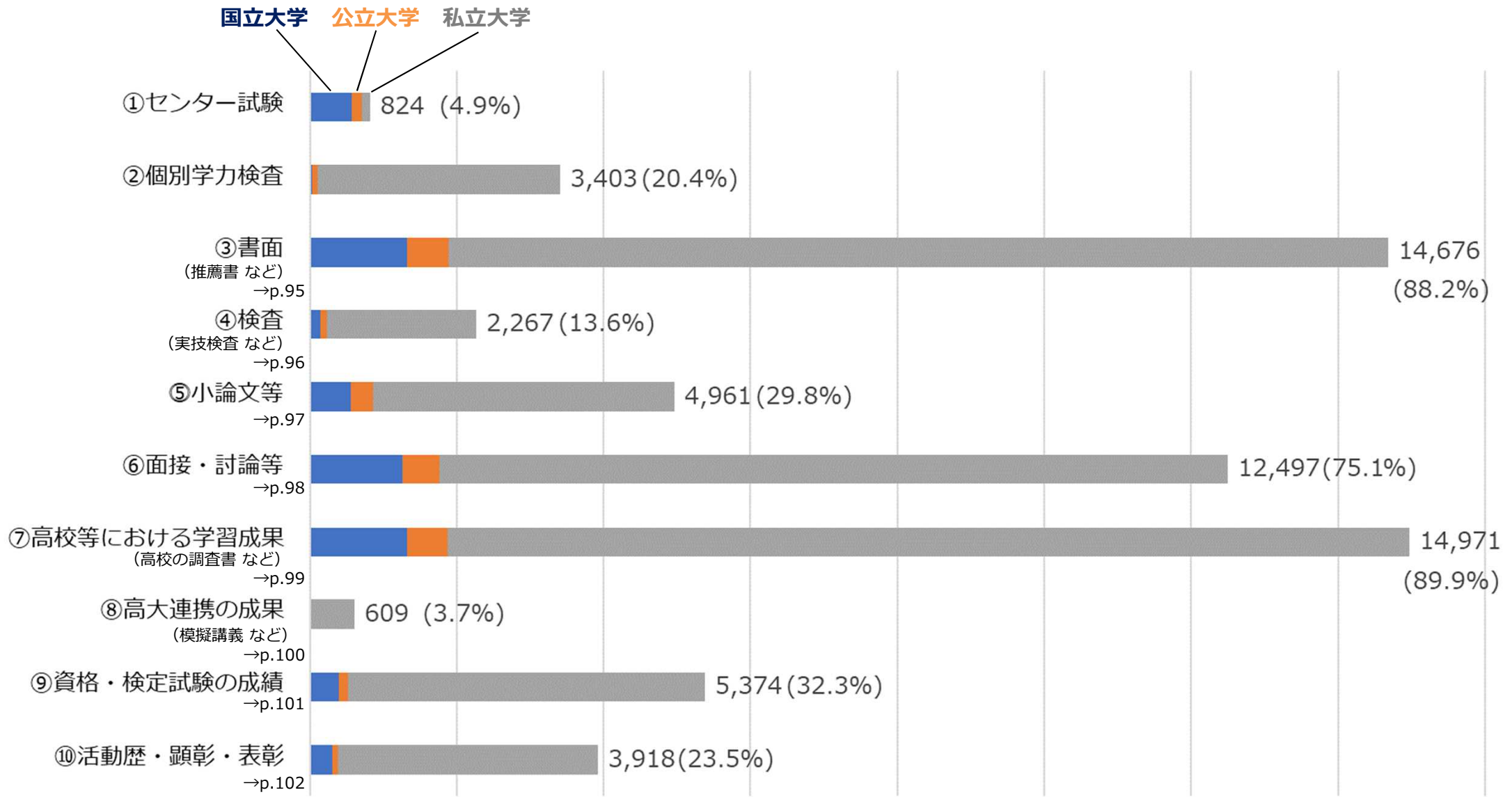


# AO入試における学力把握措置



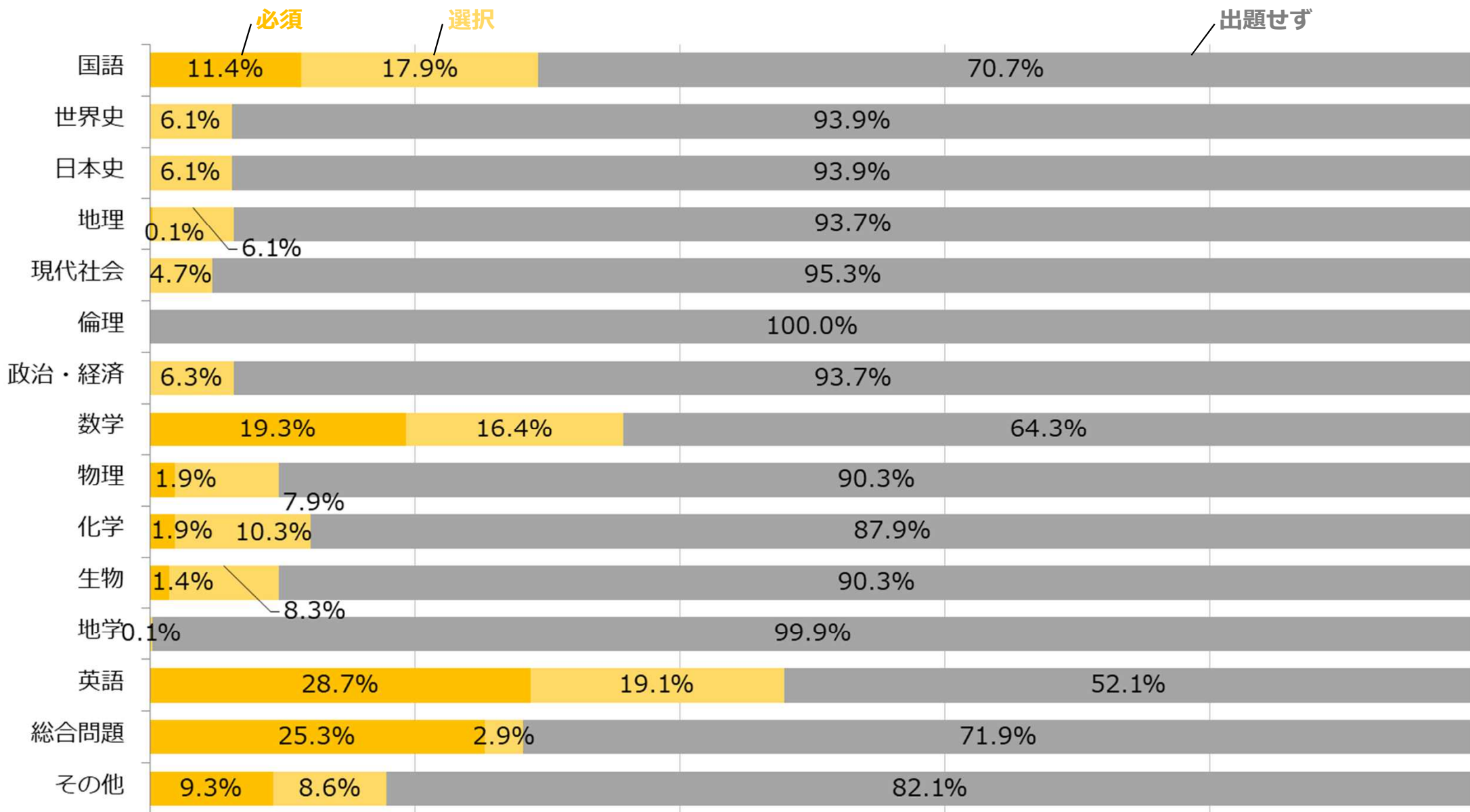


# 推薦入試における学力把握措置



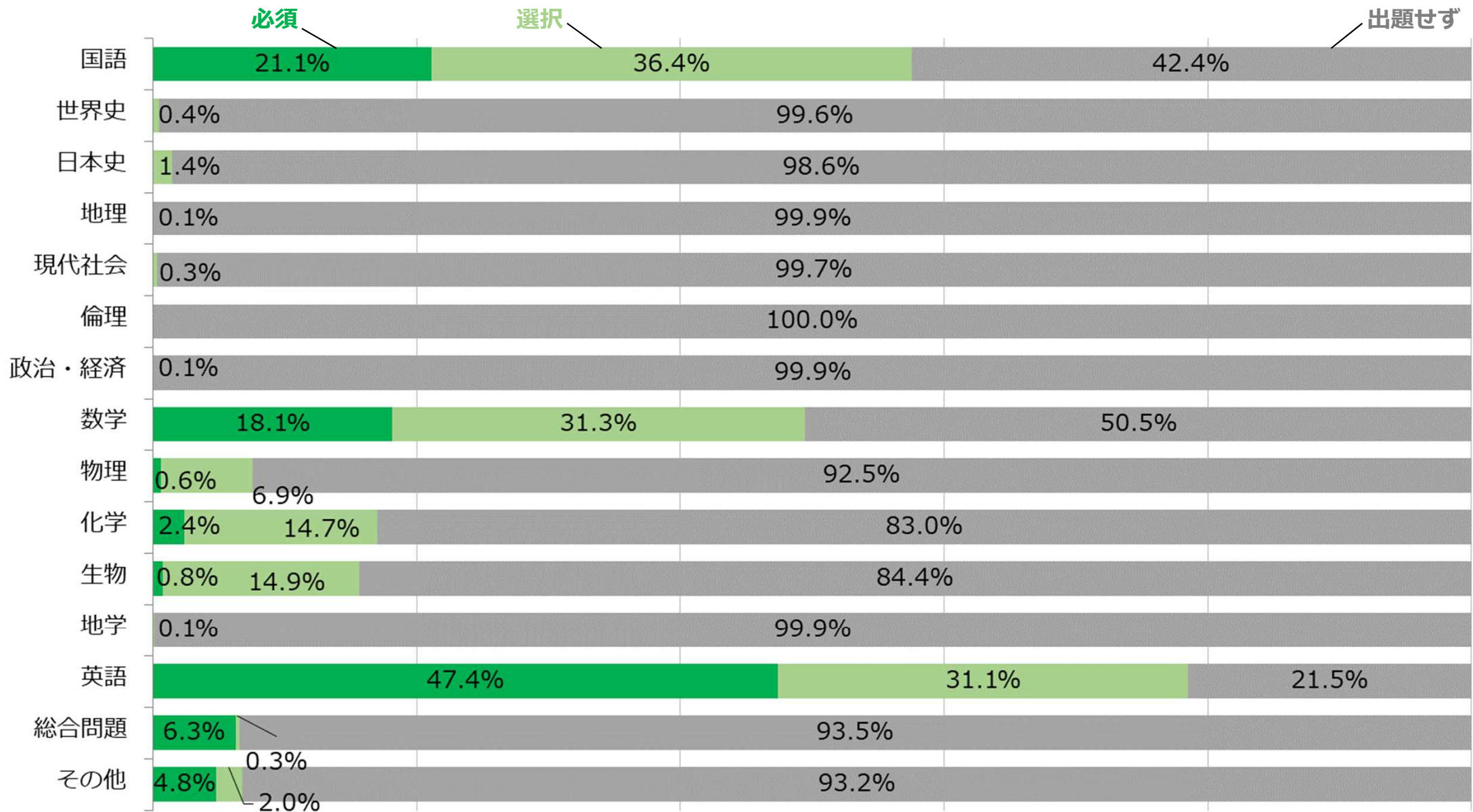
# AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況

AO入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 47.8%）、数学（同 35.7%）、国語（同 29.3%）を出題する選抜区分が多い。



# 推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況

推薦入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 78.5%）、国語（同 57.5%）、数学（同 49.4%）を出題する選抜区分が多い。

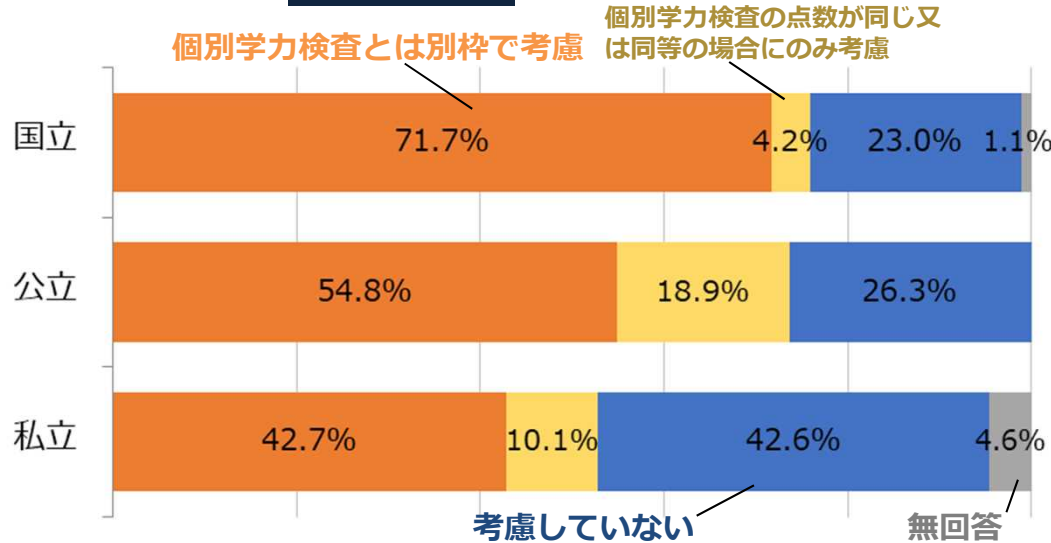


# 学力検査以外の資料等の考慮

学力検査以外の資料等については、一般入試よりAO入試・推薦入試で活用されている。

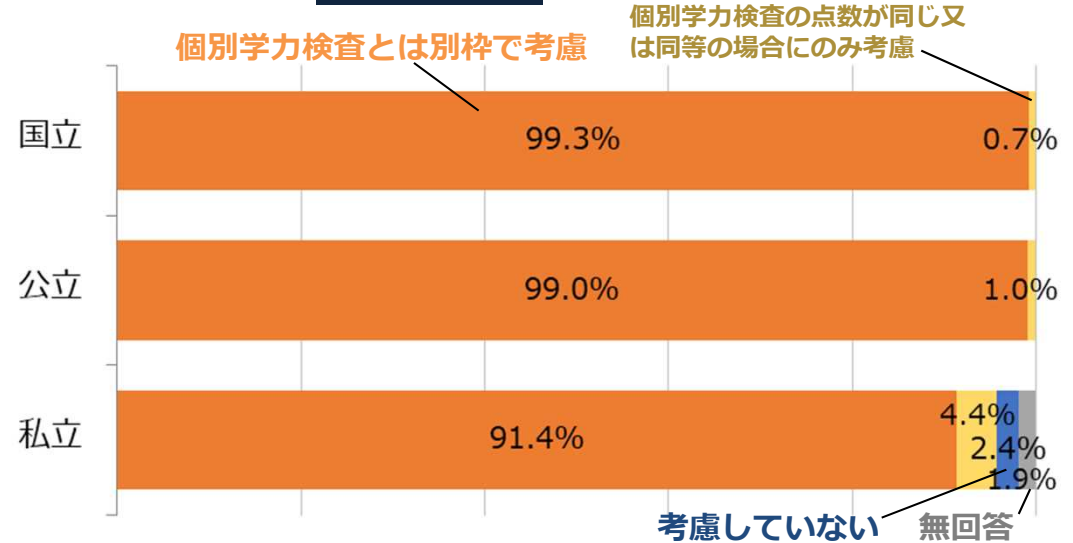
## 一般入試

(n=25,520選抜区分・単数回答)



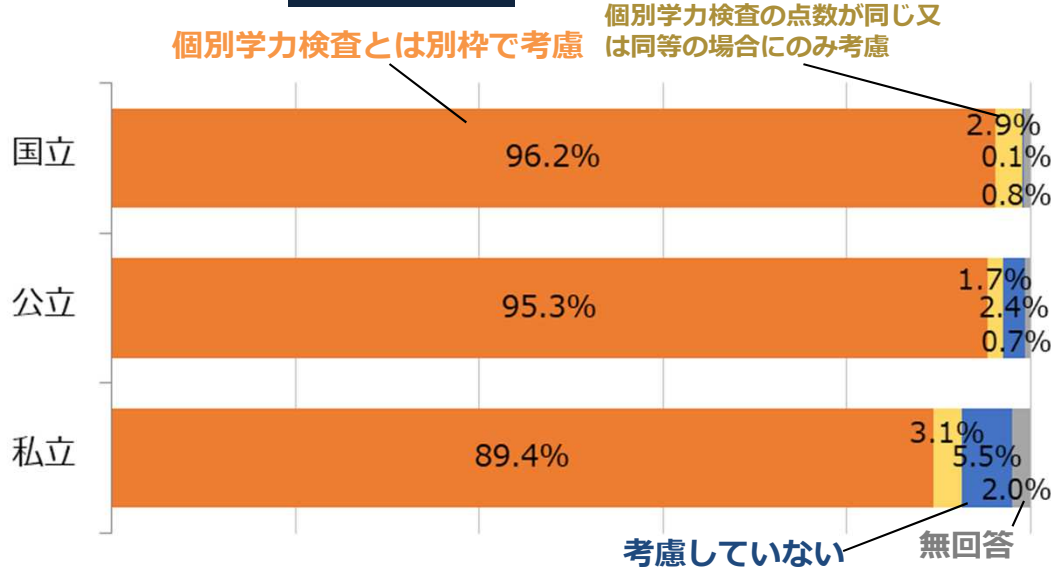
## AO入試

(n=6,546選抜区分・単数回答)



## 推薦入試

(n=16,647選抜区分・単数回答)



### 【各選抜区分数】

#### ○一般入試

国立：n= 2,527選抜区分  
公立：n= 768選抜区分  
私立：n=22,225選抜区分

#### ○AO入試

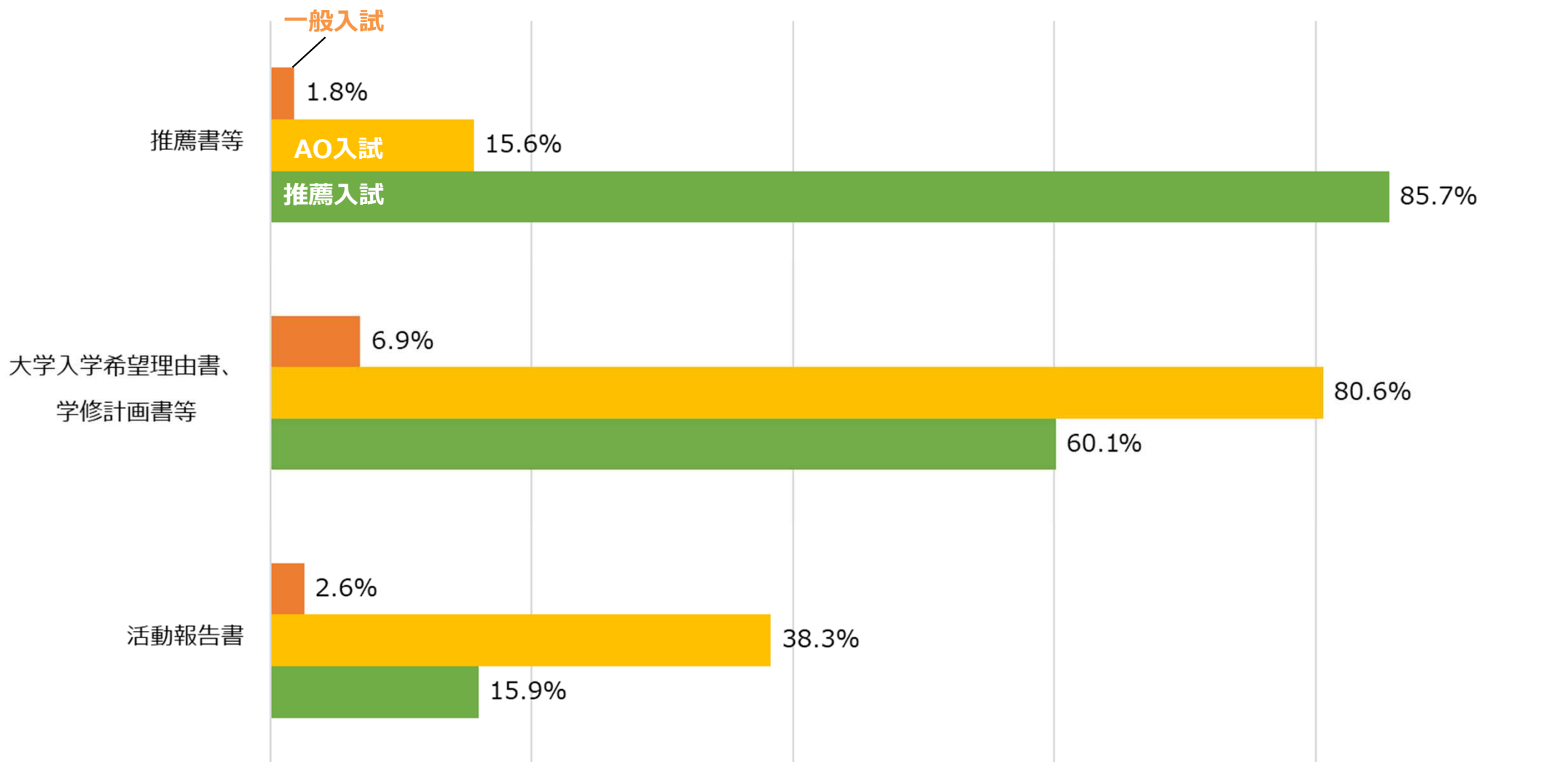
国立：n= 719選抜区分  
公立：n= 104選抜区分  
私立：n=5,723選抜区分

#### ○推薦入試

国立：n= 1,348選抜区分  
公立：n= 593選抜区分  
私立：n=14,706選抜区分

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（書面）

- 推薦書等を利用<sup>(※)</sup>する選抜区分は、一般入試が1.8%、AO入試が15.6%、推薦入試が85.7%である。
- 大学入学希望理由書、学習計画書等を利用する選抜区分は、一般入試が6.9%、AO入試が80.6%、推薦入試が60.1%である。
- 活動報告書を利用する選抜区分は、一般入試が2.6%、AO入試が38.3%、推薦入試が15.9%である。

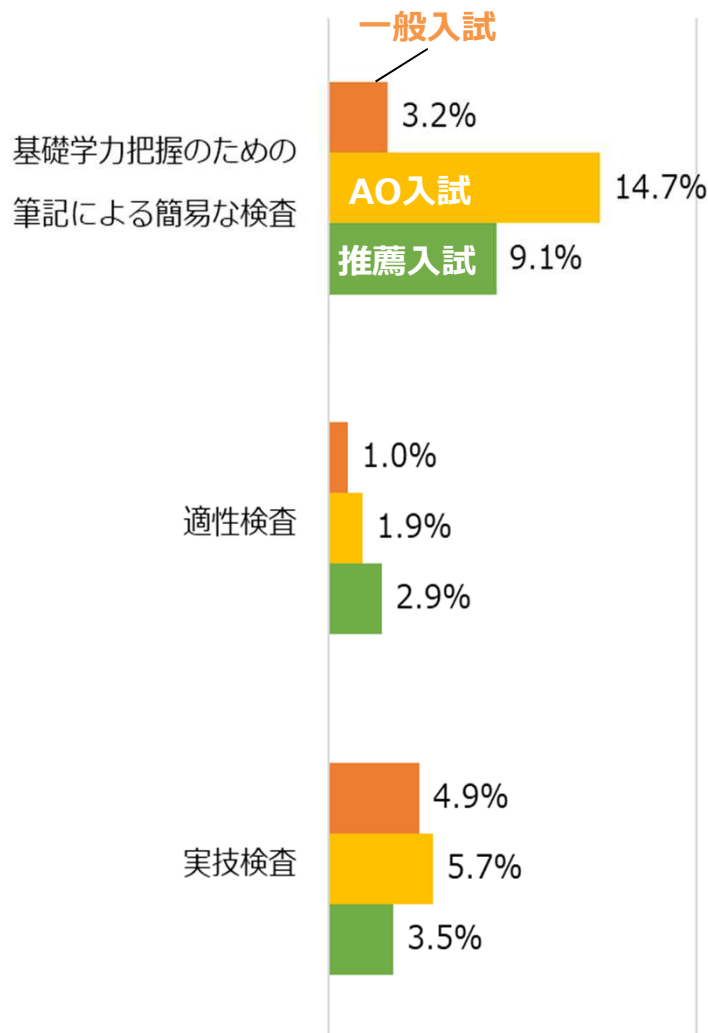


※利用とは、当該資料を加点や換算を含む得点、総合評価、参考資料、出願資格として扱うことを指す（以下同じ）。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（検査）

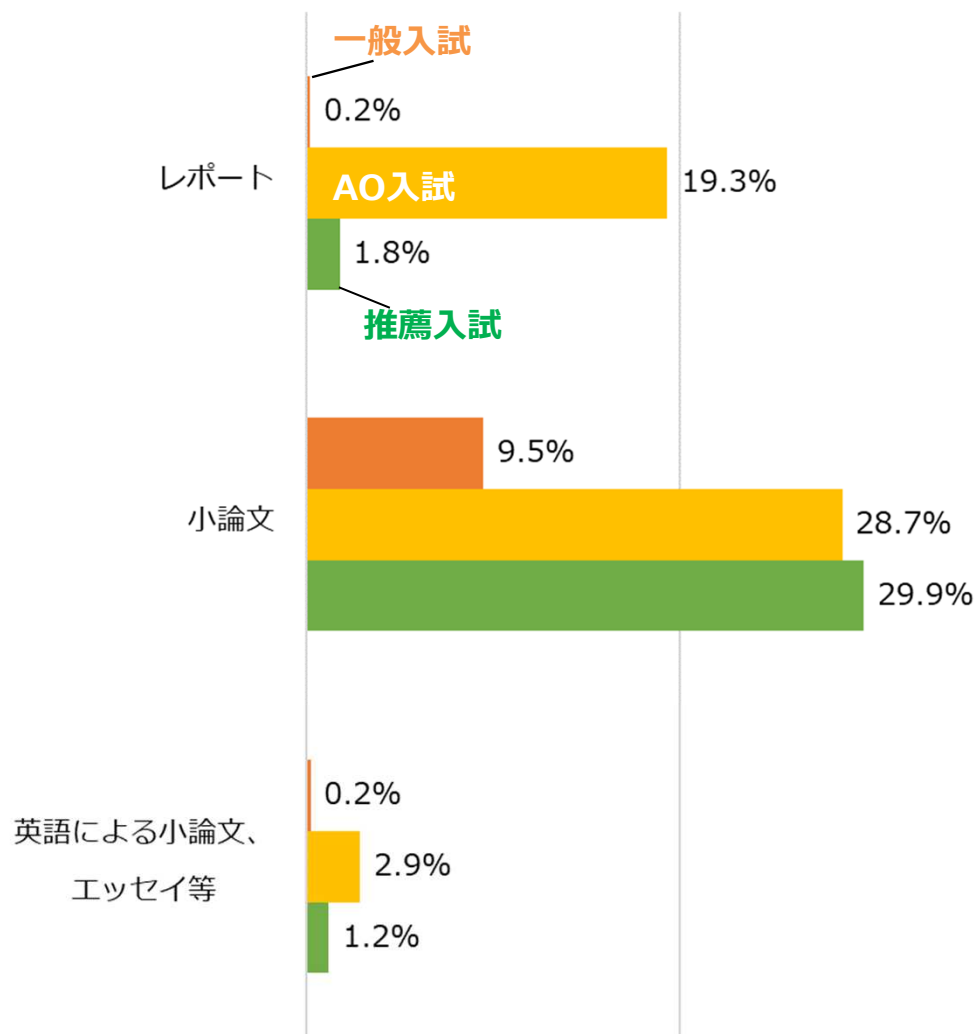
- 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査を利用する選抜区分は、一般入試が3.2%、AO入試が14.7%、推薦入試が9.1%である。
- 適性検査を利用する選抜区分は、一般入試が1.0%、AO入試が1.9%、推薦入試が2.9%である。
- 実技検査を利用する選抜区分は、一般入試が4.9%、AO入試が5.7%、推薦入試が3.5%である。



一般入試 n=14,225選抜区分・複数回答  
AO入試 n= 6,305選抜区分・複数回答  
推薦入試 n=15,509選抜区分・複数回答

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（小論文等）

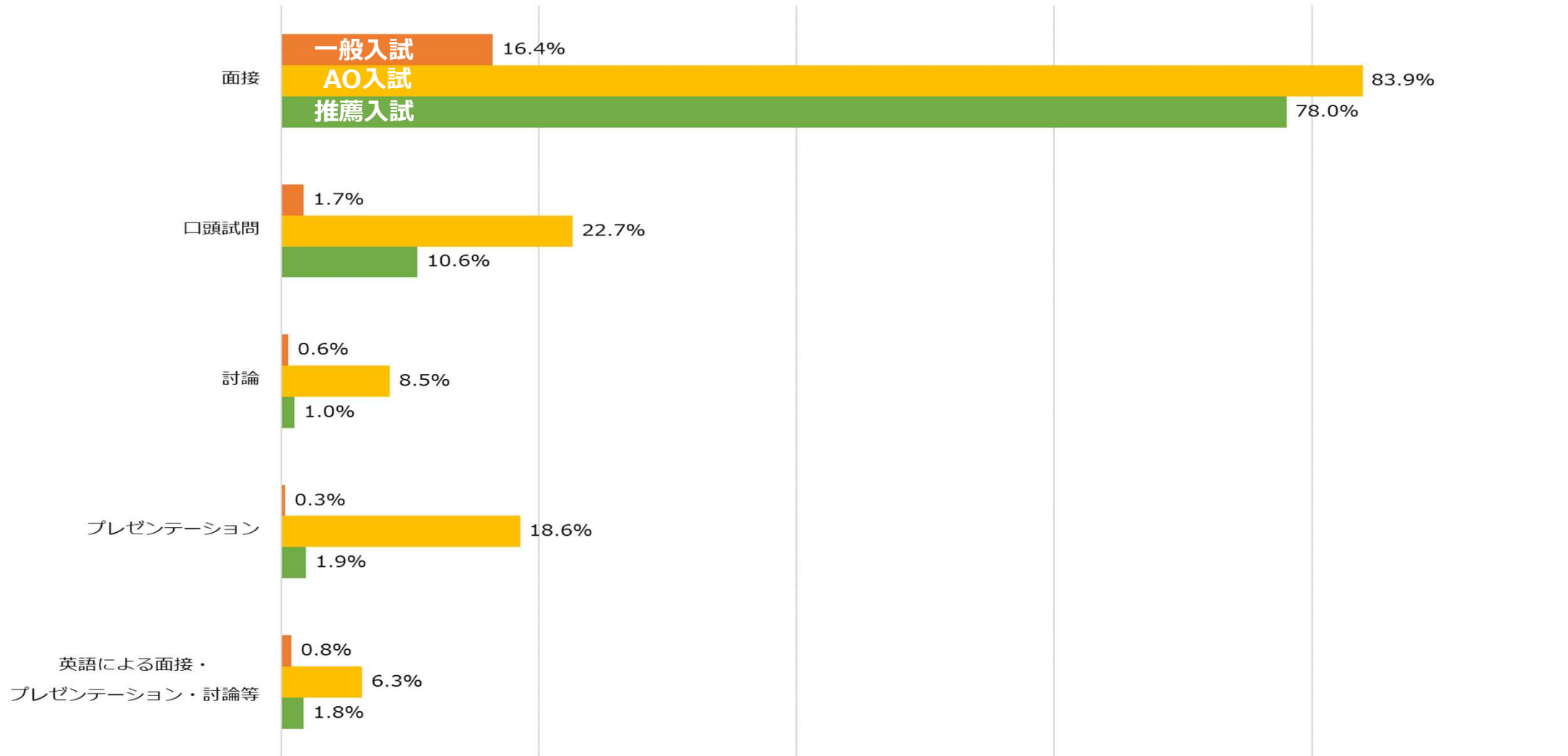
- レポートを利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が19.3%、推薦入試が1.8%である。
- 小論文を利用する選抜区分は、一般入試が9.5%、AO入試が28.7%、推薦入試が29.9%である。
- 英語による小論文、エッセイ等を利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が2.9%、推薦入試が1.2%である。



一般入試 n=14,225選抜区分・複数回答  
AO入試 n= 6,305選抜区分・複数回答  
推薦入試 n=15,509選抜区分・複数回答

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（面接・討論等）

- 面接を利用する選抜区分は、一般入試が16.4%、AO入試が83.9%、推薦入試が78.0%である。
- 口頭試問を利用する選抜区分は、一般入試が1.7%、AO入試が22.7%、推薦入試が10.6%である。
- 討論、プレゼンテーションなどは、AO入試での利用が多い。

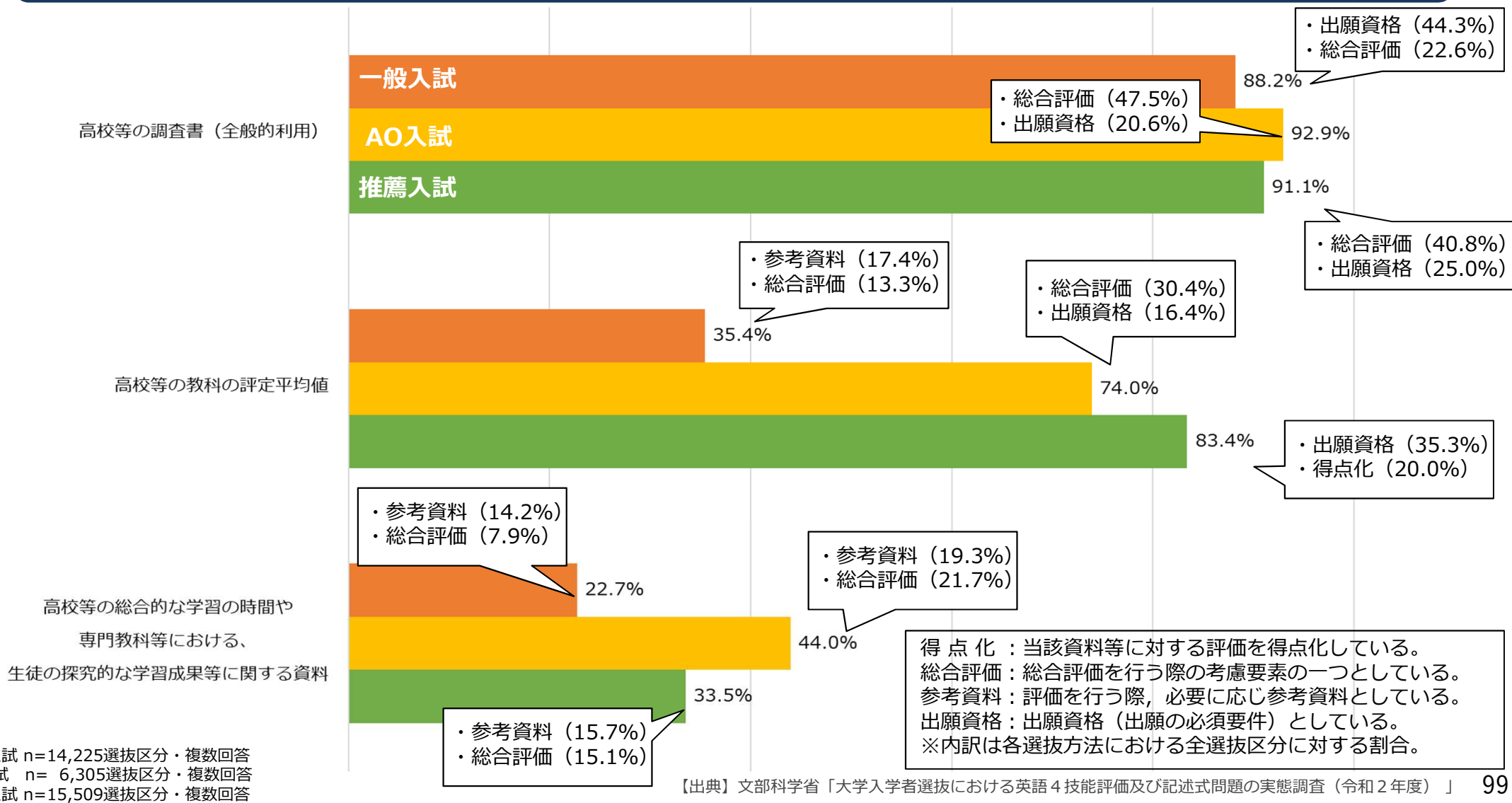


一般入試 n=14,225選抜区分・複数回答  
AO入試 n= 6,305選抜区分・複数回答  
推薦入試 n=15,509選抜区分・複数回答



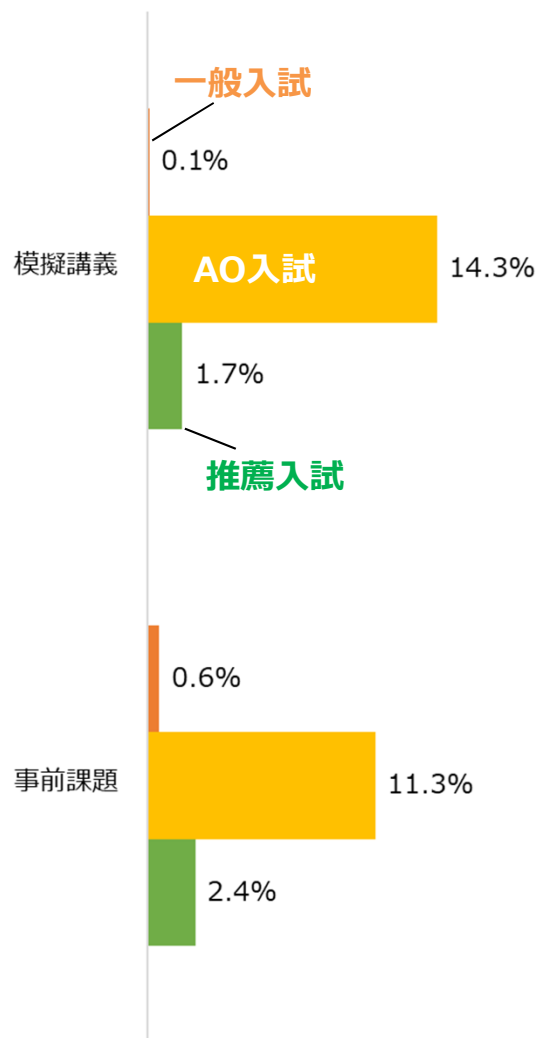
# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高校等における学習成果）

- 高校の調査書を利用する選抜区分は、一般入試が88.2%、AO入試が92.9%、推薦入試が91.1%である。
- 調査書のうち教科の評定平均値を利用する選抜区分は、一般入試が35.4%、AO入試が74.0%、推薦入試が83.4%である。
- 生徒の探究的な学習成果等に関する資料を利用する選抜区分は、一般入試が22.7%、AO入試が44.0%、推薦入試が33.5%である。



## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高大連携の成果）

- 模擬講義を利用する選抜区分は、一般入試が0.1%、AO入試が14.3%、推薦入試が1.7%である。
- 事前課題を利用する選抜区分は、一般入試が0.6%、AO入試が11.3%、推薦入試が2.4%である。



※ 模擬講義は、模擬講義等（実験等を含む）を受講することを要件とする選抜方法。また、模擬講義等の理解力等を問うレポート等も含む。

※ 事前課題は、予め受験生に課題を示した上で、後日回答（作品等を含む）を回収する選抜方法。

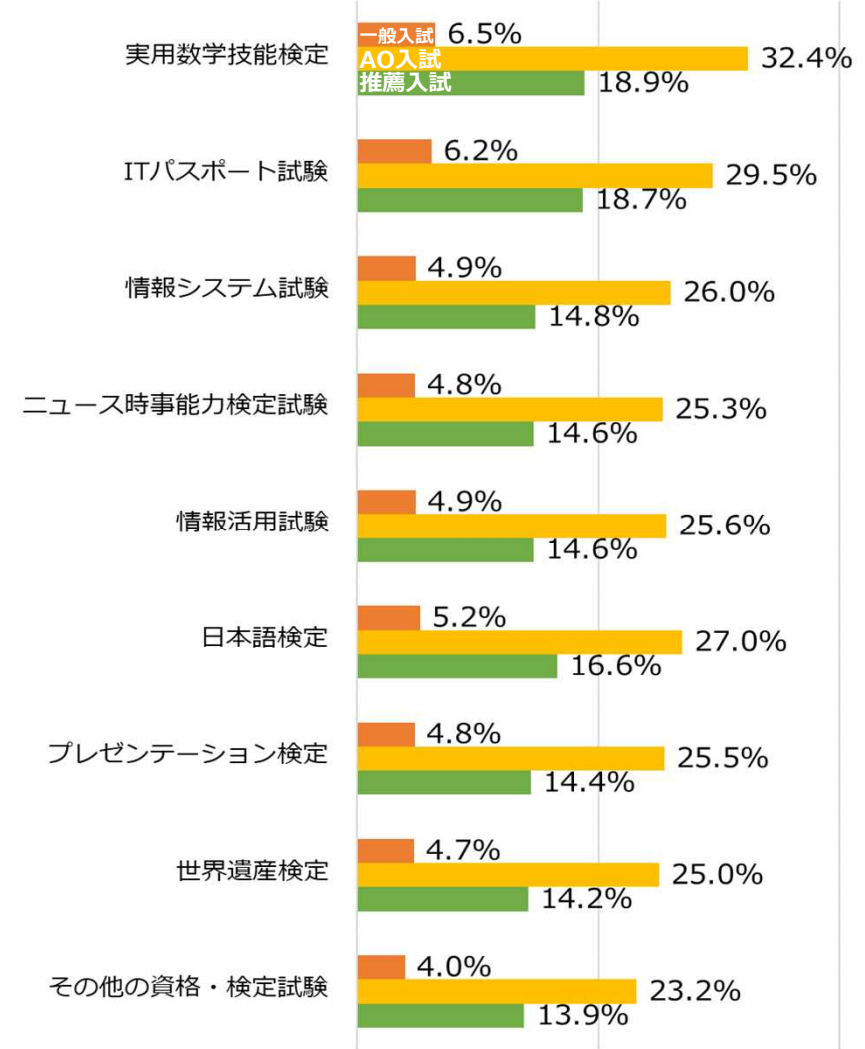
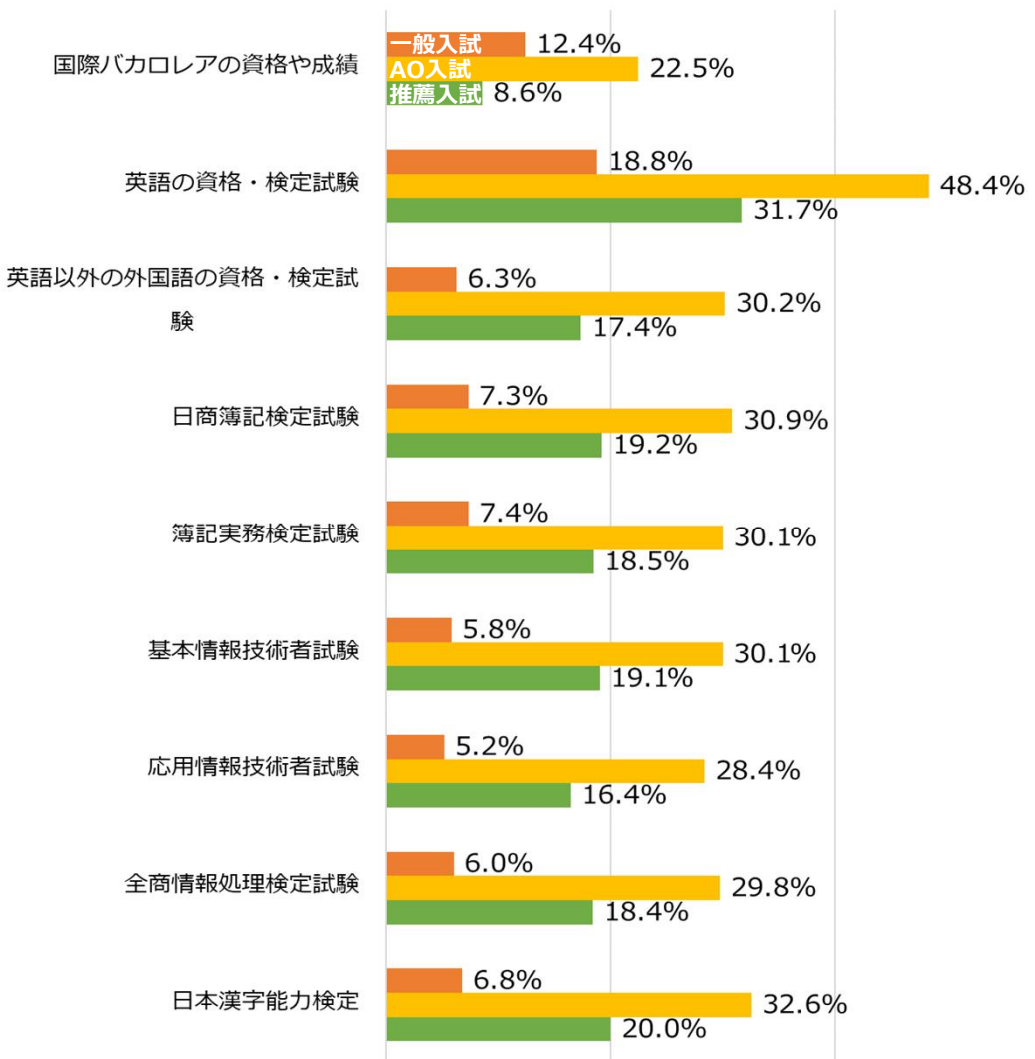
一般入試 n=14,225選抜区分・複数回答

AO入試 n= 6,305選抜区分・複数回答

推薦入試 n=15,509選抜区分・複数回答

# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（資格・検定試験の成績）

英語の資格・検定試験を利用する選抜区分は、一般入試が18.8%、AO入試が48.4%、推薦入試が31.7%である。

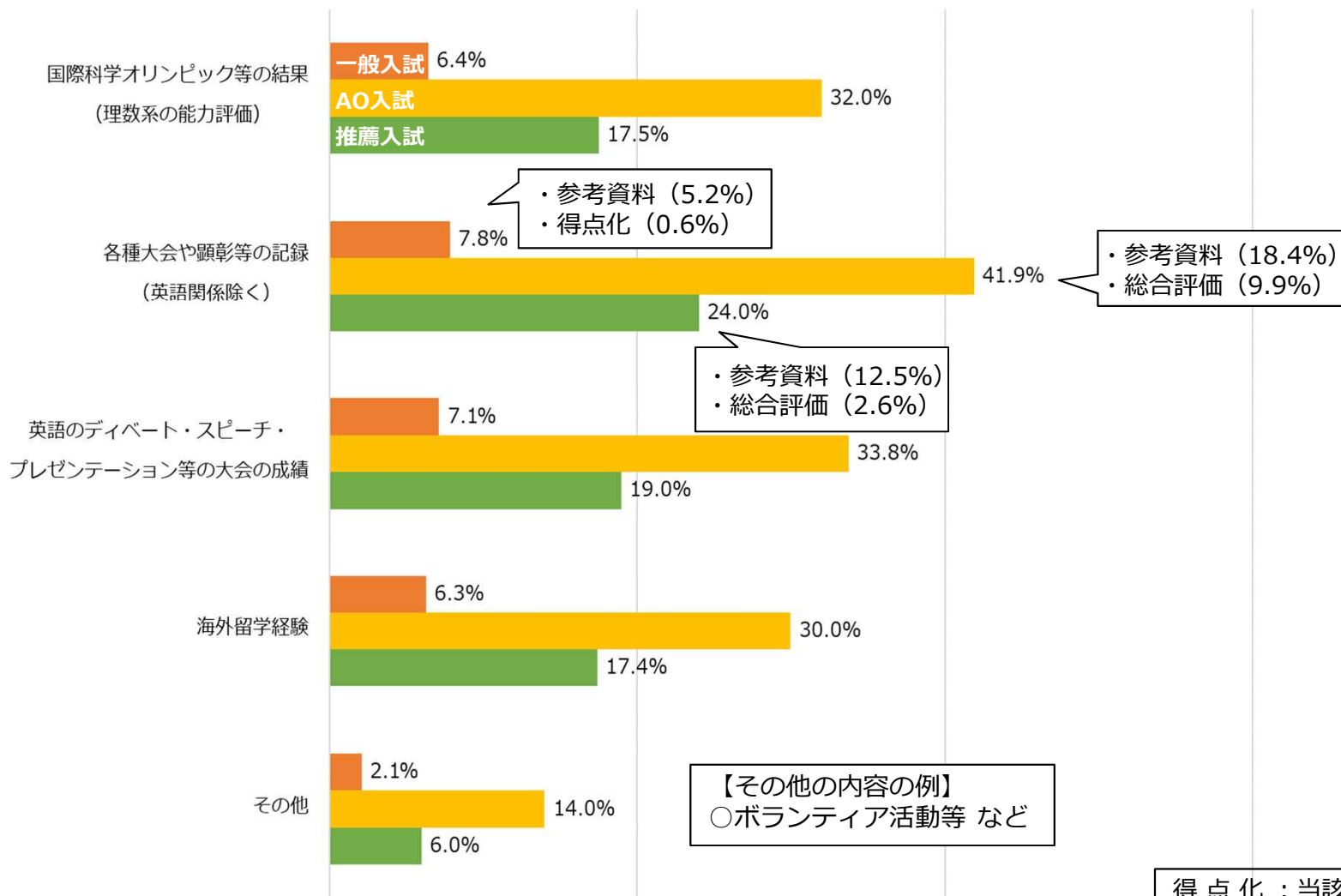


【その他の資格・検定試験の例】

○珠算 ○書道 ○全経簿記能力検定 ○全商商業経済検定 など

# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（活動歴・顕彰・表彰）

- 各種大会や顕彰等を利用する選抜区分は、一般入試が1割未満、AO入試が3～4割程度、推薦入試が2割程度である。



得点化：当該資料等に対する評価を得点化している。  
 総合評価：総合評価を行う際の考慮要素の一つとしている。  
 参考資料：評価を行う際、必要に応じ参考資料としている。  
 出願資格：出願資格（出願の必須要件）としている。  
 ※内訳は各選抜方法における全選抜区分に対する割合。

一般入試 n=14,225選抜区分・複数回答  
 AO入試 n= 6,305選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=15,509選抜区分・複数回答

## 5. 英語資格・検定試験の活用の実態

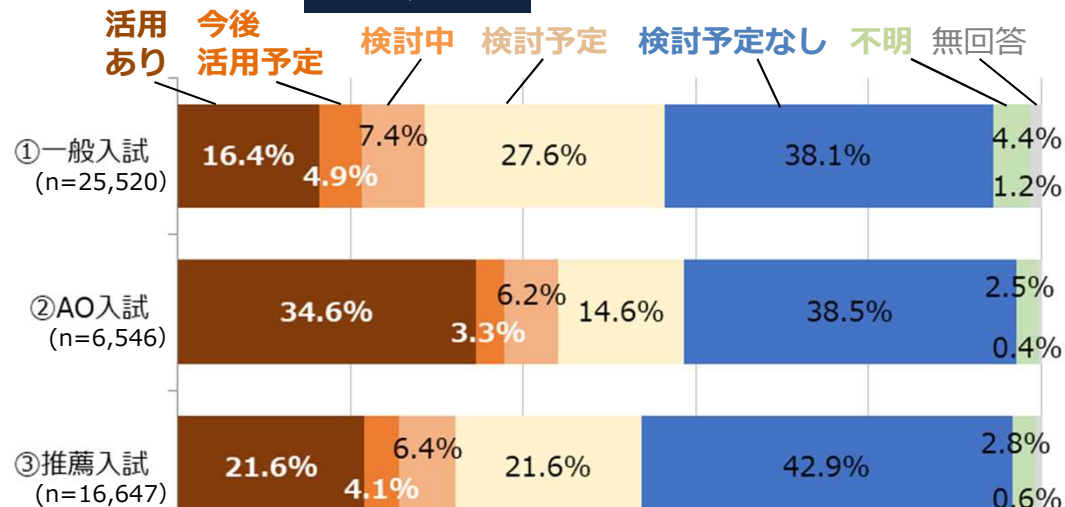
・英語資格・検定試験活用の有無 .....	104
・英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数 .....	106
・英語資格・検定試験活用方法 .....	110
・利用可能な英語資格・検定試験 .....	113
・複数の英語資格・検定試験が利用可能な場合にスコアを比較する方法 .....	116
・英語資格・検定試験の有効期限 .....	117
・英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置 .....	118

# 英語資格・検定試験活用の有無（国公私）

英語の資格・検定試験の活用（活用あり+活用予定）は、一般入試で21.3%、AO入試が37.9%、推薦入試が25.7%であり、検討（検討中+検討予定）は、一般入試で35.0%、AO入試が20.8%、推薦入試が28.0%である。

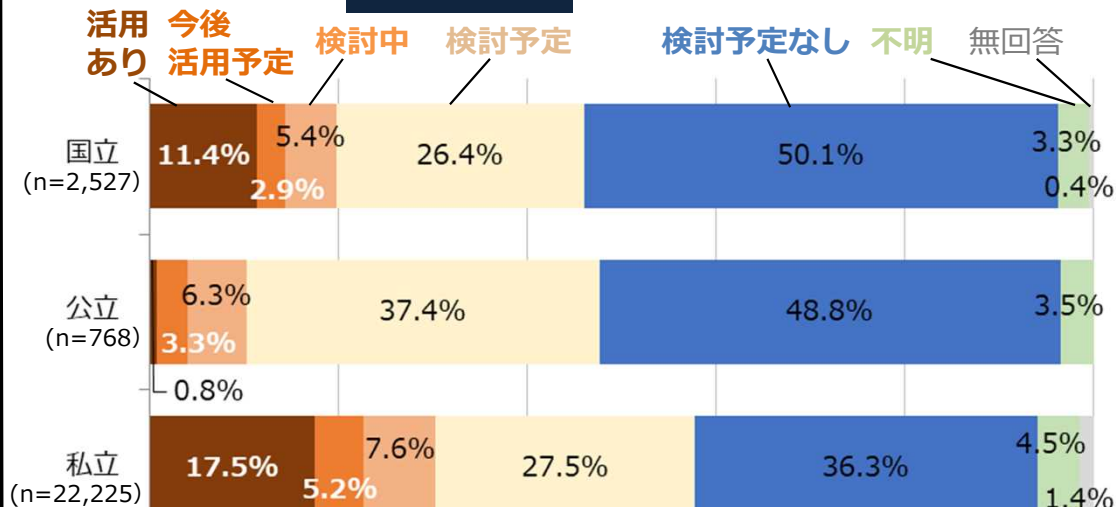
## 国公私計

(n=48,843選抜区分・単数回答)



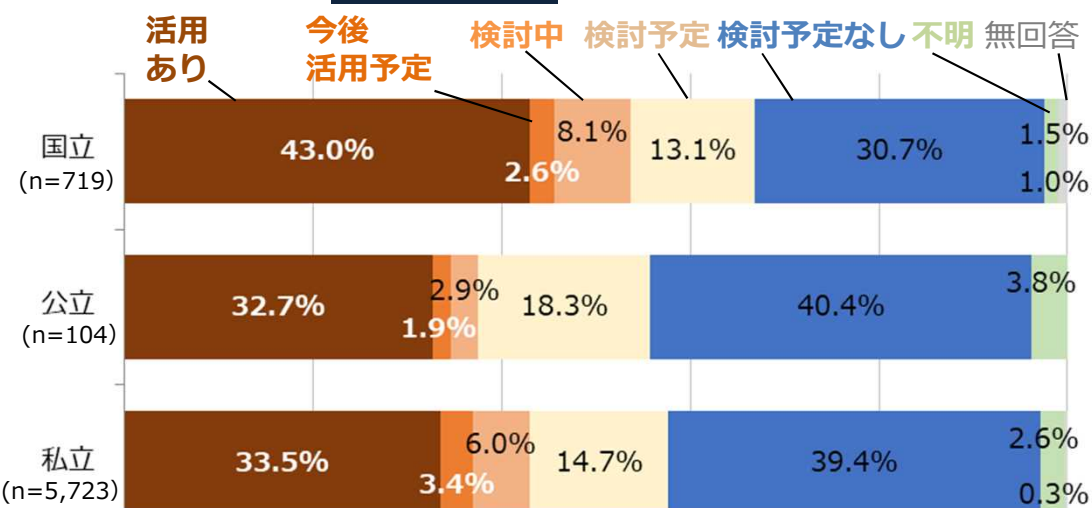
## 一般入試

(n=25,520選抜区分・単数回答)



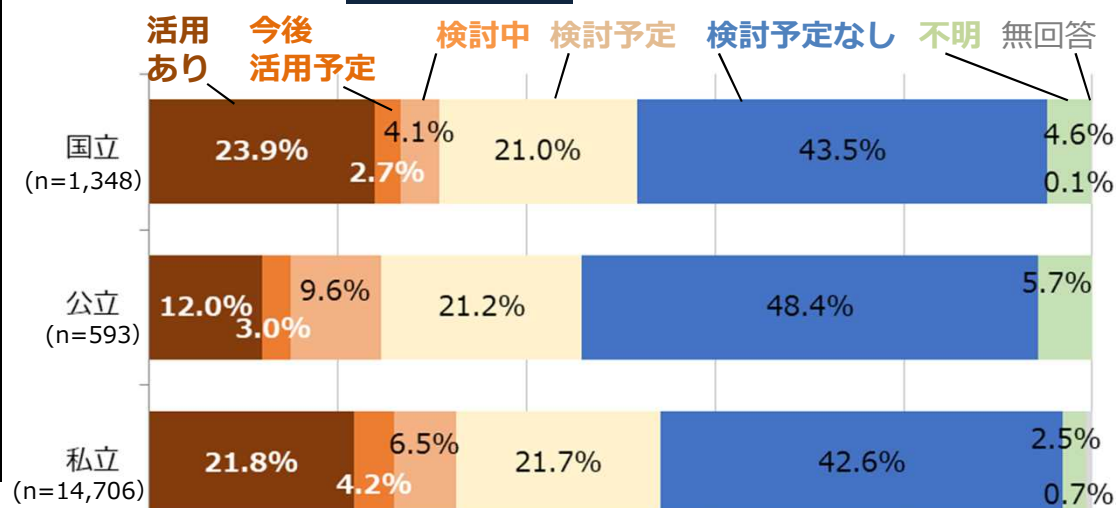
## AO入試

(n=6,546選抜区分・単数回答)



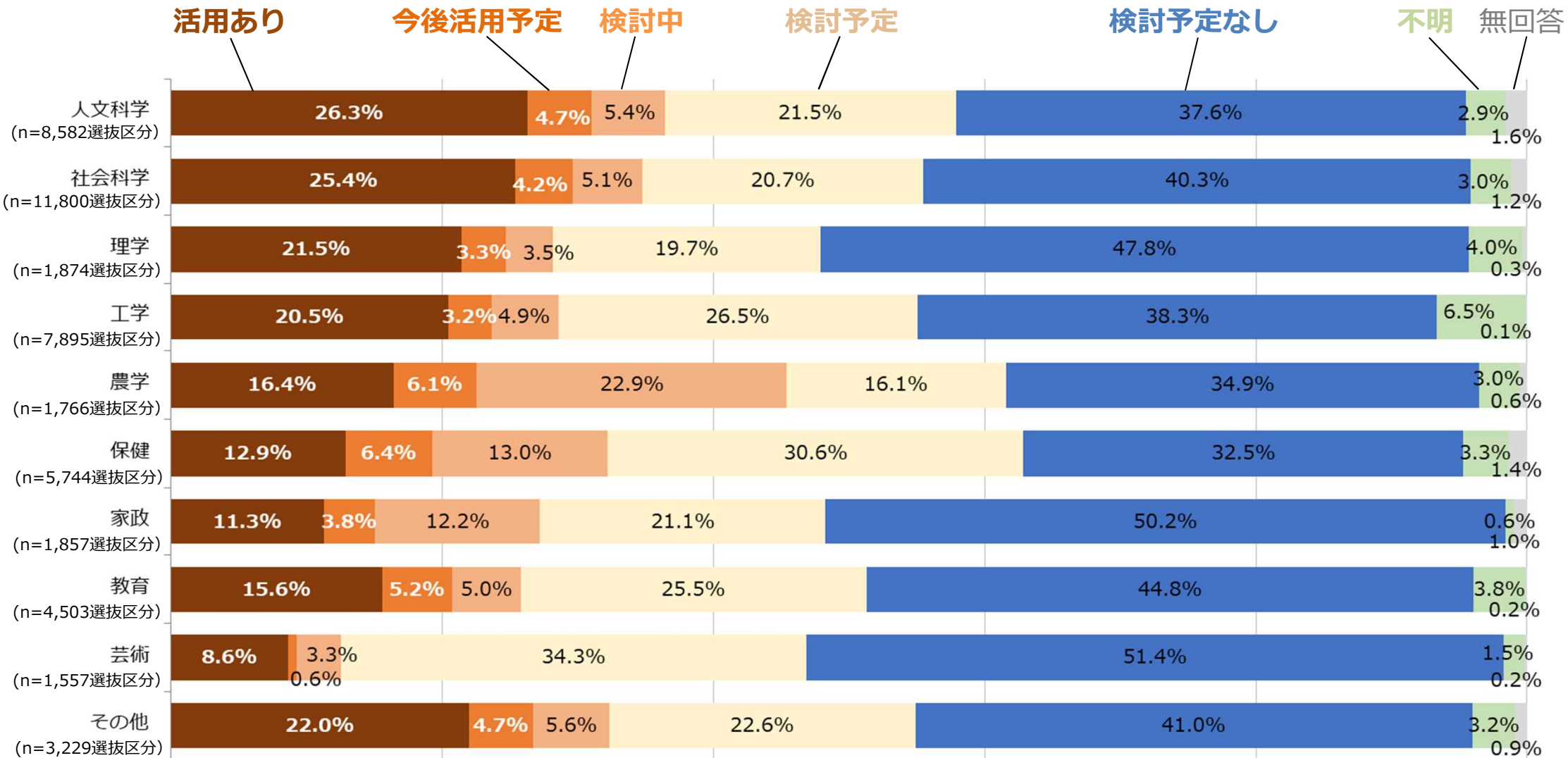
## 推薦入試

(n=16,647選抜区分・単数回答)



# 英語資格・検定試験活用の有無（学科系統分類）

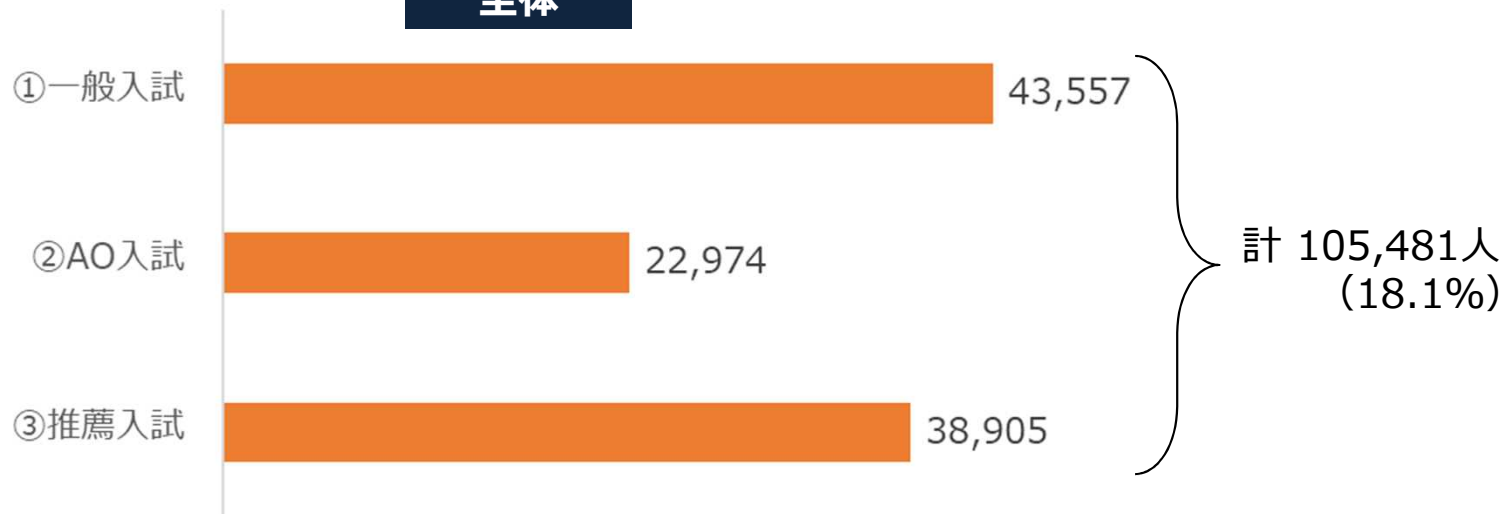
英語の資格・検定試験の活用率を学科系統分類別で見ると、活用（活用あり+活用予定）としているのが、多い順に、人文科学（31.0%）、社会科学（29.6%）、理学（24.8%）である。



# 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数

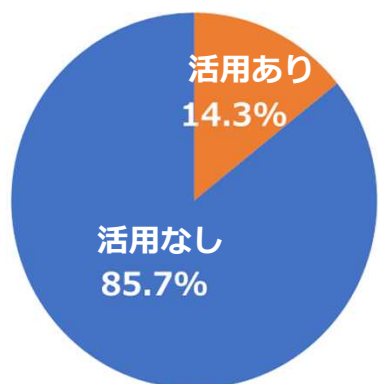
令和2年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が43,557人、AO入試が22,974人、推薦入試が38,905人の計105,481人である。

## 全体

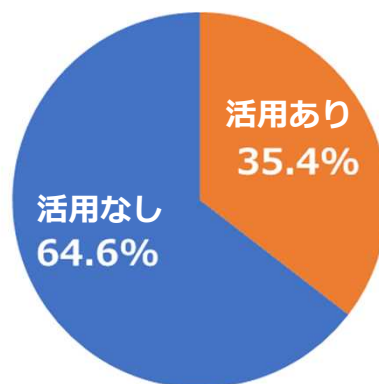


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】※ 全入学者数は延べ581,348人（うち、952人分は入試方法が無回答）

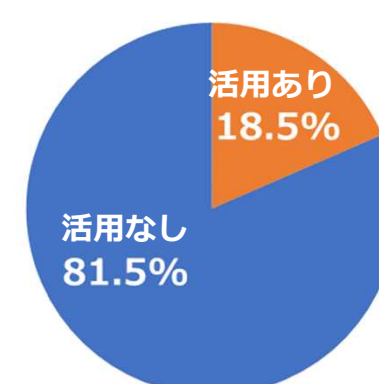
### ①一般入試 (n=305,112人)



### ②AO入試 (n=64,821人)



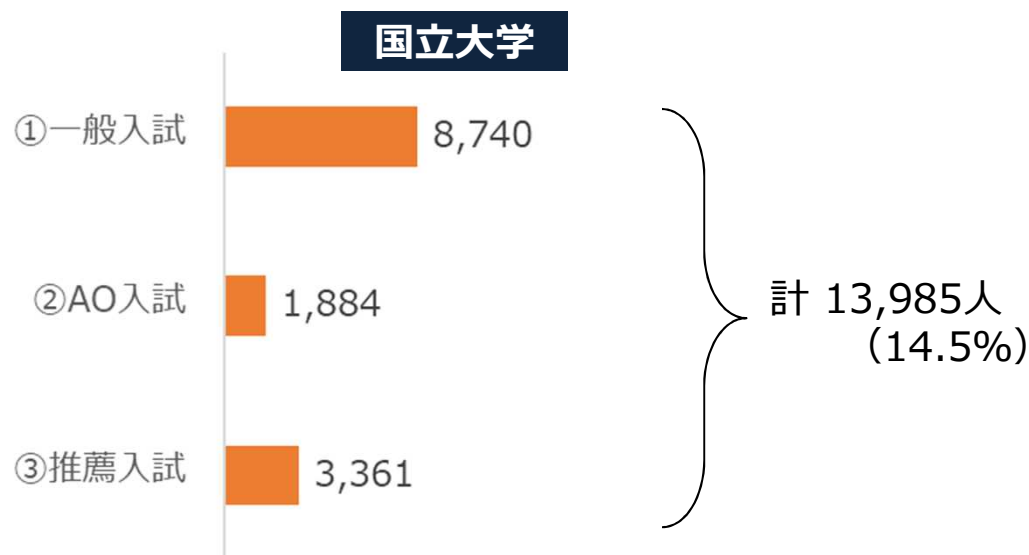
### ③推薦入試 (n=210,463人)





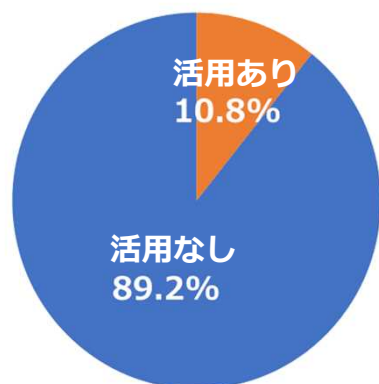
# 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（国立大学）

国立大学における令和2年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が8,740人、AO入試が1,884人、推薦入試が3,361人の計13,985人である。

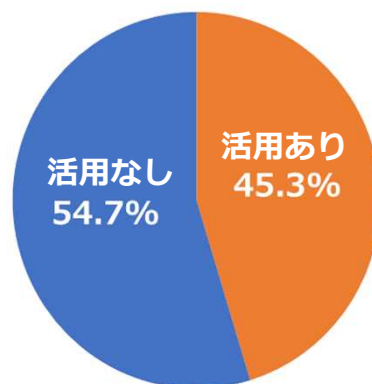


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】 ※ 全入学者数は延べ96,485人（うち、32人分は入試方法が無回答）

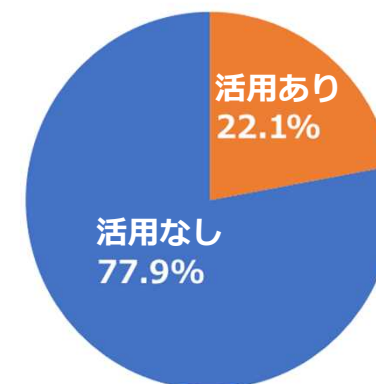
①一般入試 (n=80,321人)



②AO入試 (n=4,112人)

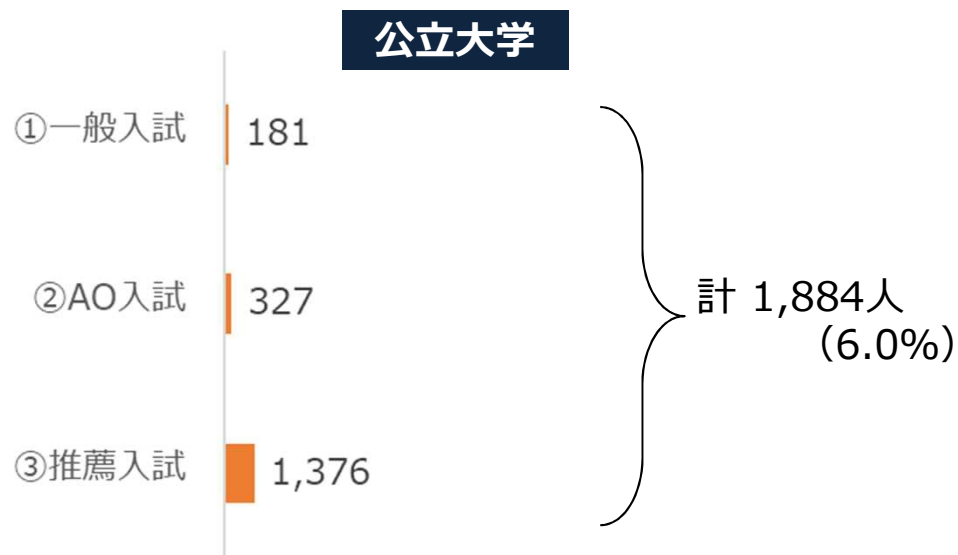


③推薦入試 (n=12,020人)



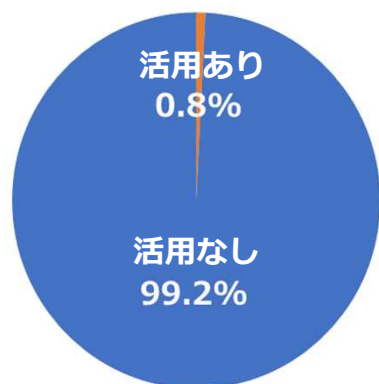
# 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（公立大学）

公立大学における令和2年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が181人、AO入試が327人、推薦入試が1,376人の計1,884人である。

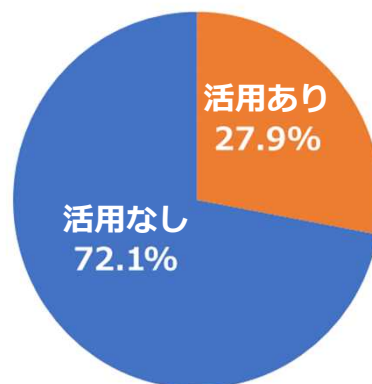


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】 ※ 全入学者数は延べ31,629人（うち、111人分は入試方法が無回答）

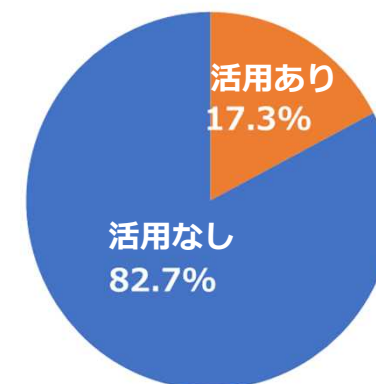
①一般入試 (n=22,645人)



②AO入試 (n=977人)

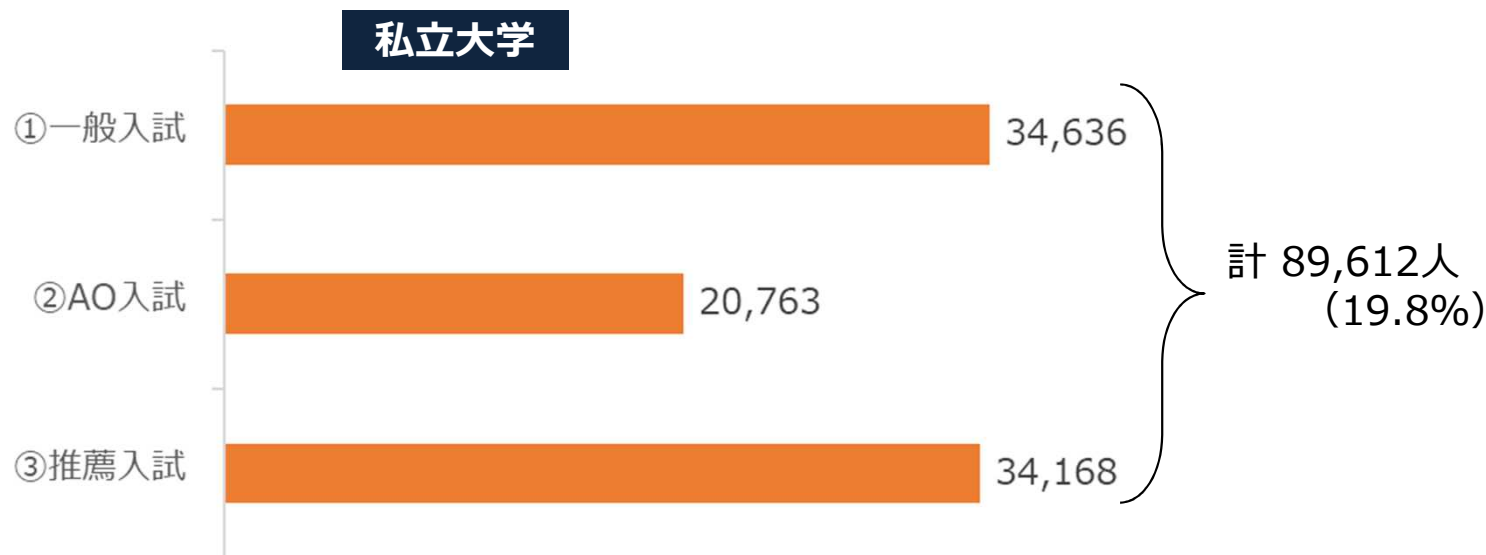


③推薦入試 (n=7,896人)



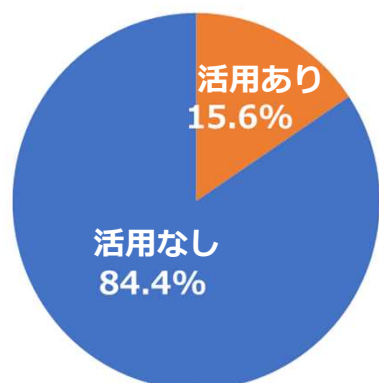
# 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（私立大学）

私立大学における令和2年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が34,636人、AO入試が20,763人、推薦入試が34,168人の計89,612人である。

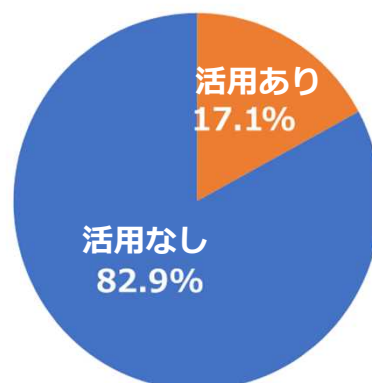


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】 ※ 全入学者数は延べ453,234人（うち、809人分は入試方法が無回答）

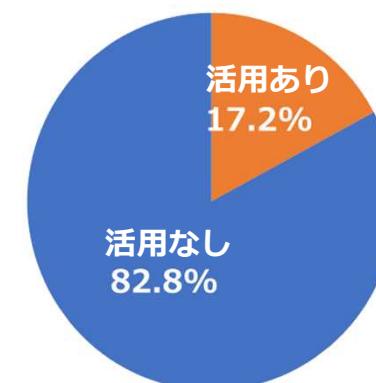
①一般入試 (n=202,146人)



②AO入試 (n=59,732人)

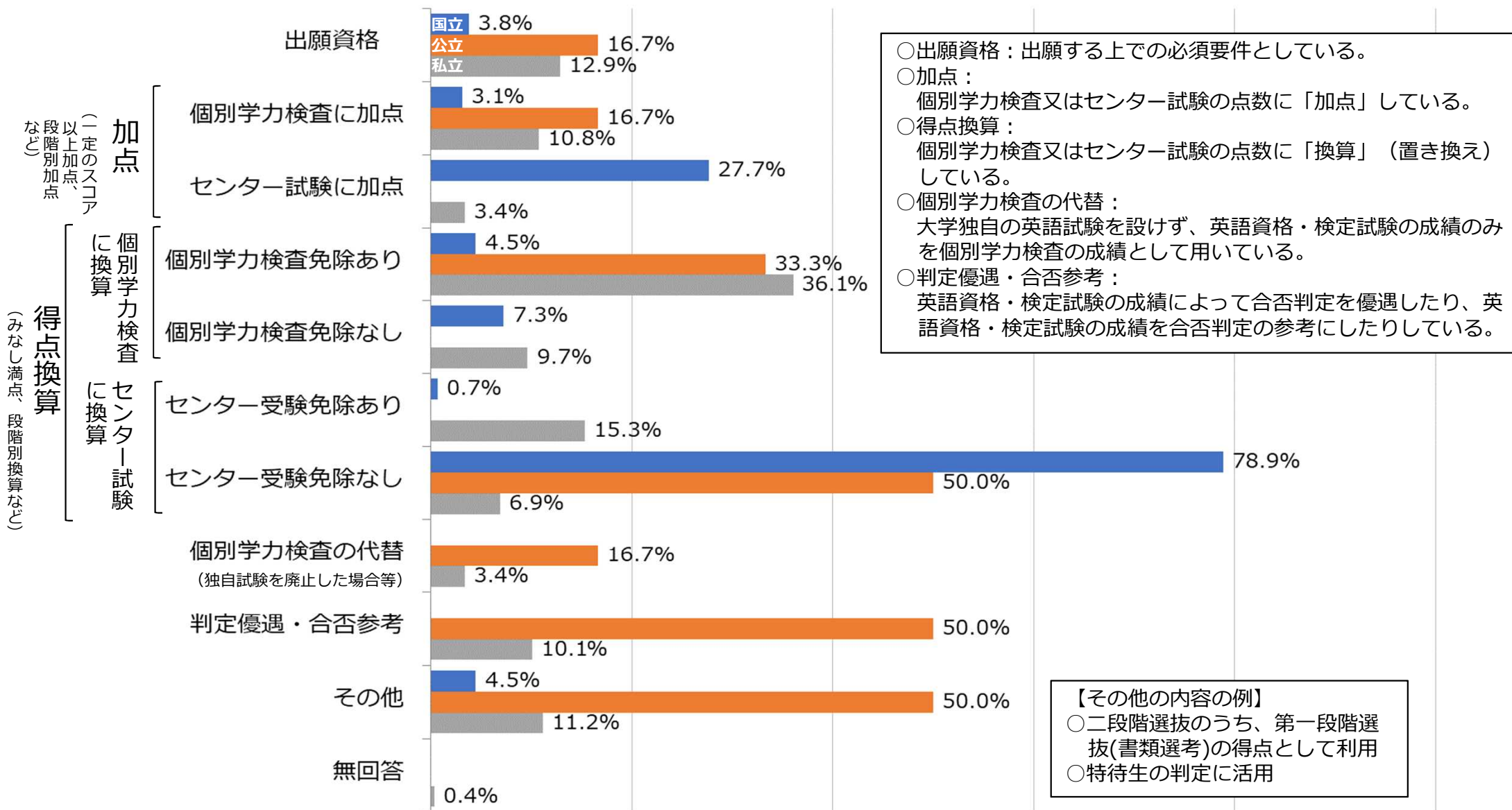


③推薦入試 (n=190,547人)



# 英語資格・検定試験活用方法（一般入試）

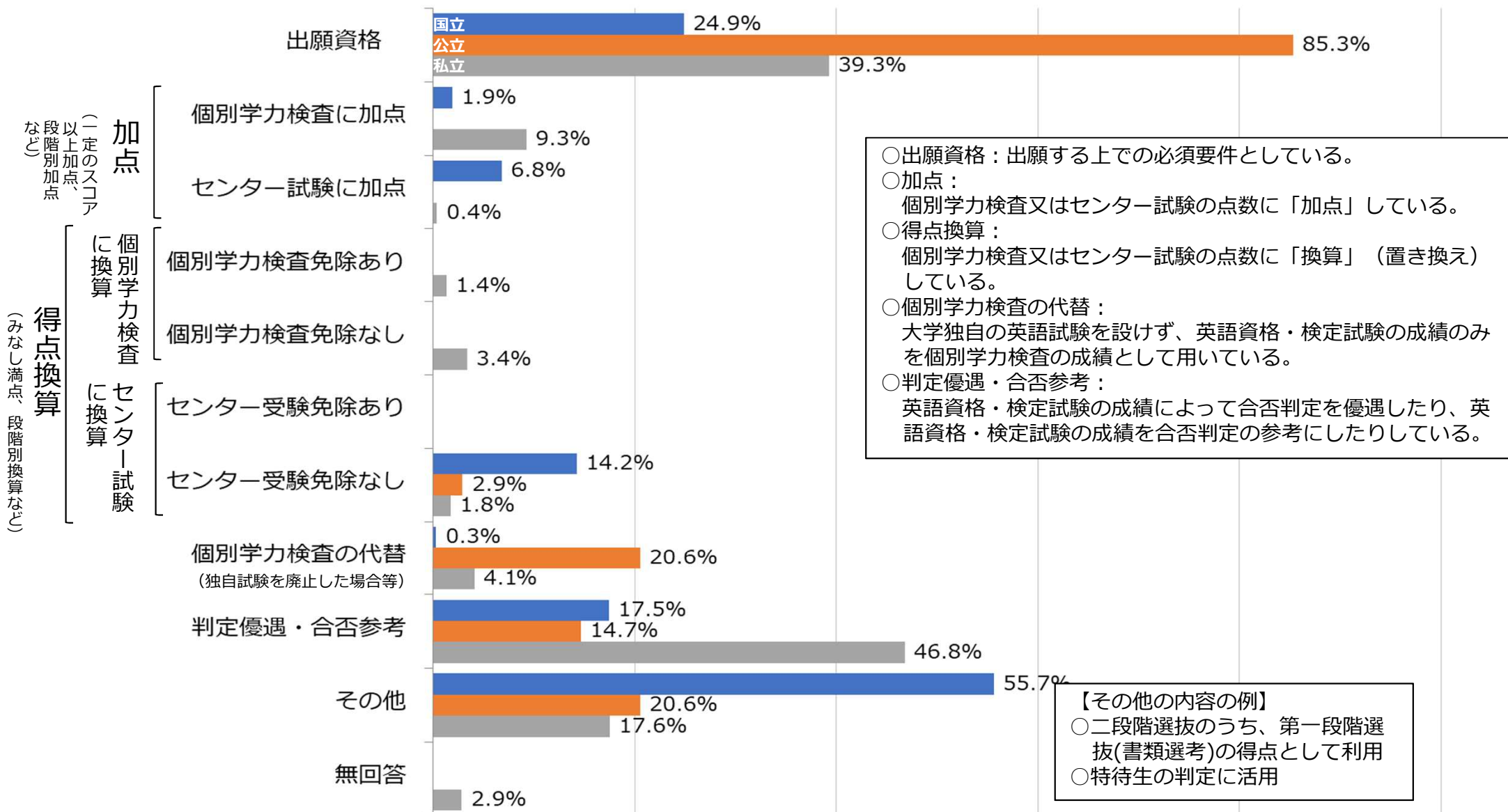
一般入試における活用方法としては、国立大学ではセンター試験に換算（免除なし）が78.9%、公立大学ではセンター試験に換算（免除なし）が50.0%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が36.1%が最も多い。



国立大学 n=289選抜区分・複数回答  
 公立大学 n=6選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=3,895選抜区分・複数回答

# 英語資格・検定試験活用方法（AO入試）

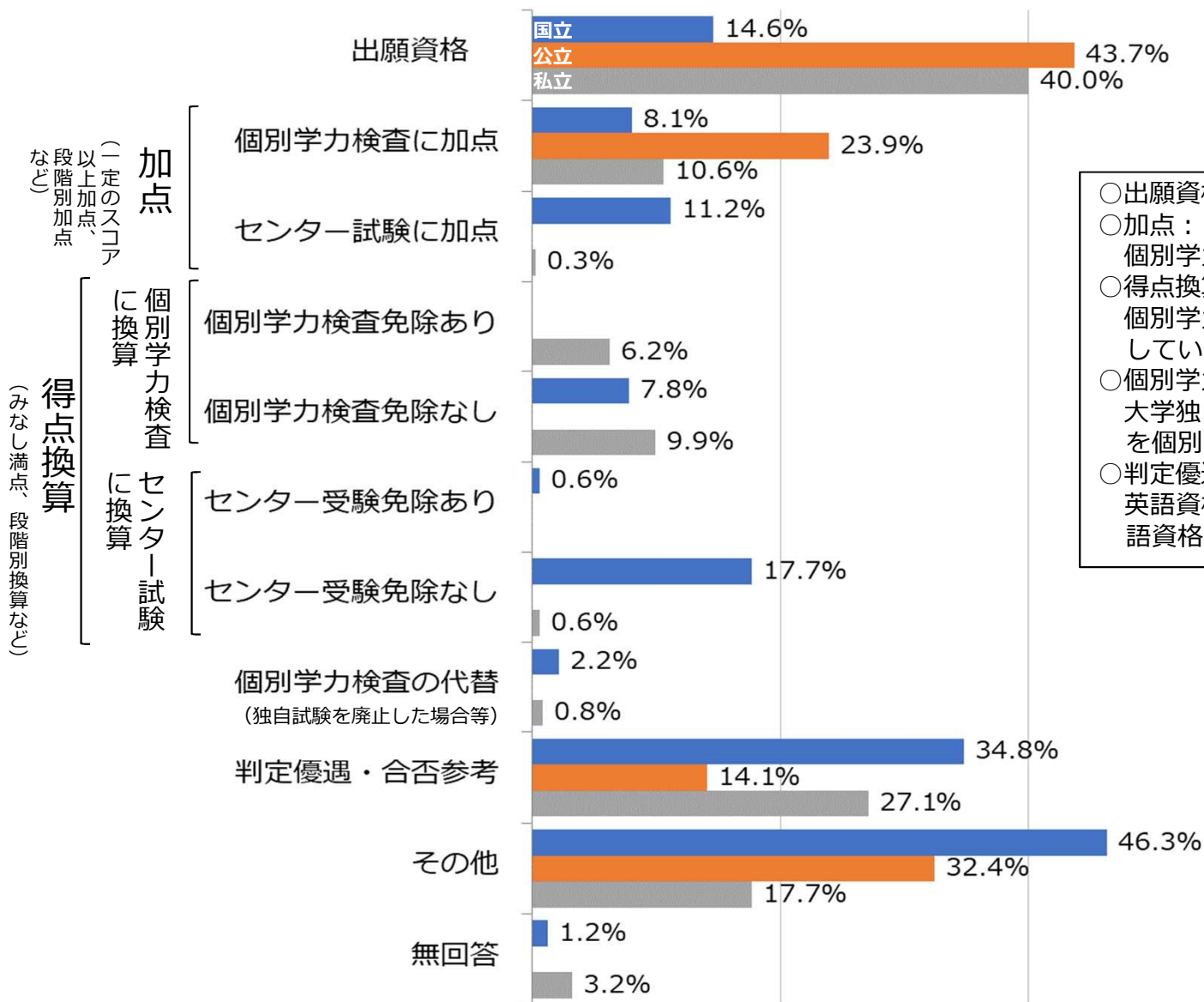
AO入試における活用方法としては、国立大学では出願資格が24.9%、公立大学では出願資格が85.3%、私立大学では判定優遇・合否参考が46.8%が最も多い。



国立大学 n=309選抜区分・複数回答  
 公立大学 n=34選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=1,919選抜区分・複数回答

# 英語資格・検定試験活用方法（推薦入試）

推薦入試における活用方法としては、国立大学では判定優遇・合否参考が34.8%、公立大学では出願資格が43.7%、私立大学では出願資格が40.0%が最も多い。

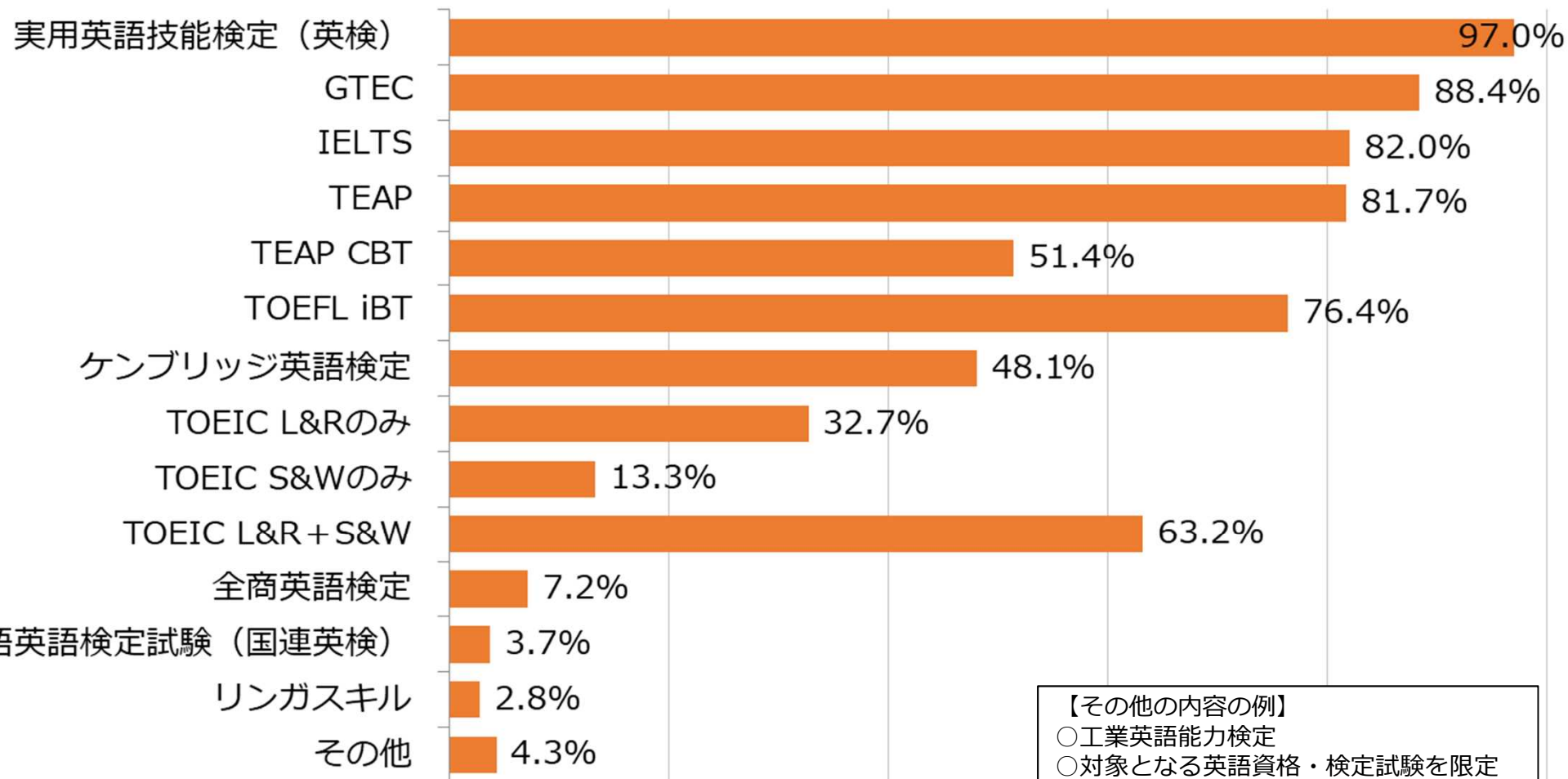


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又はセンター試験の点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又はセンター試験の点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

- 【その他の内容の例】
- 二段階選抜のうち、第一段階選抜(書類選考)の得点として利用
  - 特待生の判定に活用

国立大学 n=322選抜区分・複数回答  
 公立大学 n=71選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=3,201選抜区分・複数回答

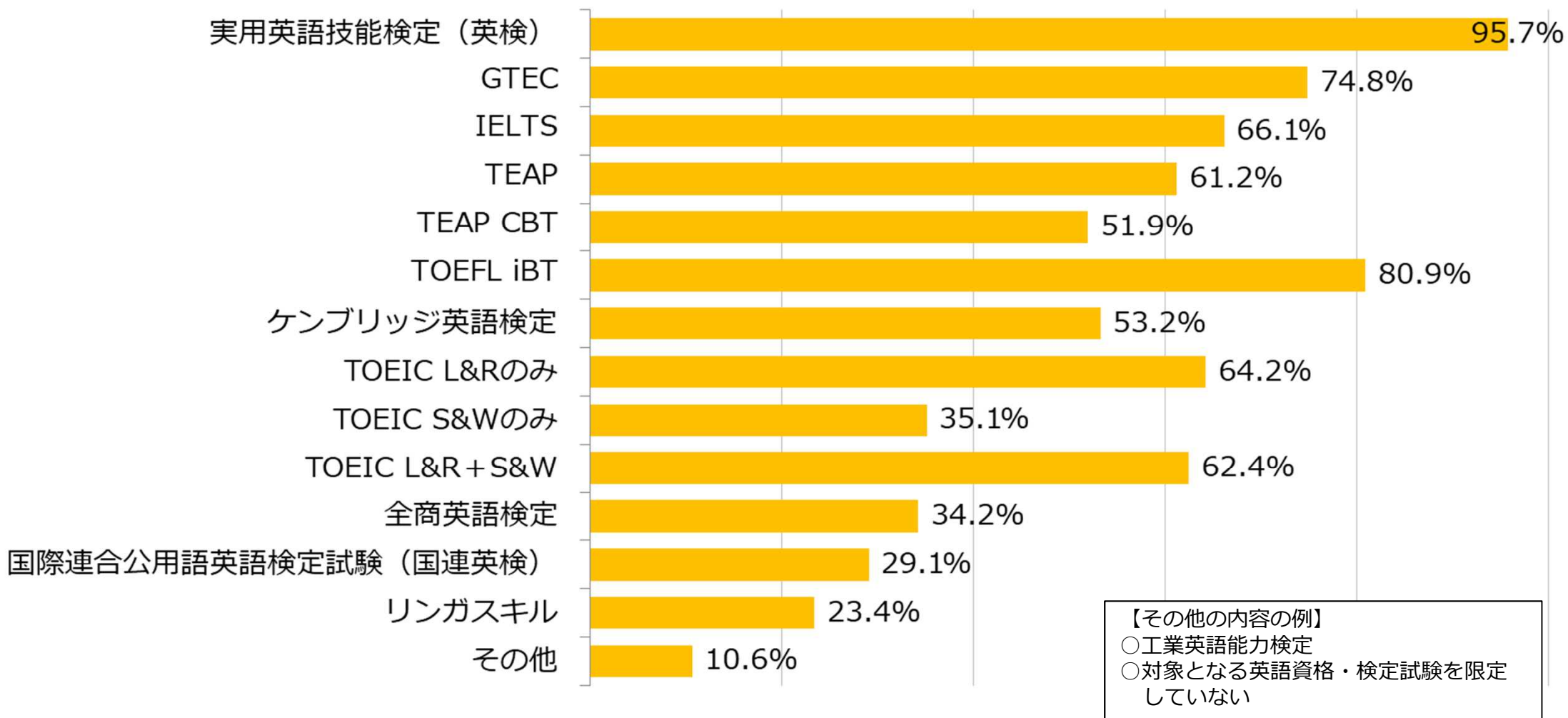
# 利用可能な英語資格・検定試験（一般入試）



【その他の内容の例】  
○工業英語能力検定  
○対象となる英語資格・検定試験を限定していない

n=4,190選抜区分・複数回答  
※国公立計

## 利用可能な英語資格・検定試験（AO入試）

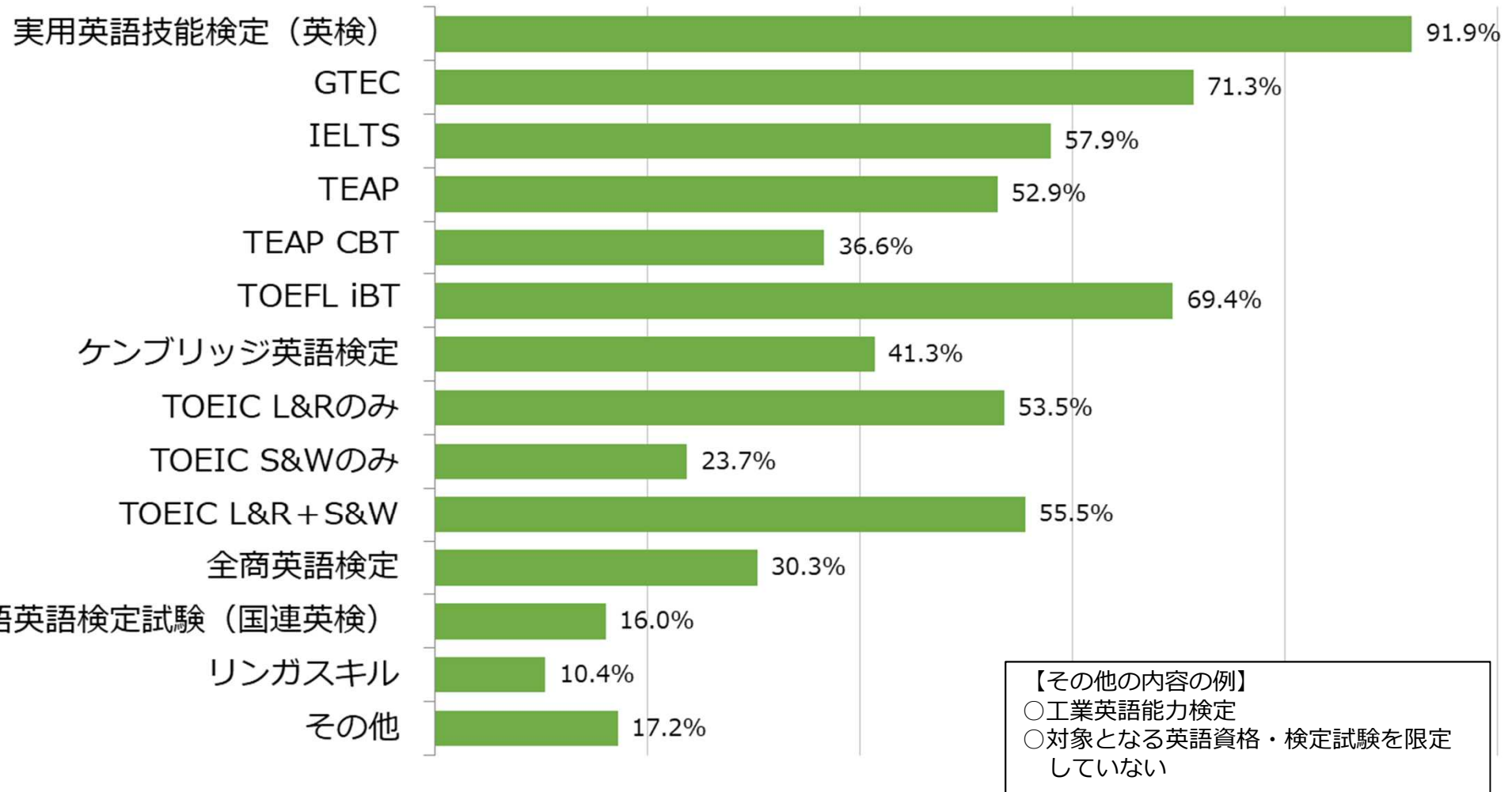


n=2,262選抜区分・複数回答

※国公立計



# 利用可能な英語資格・検定試験（推薦入試）



n=3,594選抜区分・複数回答

※国公立計

# 複数の英語資格・検定試験が利用可能な場合にスコアを比較する方法

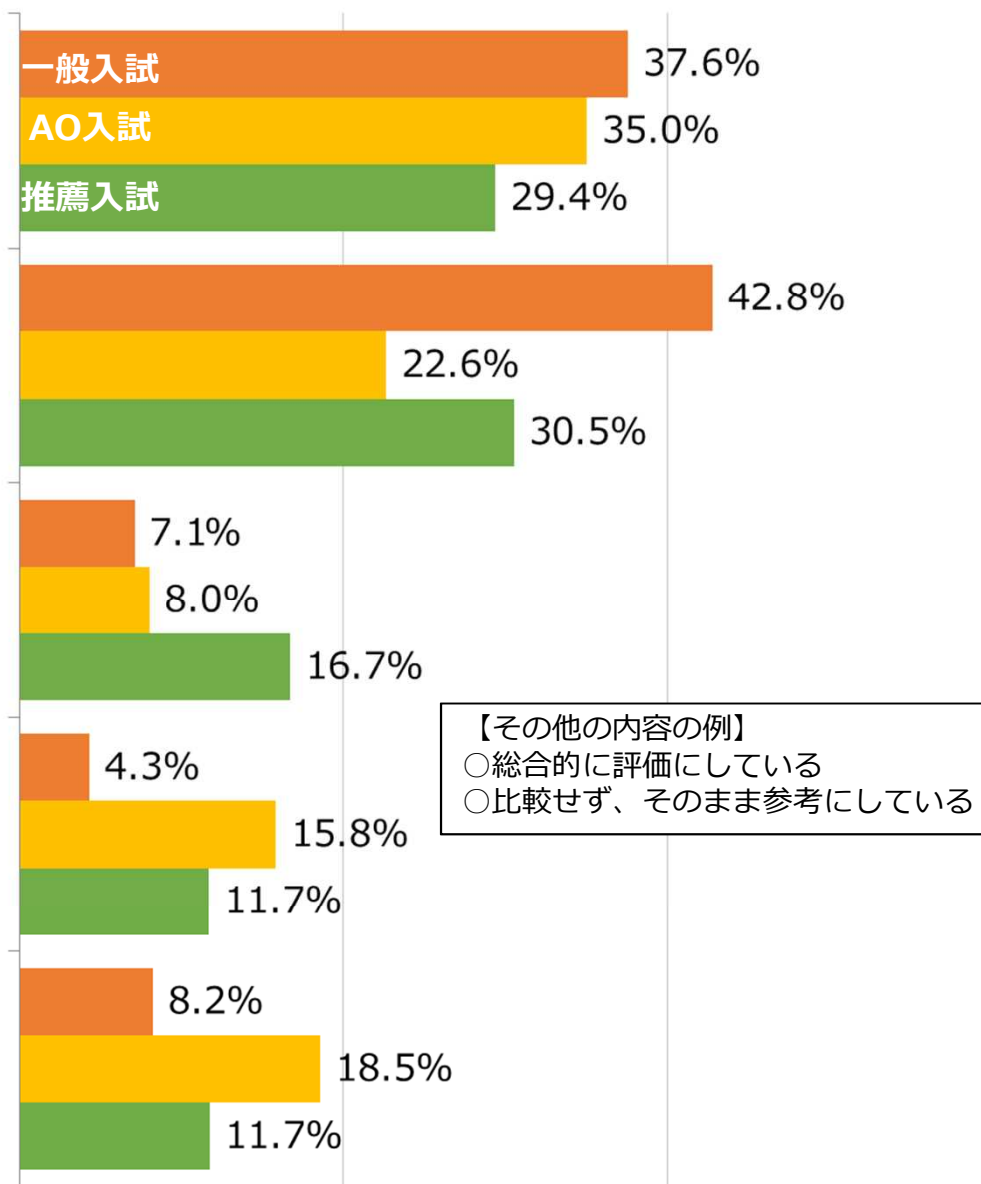
①文部科学省が示した、各資格・検定試験とCEFRの対照表を参考にしている。

②大学が独自に作成した換算表等をもとにしている。換算表等はCEFRを参考にして作成している。

③大学が独自に作成した換算表等をもとにしている。換算表等はCEFRを直接参考とせずに作成している。

④その他の方法

無回答

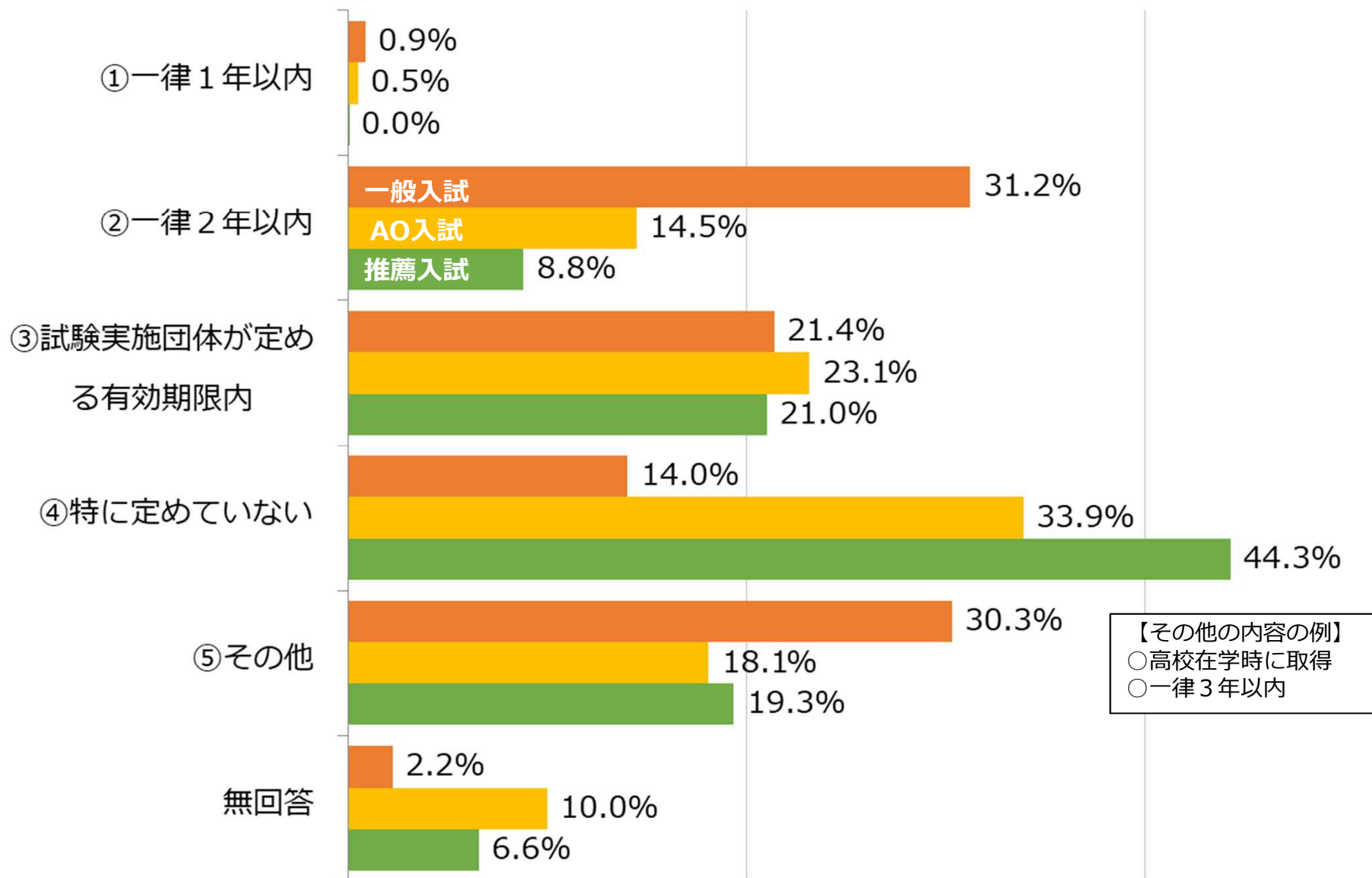


【その他の内容の例】  
 総合的に評価にしている  
 比較せず、そのまま参考になっている

一般入試 n=4,106 選抜区分・単数回答  
 AO入試 n=2,076 選抜区分・単数回答  
 推薦入試 n=3,269 選抜区分・単数回答  
 ※精査が必要な選抜区分について集計から除いている。

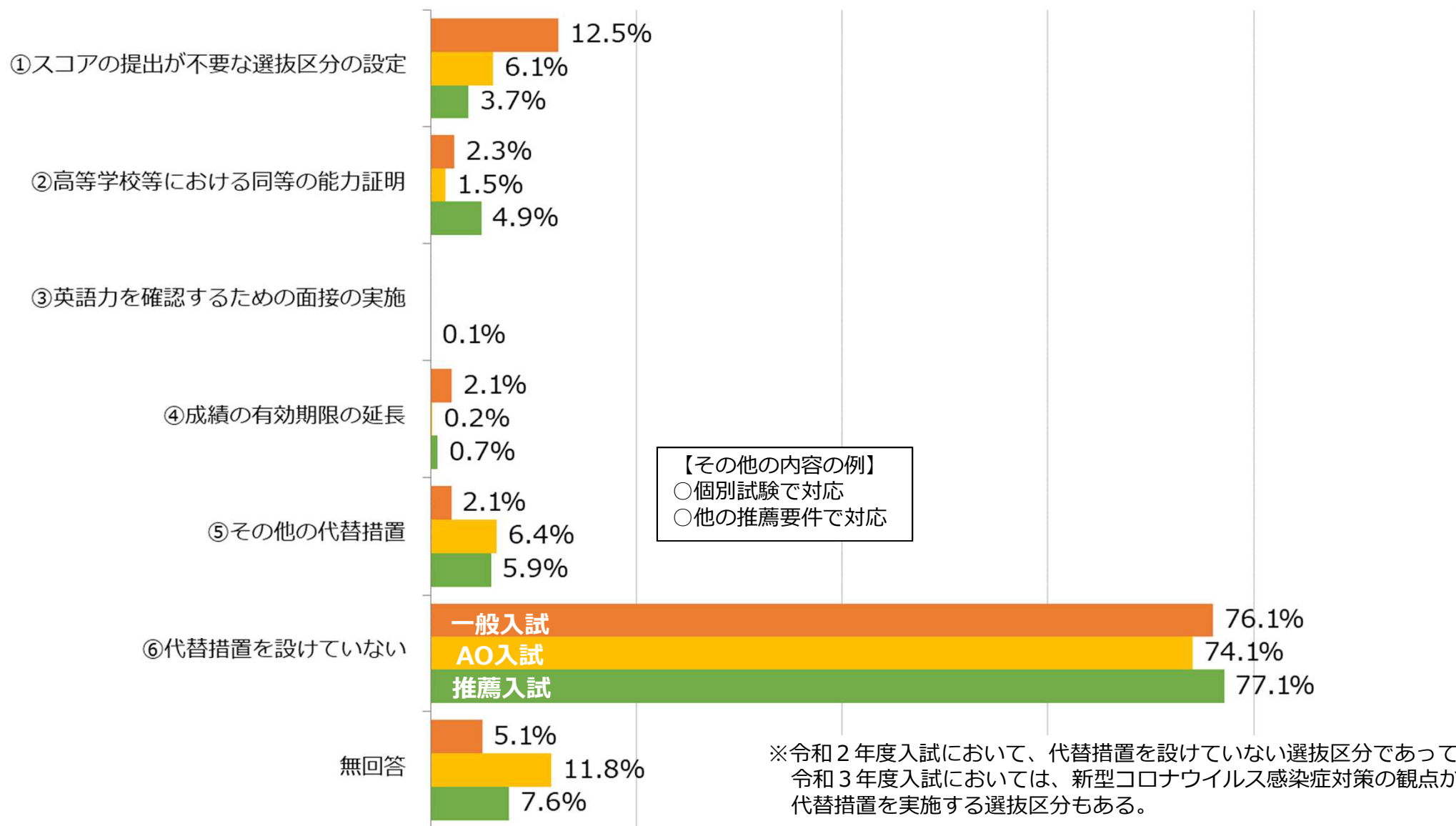
# 英語資格・検定試験の有効期限

英語資格・検定試験の有効期限は、一般入試では「一律2年以内」が31.2%、AO入試では「特に定めていない」が33.9%、推薦入試でも「特に定めていない」が44.3%で最も多い。



一般入試 n=4,190選抜区分・単数回答  
AO入試 n=2,262選抜区分・単数回答  
推薦入試 n=3,594選抜区分・単数回答

# 英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置



一般入試 n=4,190選抜区分・単数回答  
AO入試 n=2,262選抜区分・単数回答  
推薦入試 n=3,594選抜区分・単数回答